

令和 6 年度 本部事業報告書

社会福祉法人 ささゆり会

当法人は、令和 6 年度の運営スローガンとして『全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！』を掲げました。

令和 6 年度には介護報酬の改定が行われ、1.59%の増額があります。介護職員の処遇改善分には 0.98%の増額、その他の部分には 0.61%の増額が適用されましたが、それ以上に物価が上昇や光熱費の上昇で報酬分の増加では間に合わない状況です。物価高騰や光熱費上昇の影響を受ける中、各事業所で経費削減や業務効率化に取り組みました。デイサービスサンライフ魚崎では赤字から黒字転換に成功し、サンライフ土山では加算取得により収入を増加させるなど、改善事例も見られます。一方、サンライフ田寺では設備の老朽化による修繕費増加、送迎車購入などの支出増があり、引き続き経営改善が必要な状況です。

今年度、特定技能制度に基づき、インドネシア国籍の特定技能生の受け入れを行っております。当法人全体で 17 名のインドネシア人特定技能生を受け入れております。受け入れ人数の内訳は以下の通りです。介護型ケアハウスサンライフ魚崎で 3 名、特別養護老人ホームサンライフ魚崎で 1 名、サンライフ西庄で 3 名、サンライフ西庄のグループホームで 1 名、サンライフ土山で 3 名、サンライフひろみねで 1 名、サンライフ御立で 5 名となっております。

令和 6 年度には、サンライフ御立で BCP 対策として非常用自家発電設備の改修工事を実施しました。令和 7 年 1 月 20 日に工事契約を締結し、1 月 23 日に着工、3 月 31 日に竣工、4 月 1 日から稼働を開始しています。総工事費は 83,600,000 円で、そのうち 42,904,000 円を市補助金として活用しました。また、サンライフひろみねでは、熱中症対策等を目的に空調設備の更新工事を行い、令和 7 年 1 月 29 日に契約、2 月 26 日に着工、3 月 1 日に竣工し、3 月 2 日から運用を開始しました。工事費は 11,275,000 円でした。そのうち 9,357,000 円を市補助金として活用しました。

地域貢献事業としては、魚崎北部あんしんすこやかセンターによる地域でのラジオ体操や「うはら祭り」参加、甲南地域での「にぎわいフェスタ」開催など地域に根ざした活動を展開しました。サンライフ西庄ではリストランテ・ボーノの継続により地域貢献に努めています。姫路市安室地域包括支援センターでは認知症カフェを継続開催し、地域の認知症支援に取り組んでいます。

介護福祉士試験には 9 名が合格し、そのうち 2 名は外国人職員でした。また、ケアマネージャー（介護支援専門員）試験には 6 名が合格しました。引き続き、職員の資格取得に向けた支援を継続していきます。

令和6年度ささゆり会重点課題は、事業計画に挙げた下記3つの重点項目である。

- I. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - ・外国人技能実習生受け入れ
- II. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - ・業務の無駄を可視化し業務改善
 - ・施設のDX化
- III. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - ・新卒者、中途者採用促進の為、専門担当者の配置推進
 - ・技能実習生、特定技能生の採用と育成
 - ・虐待防止対策の推進

以下、令和6年度の事業推進結果を主要運営の経緯・施設経営と介護サービス・会議と大別して、その概要を報告する。

1.主要運営の経緯

I. 定款の変更と諸規程の改正

R6.6.11 定款変更について

R6.6.11 社会福祉法人ささゆり会諸規定の制定について

R6.8.2 社会福祉法人ささゆり会資産運用規程の改定について

R6.8.2 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について

R6.9.13 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について

R7.1.24 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について

R7.3.17 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について

2.施設経営と介護サービス

- I. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - 特定技能実習生の受け入れと段階的な育成システムの構築
- II. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - ケアカルテシステムを導入し、端末所持による記録入力の効率化
 - YouTube活用による業務効率化とサービス向上
- III. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - 心理面のサポートや業務効率化による職員の負担軽減
 - 虐待防止対策

IV. 地域貢献事業等の推進（介護実習等）

姫路事業所

受 入 先	延べ人数
姫路市医師会看護専門学校	84
兵庫県徳誠会歯科衛生士学校	15
姫路保育福祉専門学校	10
龍野北高等学校	6
神戸医療未来大学	4
姫路ハーベスト医療福祉専門学校	2
聖路加国際大学 〈認定看護師教育課程〉	1

合計 122

魚崎事業所

受 入 先	延べ人数
兵庫県立総合衛生学院	14
日本栄養専門学校	14
魚崎中学校（トライやるウィーク）	7

合計 35

ふれあい子供食堂（リストランテ・ヴォーノ西庄）

開催日	5/9	6/3	7/8	9/12	10/10	11/14	12/12	1/9	3/13
子供参加者人数	13	11	11	13	11	12	18	10	12
ボランティア 参加者人数	8	11	11	12	8	10	3	9	8

V. 職員の資格取得への取組について

・介護福祉士

サンライフ御立ケア	富士原 瑞穂
サンライフ御立デイ	奥井 陽子
グループホーム西庄	光橋 みどり
サンライフ土山短期	来田 貴子
岡田小規模多機能	三木 彩子
デイサービス岡田	黒坂 隆重
デイサービス田寺	赤松 和美
サンライフ魚崎	ダオ ティ カイン フェン
ケアハウス魚崎	ドアン フォック アイン
合計	9 名（内外国人 2 名）

・ケアマネージャー

デイサービス岡田	安達 ゆか
安室地域包括支援センター	岡崎 智美
デイサービス安室	長澤 絵美
サンライフひろみね	中田 萌
グループホーム西庄	松本 記佳
サンライフ魚崎	丸山 莉佳
合計	6 名

3. 会議

定款の変更、規定の改正、事業計画及び事業報告、会計予算及び決算、介護に関する業務の執行状況や財産状況の整理のため、以下の会議を行った。

I. 監事会・理事会・評議員会

会議名	内 容	期 日	場 所
第 1 回監事会	1. 令和 5 年度事業報告・決算などの監査	R6.6.4	御立 2 F 会議室
第 1 回理事会	第 1 号議案 令和 5 年度事業報告書について 令和 5 年度会計決算報告について 令和 5 年度監査報告について 第 2 号議案 福祉充実残額、充実計画の上程議案について 第 3 号議案 定款変更について 第 4 号議案 会計監査人の報酬額について 第 5 号議案 定時評議員会の開催日時、場所及び上程議案について 第 6 号議案 管理者の変更について 第 7 号議案 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 第 8 号議案 投資について 第 9 号議案 役員等の雇用慣行賠償責任保険の加入について その他 報告事項	R6.6.11	
定時評議員会	第 1 号議案 定款変更について 第 2 号議案 福祉充実残額、充実計画について 報告事項 令和 5 年度事業報告について 令和 5 年度会計決算報告について 令和 5 年度監査報告について その他	R6.6.26	御立 2 F 会議室
第 2 回理事会 (書面決議)	第 1 号議案 福祉充実残額、充実計画について 第 2 号議案 令和 6 年度第 1 回臨時評議員会の開催日時、場所、議題等について	R6.7.11	

第1回臨時評議員会（書面決議）	第1号議案 福祉充実残額、充実計画について（変更）	R6.7.17	
第3回理事会	第1号議案 社会福祉法人ささゆり会資産運用規程の改定について 第2号議案 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 第3号議案 保険積立金の変更について 第4号議案 介護型ケアハウスサンライフ魚崎 床更新工事競争入札について その他 報告事項	R6.8.2	御立2F 会議室
第4回理事会（書面決議）	第1号議案 改善状況の記載内容訂正について 第2号議案 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について	R6.9.13	
第5回理事会（書面決議）	第1号議案 非常用発電設備整備工事事業における設計・監理業者の業者選定について	R6.10.25	
第2回監事会	1. 上半期事業推進状況の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題	R6.11.29	御立2F 会議室
第6回理事会（書面決議）	第1号議案 非常用発電設備整備工事事業における一般競争入札の公告方法、公告事項の決定について	R6.12.4	
第7回理事会	第1号議案 令和6年度上半期事業報告について 令和6年度上半期会計決算報告について 令和6年度上半期監事監査報告について 第2号議案 令和6年度第1次補正予算（案）承認について 第3号議案 元ひろみね入居者様との和解合意書の承認について 第4号議案 資産運用委員の変更及び資産運用について 第5号議案 （ひろみね駐車場用）土地購入の承認について 第6号議案 第2回臨時評議員会の開催日時、場所、議題等について 第7号議案 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 第8号議案 管理者の変更について 第9号議案 サンライフひろみねの空調改修工事設計監理業者の選定について その他 報告事項	R6.12.9	魚崎 会議室
第2回臨時評議員会	第1号議案 令和6年度第1次補正予算（案）承認について	R6.12.18	御立2F 会議室

	その他 報告事項 令和6年度上半期事業報告について 令和6年度上半期会計決算報告について 令和6年度上半期監事監査報告について その他		
第8回理事会 (書面決議)	第1号議案 入札参加業者の決定について 第2号議案 サンライフひろみね 空調改修工事における一般競争入札の公告方法、公告事項の決定について	R6.12.18	
第9回理事会	第1号議案 「サンライフ御立 非常用発電機整備工事」入札落札予定価格決定について 第2号議案 「サンライフひろみね 空調改修工事」入札参加業者の決定について 第3号議案 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 第4号議案 「サンライフ御立 非常用発電機整備工事」入札結果の公表及び工事請負契約の締結承認について その他 報告事項	R7.1.8	御立2F 会議室
第10回理事会	第1号議案 「サンライフひろみね 空調改修工事」入札落札予定価格決定について 第2号議案 「サンライフひろみね 空調改修工事」入札結果の公表及び工事請負契約の締結承認について 第3号議案 土山、ひろみねにおける利用者様への暴行の件の弁護士費用及び弁護士顧問料の増額について その他 報告事項	R7.1.24	御立2F 会議室
第11回理事会	第1号議案 令和6年度法人・拠点区分会計第2次補正予算案承認について 第2号議案 令和7年度事業計画案・会計予算案承認について 第3号議案 第3回臨時評議員会の開催日時、場所及び上程議案について 第4号議案 資産運用について 第5号議案 管理者の変更について 第6号議案 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 第7号議案 役員賠償保険の更新について その他 報告事項	R7.3.17	御立2F 会議室
第3回臨時評議員会	第1号議案 令和6年度法人・拠点区分会計第2次補正予算案承認について	R7.3.27	御立2F 会議室

	第2号議案 令和7年度事業計画案・会計予算案承認について その他 報告事項		
--	--	--	--

II. 介護保険推進委員会

会 議 名	内 容	期日	場所
第1回介護保険推進委員会	令和6年度上半期事業推進状況報告と課題検討	中止	
第2回介護保険推進委員会	令和7年度事業計画の策定案について	中止	

特別養護老人ホームサンライフ御立 令和6年度 事業報告書

令和6年度のささゆり会経営スローガンである「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を基の一つひとつの問題に全員で取り組み、日々業務改善を図れるよう、生産性向上・業務の標準化に努めた。あわせて質の高いサービス提供に向け、ガバナンス強化を図り、コンプライアンス遵守できるよう、全介護・看護への研修の徹底に向け、実施方法、各種指針・マニュアルの見直しを行った。

今年度は、コロナ感染症だけでなく、ここ数年落ち着いていたインフルエンザの季節外れの流行やマイコプラズマ肺炎の流行もあったが、感染対策に尽力し、施設での蔓延は避けることができた。ご家族がご利用者と面会することで安心感が得られるよう、時期的に一時的な面会中止対応は行ったが、ご利用者の安全面に配慮しながら、できる限り面会実施に努めた。ご家族だけでなく、職員の生活状況、行動範囲も変わってきているため、適宜感染症対策の内容を状況に応じ改定しながら、徹底していきたい。

職員の介護技術および資質向上への取り組みとしては、虐待防止研修（事例検討）を2ヶ月に1度実施（同月に同じ内容を4回実施し全職員が出席できるよう配慮）や定期的な理事長による講義も交え実施することで、高齢者虐待防止及び身体拘束廃止の意識を高めることができた。また、オンラインや対面研修にも積極的に参加するよう努め、班会議でのフィードバックを実施することができた。実践として、各専門職の協力を得て、随時技術指導を仰ぎ実践に活かせるよう取組んだ。今後も専門職を含め各研修への参加を促し、研修で得た知識・技術を現場にて伝達研修行い、指導、助言するなど役立てていきたい。

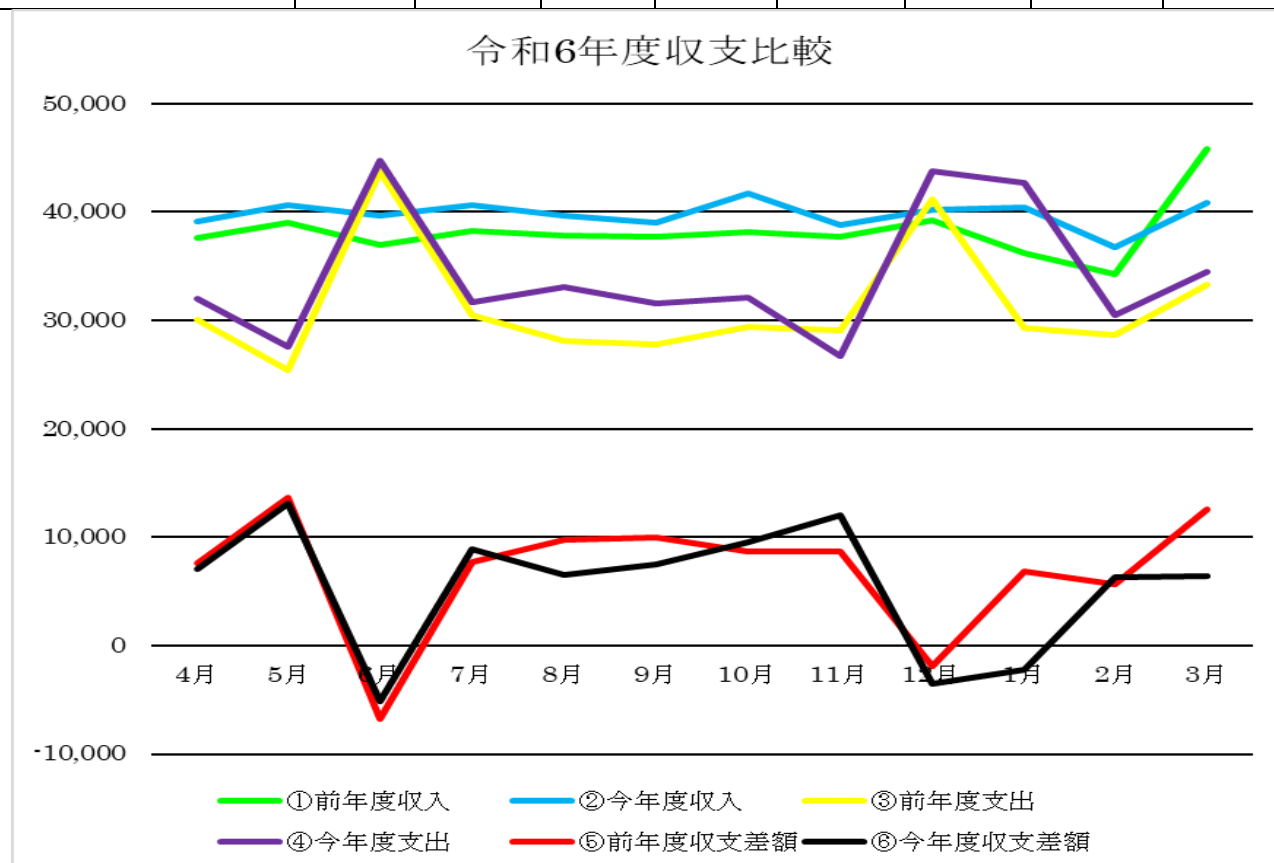
5S活動については、毎月各班で実施した箇所をリーダー会議にて報告するようにした。職員一人ひとりが意識的に整理整頓や安全が担保されるよう環境整備に取り組む姿が確認できるようになったが、その状態を継続し、さらに良い状態に改善するという行動には至っておらず、同じような箇所と同じような取組みをしている現状がある。在庫管理に関しても、「余裕をもって置いておこう」という考え方が抜けきらない部分があるため、ムダ・ムラ・ムリのない環境を徹底できるよう取組んでいきたい。

今年度外国人職員の退職はなかったが、来年度の特定技能生への移行を技能実習生6名全員が辞退したこと、初代の技能実習から特定へ移行していた1名がそのメンバーと共に帰国の意思を示したことで、全7名の帰国（退職）が決定している。外国人職員の流出に伴う日本人職員のモチベーションの低下は否めない。指導やフォローが実を結び、モチベーションアップにもつながるよう、また外国人職員が継続して姫路地域で働くモチベーションに繋がる環境整備に努めたい。

収入としては、確実に取得可能な加算算定や状態変化に伴う区分変更を定期的実施し、前年度比104.93%とすることは出来たが、上半期、下半期とも入院者数が多く、昨年度の1.3倍となり、年間平均96.80%と目標を大きく下回った。医務とショートステイと連携を図り、効果的かつ効率的なベッドコントロールに努めたい。支出としては、人件費、物価高騰による食材費や水光熱費等の上昇やケアカルテ導入に伴う支払いもあり、昨年度比109.17%となり、収支差額は前年比80.70%となった。今後の人件費確保のためにも、適正人員でサービス提供ができるよう、介護技術の向上に向けた研修を実施し、業務の効率化・標準化に努めたい。

1. 年間収支比較
(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計	比率
①前年度収入	37,668	39,063	36,959	38,270	37,841	37,762	227,563	—
②今年度収入	39,090	40,650	39,671	40,683	39,624	39,060	238,778	104.93%
③前年度支出	30,065	25,441	43,735	30,507	28,105	27,785	185,638	—
④今年度支出	31,983	27,552	44,763	31,739	33,100	31,589	200,726	108.13%
⑤前年度収支差額	7,603	13,622	-6,776	7,763	9,736	9,977	41,925	—
⑥今年度収支差額	7,107	13,098	-5,092	8,944	6,524	7,471	38,052	90.76%
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
①前年度収入	38,121	37,717	39,273	36,202	34,320	45,825	459,021	—
②今年度収入	41,685	38,789	40,223	40,482	36,778	40,891	477,626	104.05%
③前年度支出	29,422	29,042	41,164	29,294	28,674	33,257	376,491	—
④今年度支出	32,141	26,734	43,780	42,709	30,492	34,439	411,021	109.17%
⑤前年度収支差額	8,699	8,675	-1,891	6,908	5,646	12,568	82,530	—
⑥今年度収支差額	9,544	12,055	-3,557	-2,227	6,286	6,452	66,605	80.70%



2. 利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
令和 5 年度	2,954	3,043	2,870	3,012	3,012	2,963	17,854
令和 6 年度	2,955	3,043	2,948	3,012	2,931	2,895	17,784
前年度差	1	0	78	0	-81	-68	-70
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 5 年度	3,015	2,872	2,953	3,030	2,880	2,063	34,667
令和 6 年度	3,035	2,854	2,975	2,955	2,690	3,031	35,324
前年度差	20	-18	22	-75	-190	968	657

(単位：人)

3. 稼働率

(単位：%)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
R5 年度実績	98.47%	98.16%	95.67%	96.84%	97.16%	98.77%	97.51%
R6 年度実績	98.81%	98.16%	98.27%	97.16%	94.55%	96.50%	97.24%
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
R5 年度実績	97.26%	95.73%	95.26%	97.74%	99.31%	98.81%	97.43%
R6 年度実績	97.90%	95.13%	95.97%	95.32%	96.07%	97.77%	96.80%

4. 入院日数

(単位：日)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
令和 5 年度	39	57	133	113	90	33	465
令和 6 年度	88	68	127	79	198	4	564
前年度差	49	11	-6	-34	108	-29	99
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 5 年度	86	147	146	73	15	43	975
令和 6 年度	61	142	133	139	115	102	1256
前年度差	-25	-5	-13	66	100	59	281

5. 特養空床数

(単位：床)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
令和 5 年度	37	53	125	101	86	32	434
令和 6 年度	54	52	49	86	138	110	489
前年度差	17	-1	-76	-15	52	78	55
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 5 年度	81	139	138	68	13	41	914
令和 6 年度	59	137	127	132	107	95	1146
前年度差	-22	-2	-11	64	94	54	232

6. 事故分類別発生数 (単位：件)

	A	B	C	合計
合計	3	8	182	193

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

A ランク内容：左大腿骨頸部骨折、橈骨・尺骨骨折、誤嚥(各 1 件)

B ランク内容：左下腿裂傷、右眼瞼裂創、左下腿挫傷・裂傷、バルーンチューブ(各 1 件)

7. 退所者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
看取り介護	1	2	1	2	4		10
病院	1		1	1	1	1	5
急死							0
その他							0
合計	2	2	2	3	5	1	15
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
看取り介護	4	2	1	2		1	20
病院	2		4	2			13
急死							0
その他							0
合計	6	2	5	4	0	1	33

サンライフ御立ショートステイ 令和6年度 事業報告書

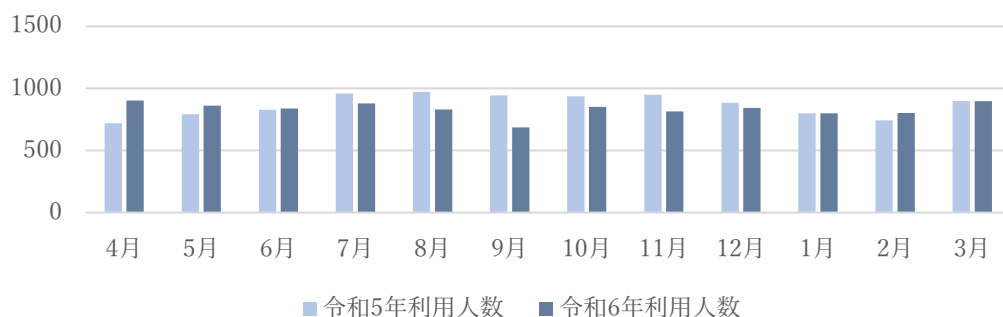
「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を基盤とし、言われたからするのではなく自ら考え動いていけるように全員の意識を高めていけるよう取り組んだ。年間を通して、5S活動など業務効率化を目指し、整理整頓はかなり定着してきたと感じる。一方、対利用者様としては、利用時の忘れ物や、ケアの抜けといった基本的な事が出来ていないことがあり、毎月のフロア会議で情報共有やシステム作りについて取り組んだ。7月から導入したケアカルテについては、端末を所持することで以前よりも記録入力がしやすくなり、記録にかかる時間の短縮は実感している。申し送り機能を活かしさらに情報共有すること、インカムをもっと使いこなすことが課題である。

昨年度に比べ事故は減っているが、これはどのような方が利用しているかによるところも大きい。入院に至る骨折事故は3件発生してしまった。対策したことが実施できていなかったり、行動予測によって防止できた事故もあった。職員に事故防止したいという意識はあっても、具体的にどのようにするのか、どう対策を徹底するのかを考える必要がある。

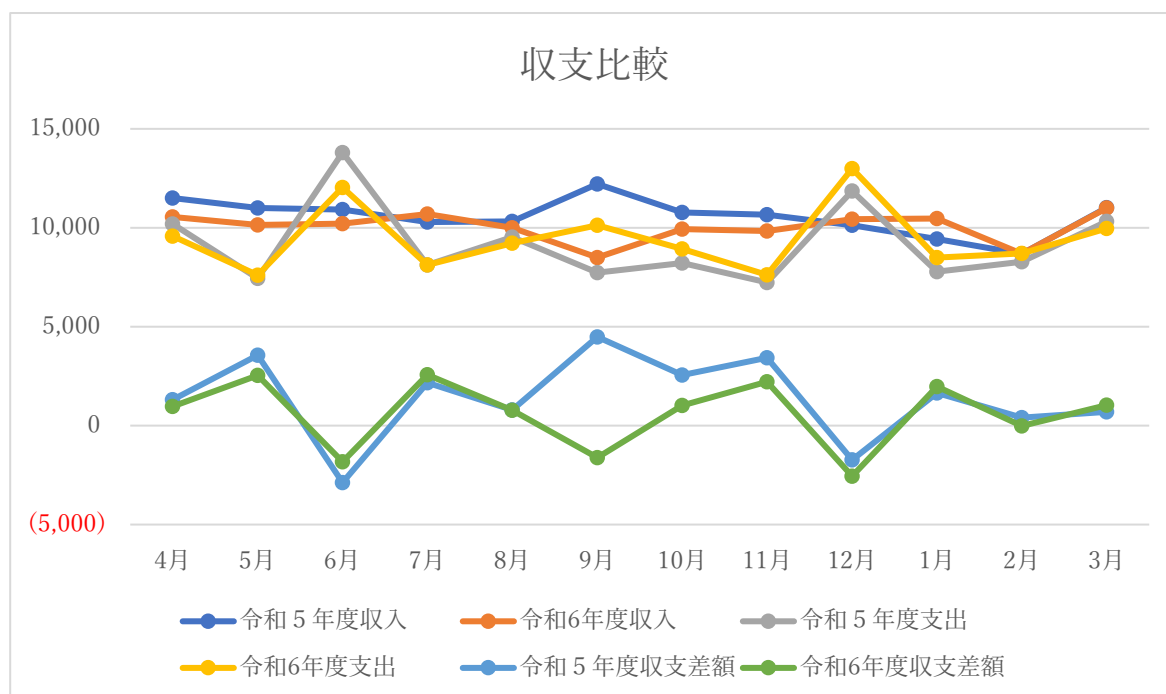
9月に職員、利用者様に複数名コロナが発生、ロング利用者の方はフロア内で療養され、うち2名が入院となった。約10日間にわたってキャンセルが相次ぎ大きく収入が減少した。今に限ったことではないが、ロングから特養へ移行する方が連続すると、待機者の受け入れが間に合わず空床が続いてしまう。特養主任、看護師でも面談に行ってもらい常に待機者を複数名キープしスムーズに移行していきたい。経年劣化で故障、交換が必要な物が多く支出が年々増えている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和5年利用人数	719	791	828	960	972	944	5,214
令和6年利用人数	903	861	839	879	831	686	4,999
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年利用人数	936	949	884	799	742	899	10,423
令和6年利用人数	851	814	844	799	803	899	10,009

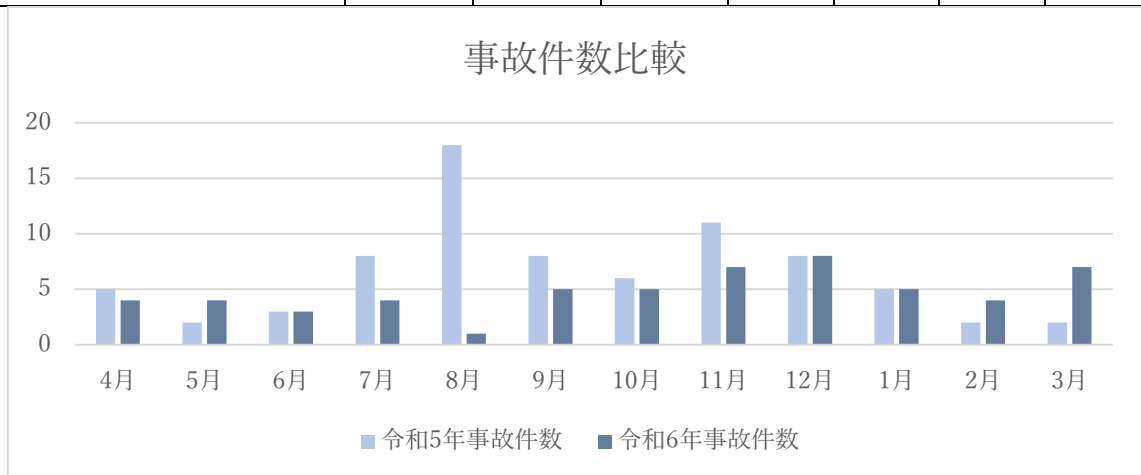
利用人数比較



	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和5年度収入	11,502	11,002	10,924	10,294	10,315	12,214	66,251
令和 6 年度収入	10,543	10,143	10,203	10,694	9,998	8,499	60,080
令和5年度支出	10,186	7,442	13,801	8,125	9,528	7,730	56,812
令和 6 年度支出	9,570	7,608	12,034	8,124	9,221	10,123	56,680
令和5年度収支差額	1,316	3,560	- 2,877	2,169	787	4,484	9,439
令和 6 年度収支差額	973	2,535	-1,831	2,570	777	- 1,624	3,400
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和5年度収入	10,772	10,667	10,122	9,432	8,682	11,014	120,769
令和 6 年度収入	9,940	9,838	10,437	10,474	8,682	10,995	120,446
令和5年度支出	8,218	7,239	11,851	7,780	8,285	10,323	110,508
令和 6 年度支出	8,923	7,624	12,990	8,500	8,698	9,963	113,378
令和5年度収支差額	2,554	3,428	-1,729	1,652	397	691	10,261
令和 6 年度収支差額	1,017	2,214	- 2,553	1,974	-16	1,032	7,068
令和 5 年度と令和 6 年度の収入比率							100%
令和 5 年度と令和 6 年度の差額比率							69%



	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 5 年事故件数	5	2	3	8	18	8	44
令和 6 年事故件数	4	4	3	4	1	5	21
前年度比較	-1	2	0	-4	-17	-3	-23
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 5 年事故件数	6	11	8	5	2	2	78
令和 6 年事故件数	5	7	8	5	4	7	57
前年度比較	-1	-4	0	0	2	5	-21



	A	B	C	合計
4月			4	
5月			4	
6月			3	
7月			4	
8月			1	
9月		1	4	
10月	1		4	
11月			7	
12月	1		7	
1月			5	
2月	1		3	
3月			7	
計	3	1	53	57

A:入院加療を要する事故

- ・自分で動ける方がベッドから起きようとして転落、恥骨骨折
- ・自立の方が落ちたものを拾おうとして転倒、大腿骨骨折
- ・要介助の方が移乗時に捻ったか（詳細不明、後から痛みで判明）足首骨折

特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

令和 6 年度 年間事業報告

今年度経営スローガン『全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！』のもと、看護師 1 人 1 人の責任感と問題解決能力の育成を目指した。具体的には、各委員会や契約等をトップダウンで進めるのではなく担当で割り振り、自主性を尊重する形をとった。結果的に、個々人で自発的な発言・行動が徐々に増加してきており、来年度以降も継続していきたい。

1. 各委員会活動

I. 褥瘡

今年度は、QC サークルが褥瘡予備軍を減らす事をテーマに活動していたこともあり、褥瘡委員会も協働してサンライフ御立の褥瘡の判断基準を見直し、指針の改定やマニュアルの作成を行った。日頃の陰部洗浄時に可能な限り看護師も一緒にラウンドすることにより早期発見・早期対応に向けて注力した。しかし、結果として年間褥瘡発生数は 28 件、月平均 2.3 人と前年度（月平均 2.4 人）と比べて大きな改善は見られなかった。

II. 看取り

今年度では、新規看取り同意者は 19 名、看取りケア実施者は 24 名だった。看取りケア実施者については前々年度 14 名、前年度 21 名と比較しても着実に増加してきており、家族への継続的な働きかけが数字として表れている。今後も利用者の状態や家族の意向に合わせて看取り介護を推奨し、利用者・家族にとって理想的な最期を迎えられるよう援助していきたい。

III. 感染症

① 施設内感染症予防の徹底

R6 年度、施設内でコロナウイルス感染症が合計 38 日間発生した。陽性者は隔離対応を講じたが、厚労省が定める最低限の隔離期間とし、以降はフロアで席を離しての対応を行った。結果的に、廃用症候群等 ADL 低下や入院に繋がったケースはなく、それらにより感染拡大した印象もなかった。来年度以降も職員の感染予防を徹底し感染症発生を防ぐとともに、陽性者発生時では利用者の体調に合わせて隔離期間の短縮を目指していきたい。

② 感染症及び食中毒の予防についての演習の充実。

R6 年 4 月より義務付けされた施設内の感染症が発生した場合の演習を計画・実施し

た。しかし、今回は施設内でのインフルエンザやコロナウイルスの流行時期と重なり、感染症委員会の中だけでの演習開催に留まってしまった。来年度では各フロア職員をはじめ特養・ショート職員など少しずつ演習の参加範囲の拡大を目指していきたい。

③ 感染症個別マニュアルの修正。

今年度では、施設内で発生・流行するリスクがある感染症への対策・予防マニュアルを刷新した。来年度以降では、海外職員等の理解力を考慮しながら、更に自施設に沿った形に修正していきたい。

2. ベッド稼働率の維持（経営力強化）に向けて

今年度の平均ベッド稼働率は96.80%、入院件数は44件、入院延べ日数は1206日であった。稼働率は昨年の97.41%と比べ悪化し、入院件数、延べ日数もそれぞれ増大する結果となってしまった。前年度の反省から、内科的疾患での受診先を厚生病院から主にマリア病院に変更したが、平均入院日数が27.4日/人と前年度（26.3日/人）より増加する形となった。

原因としては、加害行為や自傷行為出現による薬剤調整のため精神科病院への入院が2件あり、平均入院延べ日数は57日/人が影響していると考ええる。近年、ロングショートでも精神疾患や認知症の周辺症状で介護度が高くなっている利用者も多く、特養入所以降すぐに精神科往診が必要となるケースも増えている。可能な範囲でロングショートの期間で調整し事前に対応できるよう、ショート職員と共に家族協力を呼び掛けていきたい。

3. 職員の健康増進

夜勤者特定業務を含む健康診断、腰痛検査、ストレスチェックを規定通り実施した。健康診断では、今回より採血検査項目にCEAやPSA等の各種腫瘍マーカーを追加できたことで、より一層疾病の早期発見に寄与できる環境になったと考える。例年通り要精査、要受診と診断があった職員に対しては、書類を作成・配布し受診に向けて引き続き啓発活動を行った。今後の課題としては、婦人科健診や人間ドック希望者の増加に伴い、医師会訪問時での健康診断人数が減少しているため、御立やひろみね以外での人数確保を進めていく必要がある。

4. 虐待防止対策について

今年度の法人主催の研修は滞りなく全員が参加することができた。介護現場では海外職員割合の増加も影響し、土日や遅出・夜間帯の救急対応をはじめ、対応が困難な事案も増えてきている。これらの背景から職員の不安や緊張を軽減すべく、担当者会議等で積極的にコミュニケーションを図り、可能な範囲で早期受診・看取りの提案を心掛けた。

特別養護老人ホームサンライフ御立(厨房)

令和 6 年度 報告書

1. 人材の定着・育成

今年度は 2 人の新入職員の入職があり、年度初めは仕事に慣れていないことや、退職する職員からの引継ぎがあり、残業時間がやや多くなってしまった。しかし、仕事の引継ぎが落ち着き、業務にも慣れたことで、残業は徐々に減りつつある。また、職員全員が全ての勤務帯をこなせることで、急な休みの対応、負担の分散にもつながった。

ショートの入退所は社員だけでなく、全職員が把握できるようにすることで間違いは減少傾向にあり、また急な入退所変更などにも対応できるようになった。しかし、夕食まで召し上がってから退所する方の食事を出していない事が多くあったため、細かい注意事項も確認するように職員全員に周知していきたい。

2. 献立の充実

入居者からの要望もあり、赤飯・うな重・寿司だけでなく、カレーも月に 1 度取り入れるようにした。また、特養職員と協力し、月に 1,2 度リクエスト献立を取り入れ、食事に満足度の向上を図った。焼きそばや、ラーメン、お好み焼きを実施した。これらを継続し、食事をさらに喜んでもらえるものにしていきたい。また、米や野菜・肉類と食材の価格高騰が続いている。調味料の見直しや、納品業者の見直しなどを行い、献立の質を落とさずに、食材料費の高騰を抑えられるようにしていきたい。

3. 衛生管理

今年度も食中毒や異物混入、食器の破損などの報告はなかった。この状態を維持できるように、引き続き意識付けを徹底していきたい。

厨房内を清潔に保てるように手の空いた職員が掃除をするように努め、食中毒の害虫の発生を防いでいきたい。

4. 栄養マネジメント

人員不足はやや改善されたが、ミールラウンドに十分な時間さけていない。まとまった時間をつくれるように職員の動きや、時間配分を工夫していきたい。

ほのぼのからケアカルテにソフトが変更になり、使い慣れず LIFE の入力ミスが多くあった。見直しの方法などを検討し、より正確に作成できるように努めていきたい。

デイサービスセンター サンライフ御立

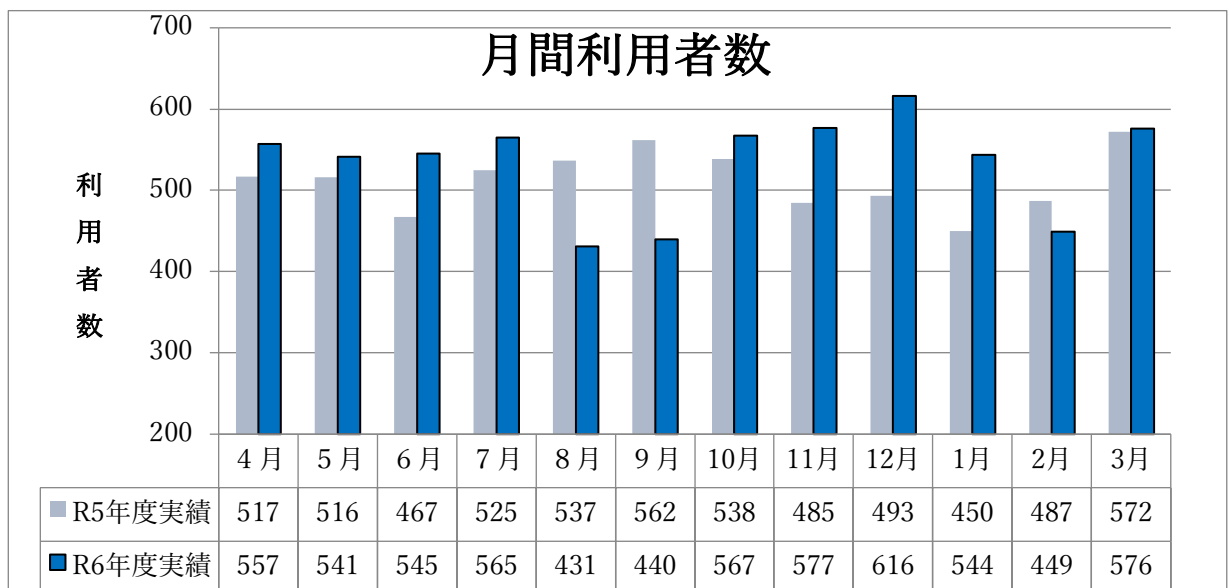
令和6年度 事業報告書

令和6年度は、『全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！』のスローガンを基に、一人で考えずに職員全員で話し合える職場環境づくりを目指し取り組んできた。施設内研修にも力を入れ、職員の質や介護技術の向上を目指しご利用者様・ご家族様が安心してデイサービスを利用していただけよう職員の質の向上にも努めた。

レクリエーションでは、音楽レクリエーションに力を入れ楽しみながら健康を維持できるようサービス提供に努めた。外出レクリエーションも定期的に取り入れ身体を動かす機会を増やし心身ともに活性化に繋げる事ができた。

定期的に居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへ営業を行い、事業所のウリを伝えたり、近隣の住宅にポスティングを行ったり折り込みチラシを入れる事によって新規利用者様の紹介・獲得へ繋げる事が出来た。利用者の方との関わる時間を増やし利用満足度アップへ繋げていきたい。

1. 利用者数

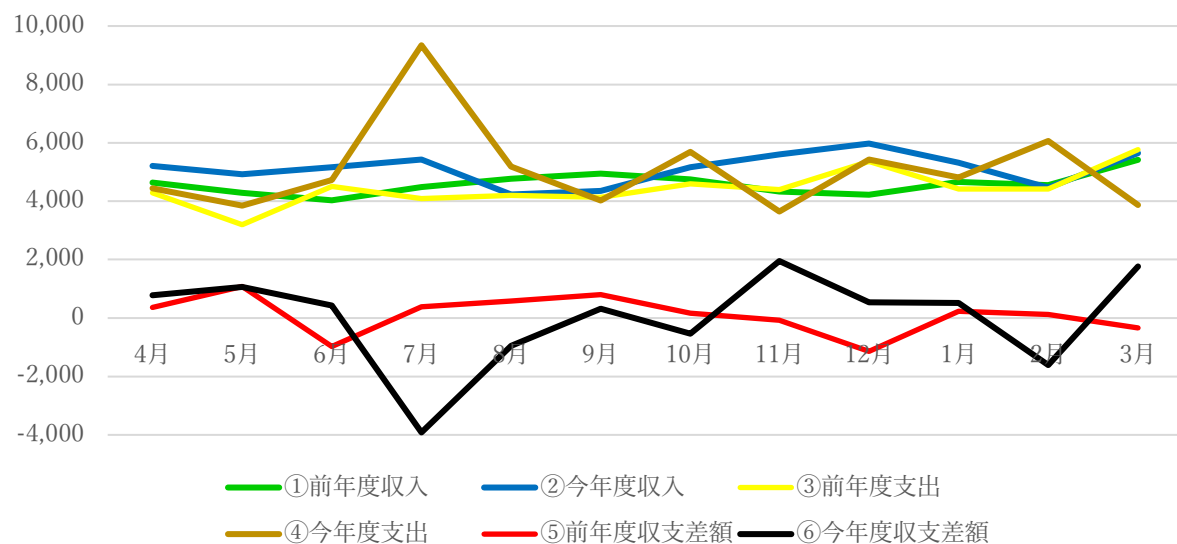


2. 年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
①前年度収入	4,643	4,279	4,032	4,481	4,770	4,937	27,142	-
②今年度収入	5,216	4,918	5,157	5,425	4,232	4,351	29,299	107%
③前年度支出	4,281	3,197	4,498	4,096	4,191	4,129	24,892	-
④今年度支出	4,431	3,860	4,736	9,341	5,183	4,031	31,582	126%
⑤前年度収支差額	362	1,082	-966	385	579	808	2,250	-
⑥今年度収支差額	785	1,058	421	-3,916	-951	320	-2,283	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
① 前年度収入	4,759	4,334	4,224	4,660	4,550	5,419	55,088	-
② 今年度収入	5,157	5,601	5,976	5,317	4,456	5,646	61,452	111%
③ 前年度支出	4,594	4,402	5,364	4,420	4,420	5,767	53,859	-
④ 今年度支出	5,681	3,648	5,430	4,806	6,069	3,874	61,090	113%
⑤前年度収支差額	165	-68	-1140	240	130	-348	1,229	-
⑥今年度収支差額	-524	1,953	546	511	-1,613	1,772	362	

収入比較グラフ



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
事業 対象者													
要支援 1	76.33 (3)	76.33 (3)	76.33 (3)	77.25 (4)	77.25 (4)	82.33 (3)	85.6 (5)	84.0 (4)	81.33 (3)	81.33 (3)	86.0 (2)	87.66 (3)	80.97 (40)
要支援 2	84.57 (7)	84.25 (8)	84.25 (8)	85.0 (7)	85.5 (8)	89.5 (8)	89.42 (7)	89.42 (7)	89.28 (7)	89.28 (7)	86.0 (2)	86.0 (8)	86.87 (84)
要介護 1	81.65 (23)	82.30 (23)	82.39 (23)	81.96 (25)	81.41 (24)	84.9 (22)	85.59 (22)	85.1 (20)	84.95 (21)	85.04 (23)	86.89 (19)	86.31 (22)	84.04 (267)
要介護 2	79.57 (7)	77.87 (8)	77.85 (8)	75.28 (7)	75.0 (7)	78.88 (9)	80.0 (10)	80.1 (10)	81.0 (11)	81.07 (13)	82.3 (10)	83.33 (9)	79.35 (109)
要介護 3	77.44 (9)	79.0 (8)	79.12 (8)	79.72 (11)	80.88 (9)	84.55 (9)	83.25 (8)	83.37 (8)	80.8 (10)	82.33 (9)	82.33 (9)	82.66 (9)	81.28 (107)
要介護 4	80.75 (8)	75.85 (7)	75.85 (7)	75.85 (7)	77.87 (8)	81.57 (7)	81.57 (7)	83.12 (8)	83.25 (8)	84.44 (9)	84.44 (9)	85.87 (8)	80.86 (93)
要介護 5	60.0 (1)	73.0 (2)	73.0 (2)	78.33 (3)	81.0 (8)	85.0 (3)	83.5 (4)	83.5 (4)	83.5 (4)	83.5 (4)	80.0 (5)	80.4 (5)	78.72 (45)
合計	77.18 (58)	78.37 (59)	78.39 (59)	79.05 (64)	79.84 (68)	83.81 (61)	84.13 (63)	84.08 (61)	83.44 (64)	83.85 (68)	83.99 (56)	84.60 (64)	81.73 (745)

上段の数字は平均年齢、() 内の数字は実利用者人数を示しています。

4. 職員充足度(令和7年3月現在)

(職員13名) 正職員3名(内理学療法士 1名) 非常勤看護師1名 非常勤介護職員9名(内入浴介助職員3名)							個別機能指導員を 含まない	
	営業 日数	利用者/月	職員総時間数/月	利用者/日	職員 /日	職員 一人対	職員/日	職員一人対
4月	26	557	1,223	21.4	7.3	2.9	6.3	3.4
5月	27	541	1,342	20.0	8.0	2.5	7.0	2.9
6月	25	545	1,282	21.6	7.6	2.8	6.6	3.3
7月	27	565	1,345	20.9	8.0	2.6	7.0	3.0
8月	25	431	1,126	17.2	6.7	2.6	5.7	3.0
9月	25	440	1,126	17.6	6.7	2.6	5.7	3.1
10月	27	567	1,210	21.0	7.2	2.9	6.2	3.4
11月	26	577	1,201	22.2	7.1	3.1	6.1	3.6
12月	26	616	1,192	23.7	6.7	3.5	5.7	4.1
1月	24	544	1,064	22.6	6.3	3.6	5.3	4.2
2月	24	449	1,003	18.7	6.0	3.1	5.0	3.8
3月	26	576	1,005	22.2	6.0	3.7	5.0	4.4

ケアハウスサンライフ御立

令和6年度 事業報告書

今年度のスローガンとして「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を掲げスタートした。

1. 活動的な活気に満ちた生活を送る為に

入居者の年齢は、90歳以上が40.6%となり、2月にはケアハウスで初めて100才を迎えた方がおられた。身体の基本となる食事は毎日決まった時間に提供され、十分な睡眠も確保されているのだろう。まさしく、規則正しい生活が長生きの秘訣だと感じる。又、ある程度のストレス＝刺激も必要ではないかと思う。「健康寿命」の延伸が、大きなポイントである。加えて、「寿命の質」も大切な事柄となる。医療分野が発達したことによって世界的に寿命が伸びている中、単純に生命を維持させるのではなく、健康で自立した時間を伸ばそうという考えはとても大切だ。

超高齢社会に突入した我が国は、医療・介護保険料が問題になっている。健康寿命の延伸に取り組むことで高齢者一人ひとりが介護・医療サービスを使う機会が減り、日本全体の保険料問題の解決にもつながる。

又、入居者間のADLの格差が来期も問題になると思う。将来の自分自身の姿かもしれない・・・とは、決して考えない。自分とは違うみたいな意識、偏見・・・そこに共存という言葉は生まれえないのか。意識改革を推し進めたい。

ケアハウスにおいてのコロナ罹患状況は、7月1名9月1名10月2名11月6名1月1名の計11名だった。特に11月は、日に日に罹患者が増えていき、少人数の職員で現実、あたふたしてしまった。コロナ感染が引き金となり体力の大幅減で退去せざるを得ない場合もあった。

2. 各種行事・クラブ活動

実施項目一覧

健康チェック	月1回実施 チェック後、コーヒーサービス 但し、9,10月健康診断
バスハイク、外食の日	4/4,5 お花見 紅葉狩りはコロナ感染の為中止(バスハイク)
誕生会(年4回)	4,7,10,2月に実施 7,10月居室配布 2月は、100才のお祝い
ふれあい喫茶	誕生会のない月8回/年
いきいき百歳体操	週1回実施 } 但し、7/8～14 9/6～15 10/12～20 10/23～27
ラジオ体操	週4回実施 } 11/16～30 1/1～6 は、中止
カラオケ教室	月1回実施 但し、1月は中止
新規 体操教室	未実施
フレイルチェック	未実施
学習療法	持ち帰りの形で継続(週1回)
手作り教室	4,7,8,9,10,12,2月実施 鯉のぼり、七夕飾り、壁面等

入居者 1 人ひとりが、今現在の身体状況を把握してもらう為「骨密度測定」「フレイルチェック」「口腔内チェック」は未実施。

3. 入居者状況

入居者の年齢は、90 才以上が 13 名、全体の 40.6%を占める。又、介護保険非認定者が全体の 28.1%で、介護が必要・不必要の格差が大きくなった。生活する上で家族様等、訪問介護、訪問看護のサポートが必要となり入室制限の中、許可を得て継続実施となった。

介護認定状況 (R7. 3. 31 現在)

単位：人

	非認定	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2 以上	合計
5 階	3	0	4	6	2	15
6 階	6	1	5	5	0	17
合計	9	1	9	11	2	32

サービス利用状況 (R7. 3. 31 現在)

単位：人

	ヘルパー	訪問看護	ディサービス	訪問リハビリ	福祉用具貸与
5 階	9	3	12	0	7
6 階	7	0	4	0	7
合計	16	3	16	0	14

入居者年齢・性別状況 (R7. 3. 31 現在)

単位：人

	～69 才	～74 才	～79 才	～89 才	90 才～	合計	平均年齢
男性	2	1	0	4	1	8	80.5 才
女性	0	1	3	8	12	24	88.0 才
合計	2	2	3	12	13	32	86.1 才

最高年齢：100 才(女性)

最低年齢：67 才(男性)

4. 空室ゼロの対策

この一年間で新規入居者は 4 名、退去者は 8 名だった。満室は、4, 5, 6, 8, 9 月の 5 ケ月間だった。入居者累計実績数は、前年度 12, 255 名、今年度 12, 299 名で 44 名の増加となった。

コロナ感染予防の為、見学者の対応は 1 階ホールのみの実施となった。入居に関しての問合せ及び見学は順調だったが、入居に至らないケースもあった。

如何に退去からその後の入居を短期間でやり遂げるかがポイントだったが、やはり退去者の荷物の搬出、リフォームに時間を要した。

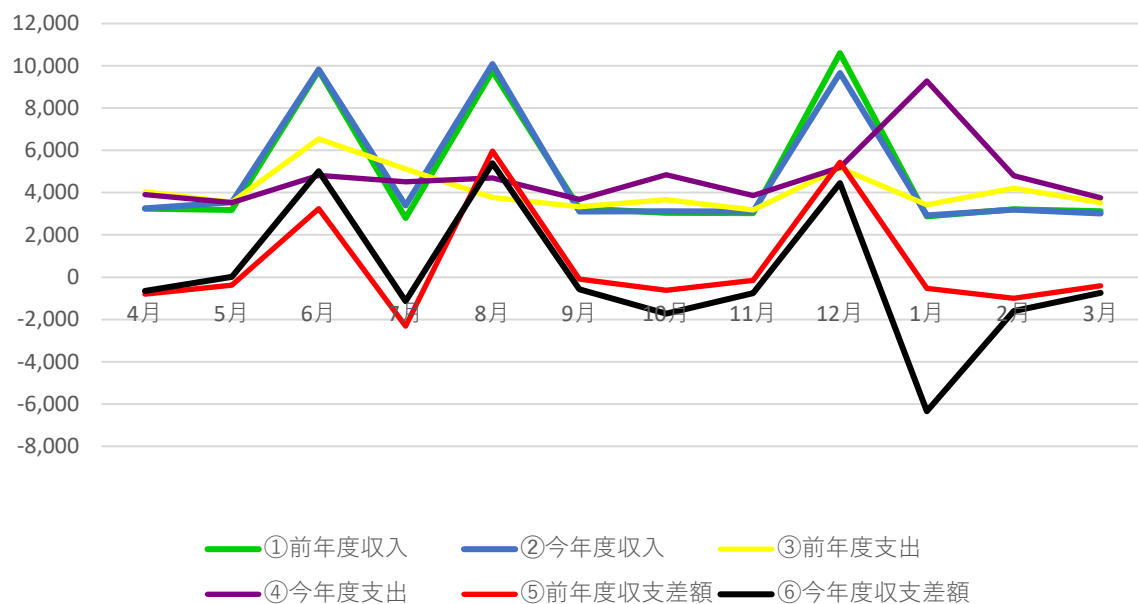
年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
① 前年度収入	3,248	3,174	9,775	2,804	9,745	3,262	32,008	—
② 今年度収入	3,252	3,551	9,821	3,387	10,082	3,108	33,201	103.7
③ 前年度支出	4,049	3,551	6,536	5,118	3,775	3,330	26,359	—
④ 今年度支出	3,904	3,534	4,816	4,518	4,693	3,677	25,142	95.4
⑤前年度収支差額	-801	-377	3,239	-2,314	5,970	-86	5,649	—
⑥今年度収支差額	-652	17	5,005	-1,131	5,389	-569	8,059	142.7
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
① 前年度収入	3,051	3,031	10,603	2,885	3,211	3,121	57,910	—
② 今年度収入	3,124	3,103	9,657	2,925	3,196	3,016	58,222	100.5
③ 前年度支出	3,664	3,181	5,168	3,419	4,212	3,525	49,528	—
④ 今年度支出	4,850	3,860	5,199	9,274	4,795	3,753	56,873	114.8
⑤前年度収支差額	-613	-150	5,435	-534	-1,001	-404	8,382	—
⑥今年度収支差額	-1,726	-757	4,458	-6,349	-1,599	-737	1,349	16.1

(千円)

収支比較グラフ



ユニット老人ホームサンライフひろみね

令和 6 年度 事業報告書

和 6 年度は、ささゆり会経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をもとに職員一人ひとりが考え行動できる人づくりを強化する為、外国人労働者・リーダー・個々の職員が考え、行動することにより職員の持つ専門性を向上させ、入居者様一人ひとりに目をむけたサービス提供に繋がるようにすると共にマニュアルの改訂や介護報酬改定に対応した。

1. 職員のチェック体制の向上

I. 業務バラツキの管理

職員間で業務のバラツキについては、職員事の面談の中で目標を個々に持たせ活動を行っている。また、ユニット会議での困っている業務について話合うことや PDCA マニュアルよりサービスの改善を行っているが改善回数は少なかった。

II. 誉め、そして注意しあえる環境づくり

決まったルールが守られていないことがある為、悪い事はしっかり注意し、良い事は誉め合い円滑なコミュニケーションをとることで、仲間意識を高め強いチーム作りに繋がるようにしているが、関係性を考え注意できない職員もいたり、注意の仕方ですぐトラブルになったりする事もあった。

III. 自分で考え、実行させる。

すぐに、上司が答えを出すのではなく、自分ならどうすべきかを発言させ、どうしたら良いかを一人一人の職員に考え実行させているが、中々意見を言えない職員も多い現状である。また、修正が必要な場合にはリーダーがフォローをして一人一人が考え行動できるようにすると共に、ユニット会議でも一人一人が自分の意見を出せるよう工夫することで、特定の外国人以外は意見が出せるようになった。

IV. 居室担当・委員会担当の強化

委員会も業務の一つだという、意識を持たせ委員長を中心に各委員会が各月の施設研修を 30 分程度で研修を実施できている。

また、居室担当についても少しでも入居者を把握させる力を向上させ、家族等との連携などを行うようにしている。

2. 外国人職員の能力の向上

I. 全ての勤務実施

外国人職員は今年度 5 名となる予定であったが、昨年入職し全ての勤務が出来るようになっていた特定技能生 1 名が退職し、入職予定の特定技能生 1 名は入国が遅れ、来年度での受入れとなった為、現在 3 名が在籍している。

夜勤帯も日本人に頼ることなく自分で考え、率先して看取りや緊急対応、緊急連絡が出来

る特定技能生も育ってきている。

II. 居室担当・ケアプラン作成

外国人職員にも居室担当を決め、施設長の日本人も含めたケアプラン研修を行い、日本人がフォローしながら気を付ける事やケアプランの作成を行っている。半年を過ぎた外国人職員には居室担当として独り立ちさせているが、技能実習生にはケアプランの負担が大きく実施できないとのことで、特定技能生だけが実施する形となっている。

3. マニュアル・研修方法の見直し

I. マニュアルの改正

前年度より、業務体系を大幅に変更した為、今までのマニュアルを見直し介護職がいつでもパソコンの共有フォルダから見られるようにしたが、職員の中にはどこにあるか探すのが大変という者もあり都度フォルダの整理や検索の仕方を伝えたが、マニュアルを確認しない者が多い状況にある。

II. 研修方法の見直し

法定で定められている研修を施設内研修に取り入れ、委員会から職員に実施すると共に法人の虐待防止研修にも全ての職員が参加できるよう調整した。

外部研修においては、参加した研修を施設にフィードバックできるよう施設内研修に取り入れた。研修報告書について、チェックは相談員・施設長が行っているが、研修が多く報告書の作成について不満が出てきている。

4. 生産性向上の取組み

全国人員配置基準（1.55～1.67：1）に合わせながら業務を行っているが、日曜日にゆとりがある為、気分転換が図れる外出などのレクリエーションを充実させてきたが、9月に1名の産休と2名の退職があり、9月半ばからはレクリエーションの実施が困難となり、人員の補充に努めたが、新しい職員を採用するのが難しい状況が続いていた。監査において相談員・施設長等の専従の役職者が介護現場に一人で入る事が多いと指摘があった為、他施設からの応援を受け何とか対応をした。

5. 虐待防止対策

常勤・非常勤職員を問わず、定期的な虐待防止研修を実施すると共に虐待予防マニュアル及び指針を改定し不適切ケアが発見できるような施策と変更点等について施設長からも研修を行い、カメラでの夜勤や遅出帯の業務をチェックし、必要に応じ都度、指導を行うと共に上司からの面談や公認心理師からの全従業員への面談を実施した。

また、負担の多い時間や業務についてはユニットで話し合い問題の改善を図り、定期的な職員面談を行い困りごとなどの相談対応をしている。下半期は第三者評価を受けた。昨年の虐待の案件についても全ての家族と解決を図ることが出来た。

6. 収入の確保と支出

収入に関しては、法改正より、ADL 加算・協力医療機関連携加算・生産性向上推進体制加算・高齢者施設等感染対策向上加算・退所時情報提供加算を新たに取得している。昨年同様、入所率 98%を目指したが 97.9%と目標を下回った。下半期は新規入所者の獲得にむけた時間を割くことができなかったことが課題である。また、加算については 1 月より栄養マネジメント加算が管理栄養士の産休により算定ができておらず、ADL 加算については ADL の低下が出たものが多く来年度の算定には至らなくなった。

支出面は職員一同、昨年同様に節約を意識しているが、ガス乾燥機使用でガス代が少し高くなっている。電気代に関して使用料は減少しているが電気代の高騰により昨年より高い月も出ている。

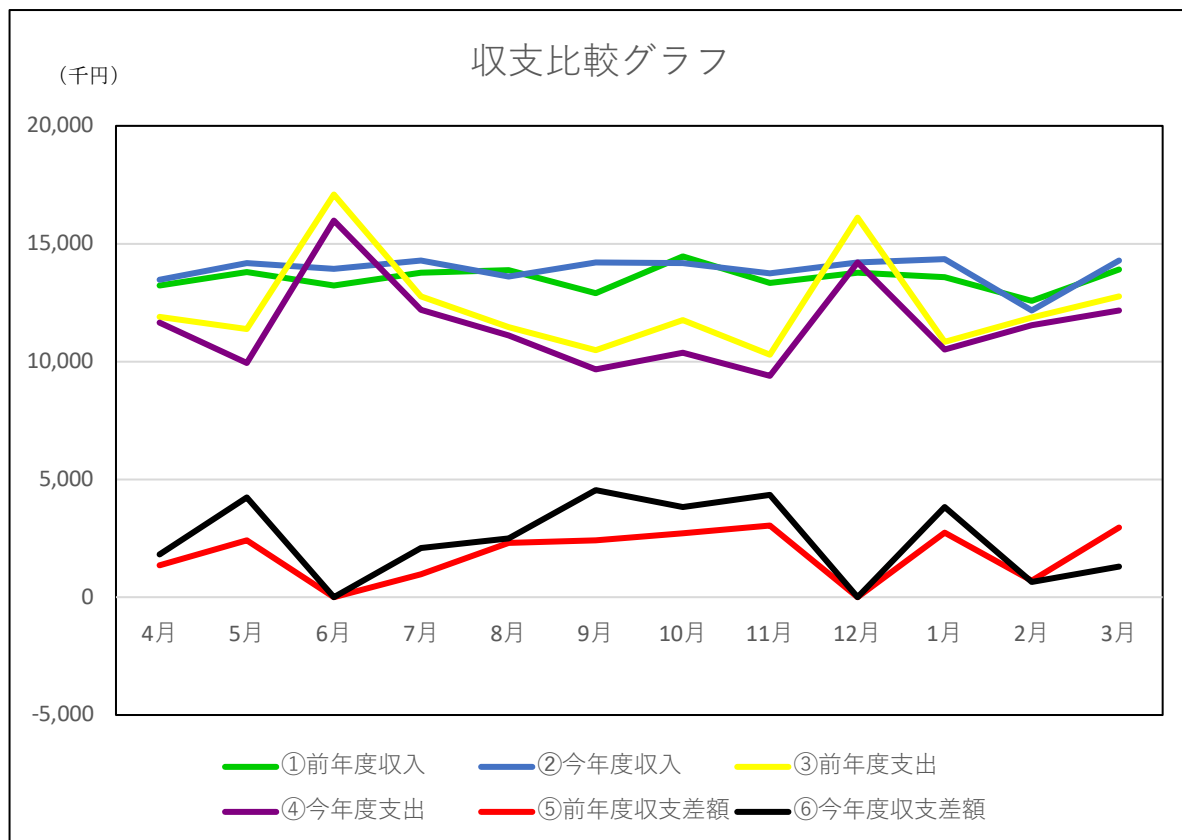
備品に関しては、ハイエース 370 万円及びダイハツタント約 180 万円で導入した。下半期には昨年エアコン等の大規模改修補助金が入り、約 1,130 万円でエアコン改修を行った。収入面は増加しているが、収支差額が低下した要因として年間予想より 765 万円の支出が出たことが大きく影響している。内訳としてはエアコン消費税等自己負担分約 190 万円看護体制Ⅱ加算関係約 115 万円・弁護士費用 260 万円及び支払い 200 万円となった。

年間収支

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
① 前年度収入	14,227	14,496	13,996	14,358	13,673	14,627	85,377	—
②今年度収入	13,959	14,641	13,915	15,314	14,985	14,999	87,813	102.8
② 前年度支出	11,656	9,929	15,980	12,180	11,115	9,665	70,525	—
④今年度支出	10,454	10,128	14,705	14,764	14,336	10,044	74,431	105.5
⑤前年度収支差額	2,571	4,567	-1,984	2,178	2,558	4,962	14,852	—
⑥今年度収支差額	3,505	4,513	-790	550	649	4,955	13,382	90.1
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
①前年度収入	14,363	13,800	14,264	14,418	12,239	14,340	168,801	—
②今年度収入	14,301	14,152	14,774	13,649	12,597	15,399	172,685	102.3
③前年度支出	10,370	9,393	14,213	10,509	11,528	12,160	138,698	—
④今年度支出	11,470	10,468	17,769	10,623	13,369	11,982	150,112	108.2
⑤前年度収支差額	3,993	4,407	51	3,909	711	2,180	30,103	—
⑥今年度収支差額	2,831	3,684	-2,995	3,026	-772	3,417	22,573	75.0

(エアコンの改修費は含んでいない。エアコンの補助金以外の消費税などの支出は含む。)



令和 6 年度介護状況目標

項目		令和 6 年 3 月 末	令和 7 年 3 月 末
日中オムツ使用率		2 名 (7%)	2 名 (7%)
入浴統計	特浴	2 名 (7%)	1 名 (3%)
	リフト付個浴	27 名 (93%)	28 名 (97%)
	個浴	0 名 (0%)	0 名 (0%)
食事形態	普通食	15 名 (54%)	11 名 (38%)
	刻み食	5 名 (18%)	8 名 (28%)
	極刻み食	4 名 (14%)	4 名 (14%)
	ミキサー食	4 名 (14%)	6 名 (21%)
	経管栄養	0 名	0 名
褥瘡者		1 名 (3%)	0 名 (0%)
身体拘束		0 名	0 名
看取り介護実施 ※		1 名 (100%)	12 名

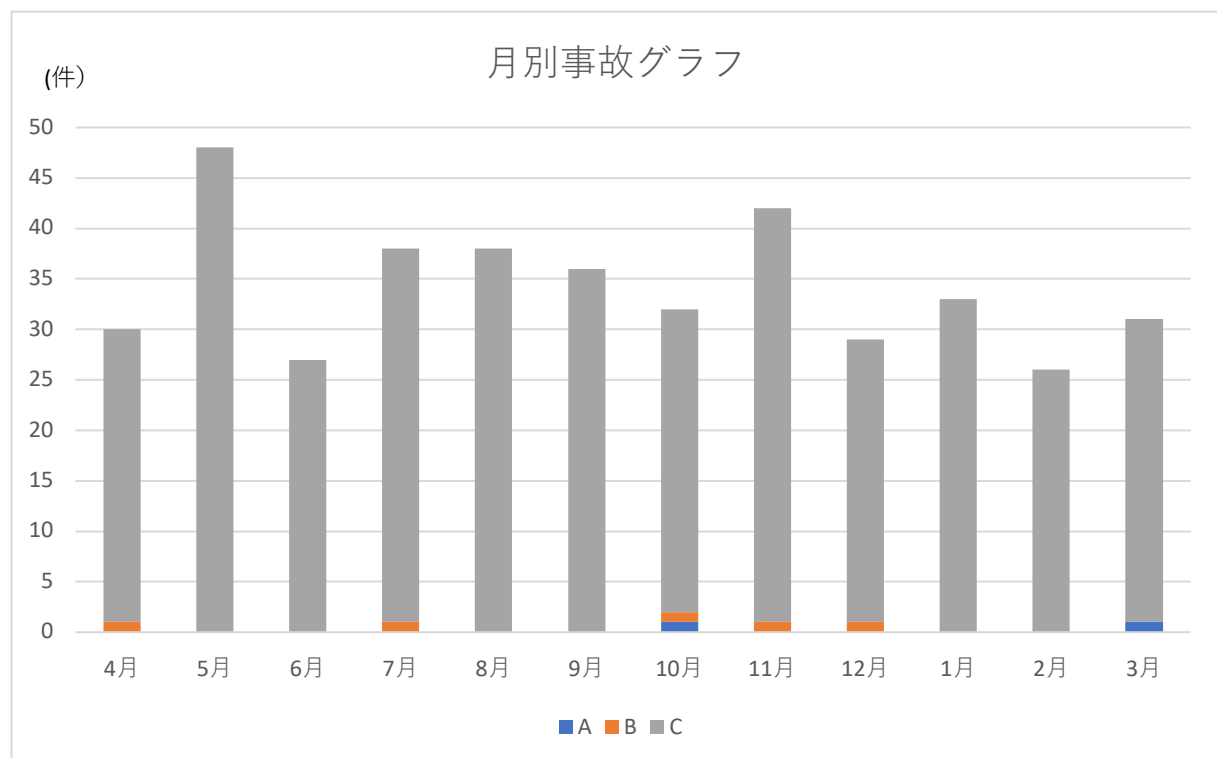
※看取り介護実施率=看取り介護実施者／全退所者（急死を除く）

事故件数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計 (件)
A	0	0	0	0	0	0	0
B	1	0	0	1	0	0	2
C	29	48	27	37	38	36	215
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計 (件)
A	1	0	0	0	0	1	2
B	1	1	1	0	0	0	3
C	30	41	28	33	26	30	403

A：入院・加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要しない事故

月別事故グラフ



デイサービスサンライフ田寺

令和6年度 事業報告書

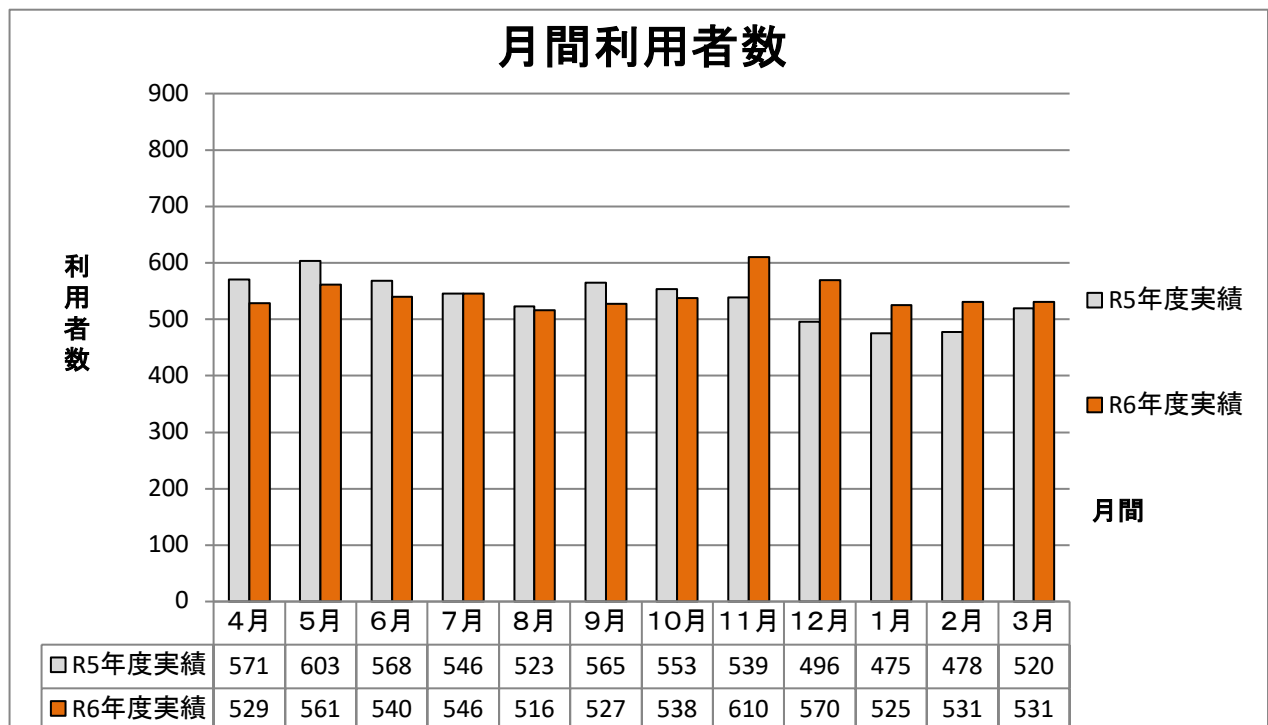
令和6年度の実績では利用者数は上半期は減少傾向であったが、下半期では月間利用者数が増加し平均利用人数も増加した。利用者数の増加により収入も下半期から増加し安定した収入を得られるようになった。

しかし支出の面では築年数の経過による建物の老朽化で修繕費が増加、送迎車の買い替え等で支出を抑えることが困難であり、結果前年度比で赤字を半分程度減らすのみとなった。

今後は新規利用者の獲得に平行して、売りである外出レクとデイサービス内で行えるレクリエーションの種類の充実化を図り、既存の顧客満足度を上げることが必要である。

物価の高騰を受け、ガソリン代やレクリエーション等に係る教養娯楽費等が増加してくる可能性が高いが、節約でサービスの質が低下しすぎないように年間で計画を立てるなどし、支出が増加しすぎないように検討していく。

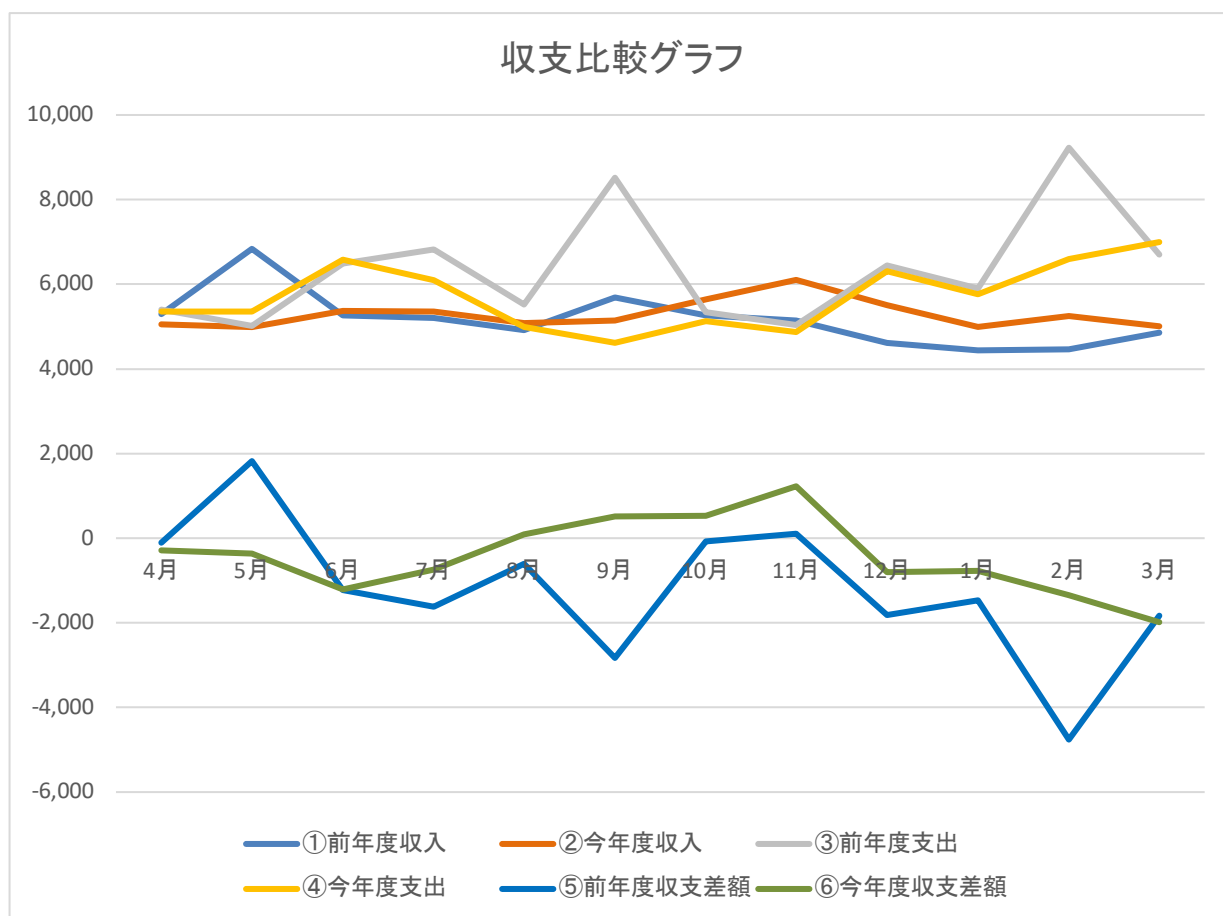
1. 月間利用者数



2. 前年度収支比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	5,300	6,837	5,258	5,199	4,919	5,686	33,199	—
② 今年度収入	5,059	4,988	5,368	5,360	5,090	5,137	31,002	93.3%
③ 前年度支出	5,401	5,016	6,488	6,816	5,518	8,513	37,752	—
④ 今年度支出	5,352	5,357	6,582	6,096	4,999	4,616	33,002	87.4%
⑤ 前年度収支額	-101	1,821	-1,230	-1,617	-599	-2,827	-4,553	
⑥ 今年度収支額	-293	-369	-1,214	-736	91	521	-2,000	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	5,268	5,138	4,620	4,438	4,467	4,861	61,991	—
② 今年度収入	5,649	6,103	5,499	4,990	5,247	5,012	63,502	102.4%
③ 前年度支出	5,338	5,038	6,441	5,903	9,226	6,695	76,393	—
④ 今年度支出	5,123	4,877	6,305	5,768	6,591	6,997	68,663	89.9%
⑤ 前年度収支額	-70	100	-1,821	-1,465	-4,759	-1,834	-14,402	
⑥ 今年度収支額	526	1226	-806	-778	-1,344	-1,985	-5,161	



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均 (合計)
要支援 1	84.50 (3)	84.79 (3)	85.94 (4)	86.63 (2)	86.71 (2)	86.79 (2)	88.33 (4)	88.42 (4)	83.85 (5)	88.81 (3)	88.67 (4)	88.97 (3)	86.84 (39)
要支援 2	85.86 (11)	85.83 (11)	85.93 (10)	86.44 (8)	86.52 (8)	87.77 (7)	89.62 (5)	90.27 (4)	89.03 (5)	87.82 (6)	87.90 (6)	87.99 (6)	87.15 (87)
要介護 1	85.18 (28)	84.89 (26)	86.03 (26)	85.61 (27)	85.24 (31)	84.89 (34)	85.05 (34)	84.92 (32)	85.00 (32)	85.74 (28)	85.97 (29)	85.91 (30)	85.35 (357)
要介護 2	88.35 (15)	87.92 (17)	88.03 (16)	87.77 (17)	87.95 (14)	88.19 (15)	87.92 (14)	87.71 (16)	87.12 (14)	87.13 (14)	87.39 (14)	87.83 (14)	87.79 (180)
要介護 3	89.30 (5)	90.00 (3)	89.75 (4)	89.89 (3)	87.92 (2)	87.00 (1)	85.19 (3)	85.28 (3)	85.36 (3)	83.73 (4)	83.81 (4)	87.02 (4)	87.02 (39)
要介護 4	90.92 (1)	91.00 (1)	91.08 (1)	91.17 (1)	91.25 (1)	84.21 (2)	87.28 (3)	87.36 (3)	87.44 (3)	87.53 (3)	87.58 (3)	92.75 (2)	88.37 (24)
要介護 5	83.96 (2)	76.75 (1)	76.83 (1)	76.92 (1)	77.00 (2)								79.24 (14)
平均 (合計)	86.36 (65)	86.11 (62)	86.69 (62)	86.54 (59)	86.16 (59)	86.11 (61)	86.37 (63)	86.35 (62)	85.85 (62)	86.40 (58)	8661 (60)	87.03 (59)	86.38 (732)

上段の数字は平均年齢、() 内の数字は実利用者人数を示しています。

4. 職員充足度 (R7年3月現在)

職員 16 名 (正職員 2 名 非常勤看護師 3 名 非常勤理学療法士 1 名
非常勤歯科衛生士 1 名 非常勤介護職員 9 名)

個別機能指導員 (看護師) 1 名含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員実質時間数 /月	利用者/ 日	職員/ 日	職員 一人 対	職員/日	職員一人対
4 月	26	533	2,023	20.50	11.4	1.7	7.6	2.6
5 月	26	561	2,276	21.58	13.28	1.5	10.2	2.0
6 月	25	539	2,296	21.56	12.9	1.6	9.6	2.2
7 月	27	546	2,097	20.22	11.8	1.7	7.3	2.7
8 月	25	516	1,433	20.64	8.06	2.5	6.9	2.9
9 月	25	526	1,460	21.00	8.68	2.4	7.5	2.8
10 月	27	608	1,700	22.48	9.8	2.3	8.6	2.6
11 月	26	610	1,552	23.46	9.0	2.6	7.9	3.0
12 月	26	570	1,606	21.92	9.1	2.4	8.3	2.6
1 月	24	525	1,462	21.88	8.3	2.6	7.1	3.1
2 月	24	530	1,543	22.08	9.6	2.2	7.9	2.8
3 月	24	536	1,675	22.33	9.4	2.3	8.3	2.7

ヘルパーステーションサンライフ御立 令和6年度 事業報告書

今年度目標に掲げたスローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を掲げ、全職員・登録ヘルパーの方向性を同じくサービス提供に努めることが出来た。現状に満足することなく、リスクを恐れずチャレンジする事への行動力。

「誰かがしてくれるだろう」との安全な道を選択するのではなく、「まず、やってみよう！」は、少しずつ定着してきたと感じる。

9月、実地指導を受け、サービスの在り方・書類の整備等、改めて評価を受け、人材育成や介護力向上の為にしている内部研修や加算算定要件でもある個人別研修に関して、お褒めを頂き、試行錯誤行ってきた取り組みを今後も自信を持って実施する為の活力にすることが出来た。

仕事と家庭の両立を図るべく、有意義な有給・リフレッシュ休暇の取得も出来た。法人主催の互助会研修旅行にも参加することが出来、より一層業務に邁進できる環境が整ってきたと感じる。

12月に家庭の事情・3月に体調不良の為に急な常勤職員退職が2名出た事により、急遽年度末3月に利用者様を120名→規定人数80名に減らすことを実施した。それに伴い、業務の振り分け・利用者様の担当割の調整等、予想をはるかに超える業務量を職員2名でこなす事となった。

この先常勤職員を採用しない事には、利用者増は見込めないが、現状事業所の軸をしっかりと立て直してから、取り組んで行こうと思う。

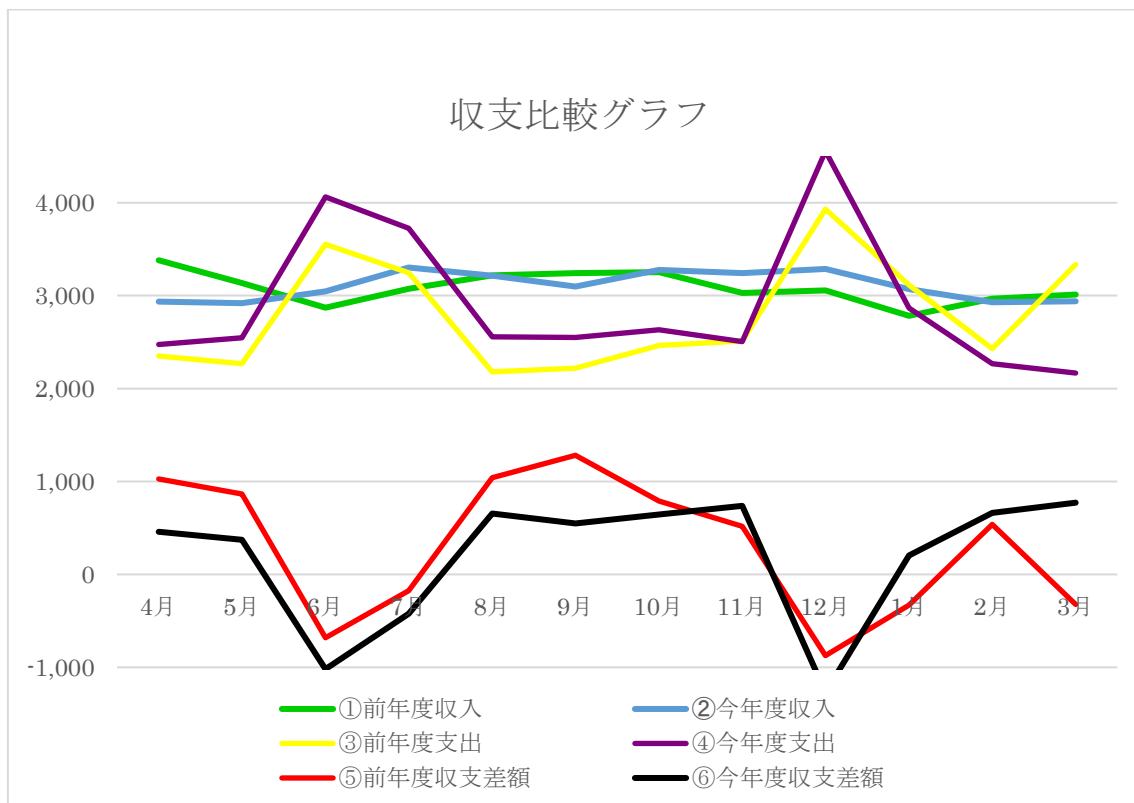
令和6年度 内部研修内容

実施月	テーマ	担当者
4月	低栄養と誤嚥の予防	木村
5月	「接遇」はなぜ大切か？傾聴を中心に考える	川上
6月	脱水・熱中症対策／倫理と法令遵守	藤木
7月	個人面談	藤木
8月	虐待について「起こりやすい紛争の事例」	藤木
9月	カスタマーハラスメント対策	木村
10月	「認知症ケア」その前に改めて考えたい事	川上
11月	感染症対策と食中毒予防	木村
12月	自学「高齢者虐待」予防対応マニュアル感想文提出	-
7年1月	自分の心と体を守る メンタルケア	川上
2月	感染症テスト	-
3月	個人面談（人事考課表）・今年度の振り返り	藤木

年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
1 前年度収入	3,381	3,135	2,870	3,073	3,220	3,241	18,920	—
2 今年度収入	2,935	2,919	3,046	3,303	3,214	3,098	18,515	96
3 前年度支出	2,352	2,269	3,551	3,247	2,180	2,220	15,819	—
4 今年度支出	2,475	2,545	4,064	3,725	2,558	2,551	17,918	113
⑤前年度収支差額	1,029	866	-681	-174	1,040	1,021	3,101	—
⑥今年度収支差額	460	374	-1,018	-422	656	547	597	19
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
1 前年度収入	3,252	3,029	3,057	2,783	2,967	3,009	37,019	
2 今年度収入	3,277	3,244	3,286	3,070	2,930	2,939	37,264	101
3 前年度支出	2,464	2,511	3,931	3,114	2,430	3,334	33,606	—
4 今年度支出	2,632	2,506	4,556	2,866	2,267	2,167	34,916	104
⑤前年度収支差額	788	518	-874	-331	537	-325	3,414	—
⑥今年度収支差額	645	738	-1,270	204	663	772	2,348	69



今年度訪問介護のみが、介護報酬減であった事で、少なからず影響は出ている。

しかし利用者様は安定してサービス提供継続であった為、1 年を通して収入は大幅に増減は無かったが、職員 4 人体制になった事で大幅に人件費が増えた。その為、前年度に比べ、収支差額は減となっている。

サンライフ御立居宅介護支援事業所

令和 6 年度 事業報告書

経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、ひとり一人が改善実行！」に対し、多職種と連携し、利用者、家族に対し、相談援助や適切なサービスを提案し、元気に在宅生活が継続できるよう支援を行った。

収入については、利用者数が、要支援者、要介護者が共に増加したために、増加した。支出については、産休育休職員が 1 名いたため、人件費が減少。金額の高い購入品が無かったため全体としても減少した。収支差額としては、収入が増加、支出が減少であり、プラスとなった。

地域包括ケアシステムの構築を目指し、医療との連携を促進し在宅で利用者様に満足して頂けるように提供を行った。

1. 担当利用者・収入の確保

新規獲得件数は 124 件。特養や老健入所、長期入院、永眠などの終了ケースが多くある。総数は令和 6 年 4 月が要介護 120 件、要支援 78 件の 198 件、令和 7 年 3 月が要介護 138 件、要支援 78 件の 216 件となった。営業活動も毎月行っている。担当の利用者様からの紹介等も積極的に受け入れるようにし、特に地域の方のご相談等も迅速に対応できるよう努めている。

担当人数の増減はあるが、収入については、昨年度と比較し増加の結果となった。

2. サービスの質の向上

主任ケアマネジャーの資格取得については、管理者交代や事業所を新たに増やす際に必要な資格であり、要件を満たした職員から順次取得する。

また、援助を進めていくにあたり困難なケースや問題点がでてきた時等、事業所内で一緒に考え、情報共有を行うことで精神面でのケアと援助がスムーズに行えるよう努めた。研修会等にも積極的に参加するよう心がけ最新情報等は事業所内で共有できるよう情報交換共有を行った。引き続き、感染症対策に勤めた。

3. 有給休暇、連続リフレッシュ休暇の確実な取得状況

年次有給休暇の 10 日以上取得者の 5 日以上の取得ができている。連続リフレッシュ休暇は、昨年に続き現状で取得している職員はいない。連続リフレッシュ休暇の支障として考えられることは、長期休暇を取得することで利用者様や家族様からの相談対応に支障が出てしまわないかとの不安がある。今後検討が必要。

4. 特定事業所集中減算の回避

毎月、集計を行い減算にならないように注意した。他事業所の情報等を収集し、紹介を行った。

5. 介護予防支援

令和6年度も、要支援者の地域包括支援センターからの依頼や、更新時に要支援になった方が多く、要支援者の利用者数は増加傾向となった。引き続き、多くの地域包括支援センターとの連携を行い新規獲得に努める。

6. 利用者人数の推移

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援	R5	68	69	69	74	72	68	70	68	73	73	76	80	860
1.2	R6	78	78	80	81	79	80	77	76	79	74	78	78	938
	差	+10	+9	+11	+7	+7	+12	+7	+8	+6	+1	+2	-2	+78

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護	R5	134	130	128	126	124	126	119	120	125	125	124	121	1,502
1～5	R6	120	122	125	133	127	128	136	136	137	138	137	138	1,577
	差	-14	-8	-3	+7	+3	+2	+17	+16	+12	+13	+13	+17	+75

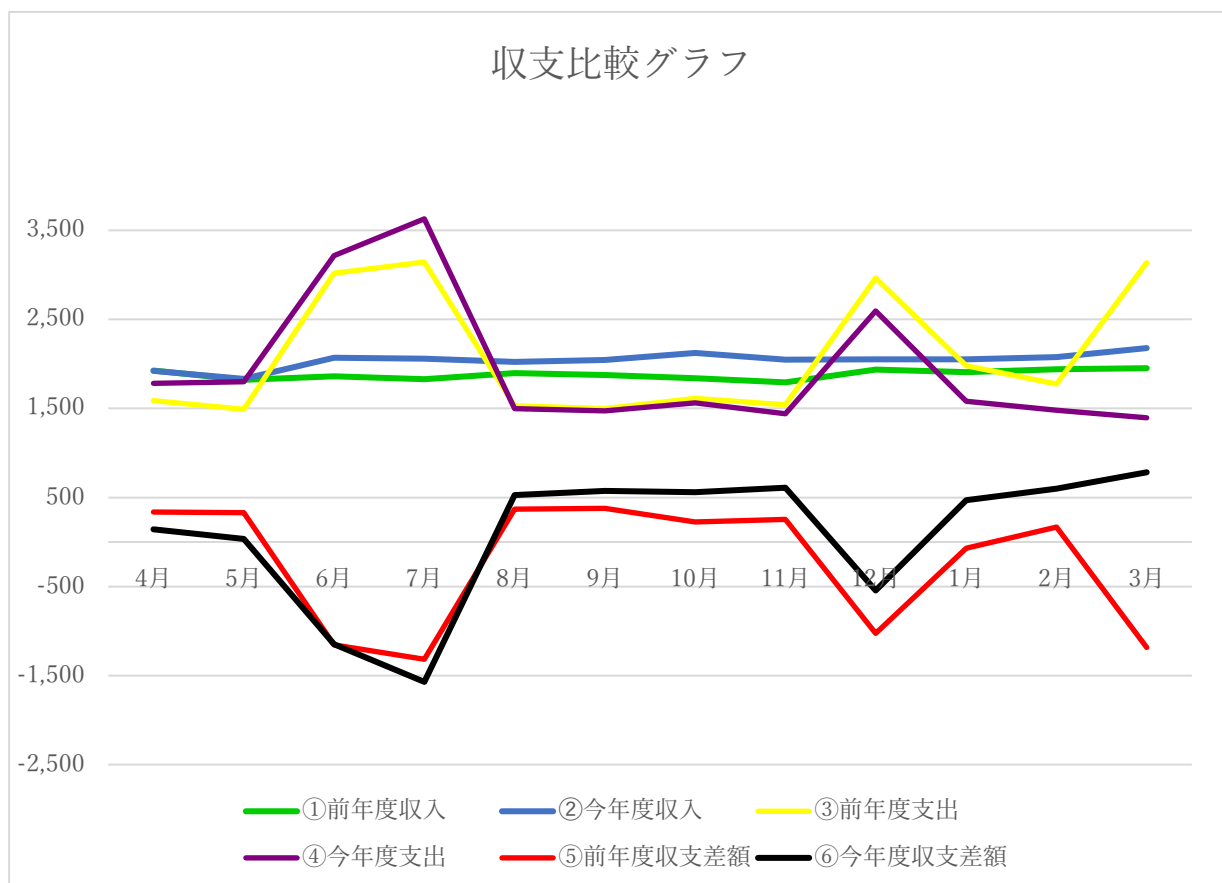
7. 収入の確保

様々な理由で、増減があるため、定員を維持増加できるように営業活動を行った。要介護の利用者、要支援の利用者どちらも増加となった。

8. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	1,925	1,821	1,861	1,827	1,898	1,877	11,209	
②今年度収入	1,923	1,832	2,069	2,058	2,024	2,025	11,951	106.6
③前年度支出	1,589	1,490	3,017	3,144	1,529	1,499	12,268	
④今年度支出	1,782	1,798	3,218	3,629	1,498	1,472	13,397	109.2
⑤前年度収支差額	336	331	-1,156	-1,317	369	378	-1,059	
⑥今年度収支差額	141	34	-1,149	-1,571	526	573	-1,446	136.5
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	1,838	1,793	1,937	1,908	1,941	1,952	22,578	
②今年度収入	2,122	2,049	2,050	2,051	2,078	2,178	24,479	108.4
③前年度支出	1,614	1,540	2,964	1,978	1,775	3,138	25,277	
④今年度支出	1,564	1,439	2,595	1,580	1,479	1,395	23,449	92.8
⑤前年度収支差額	224	253	-1,027	-70	166	-1,186	-2,699	
⑥今年度収支差額	558	610	-545	471	599	783	1,030	-38.2



デイサービスサンライフ安室

令和6年度 事業報告書

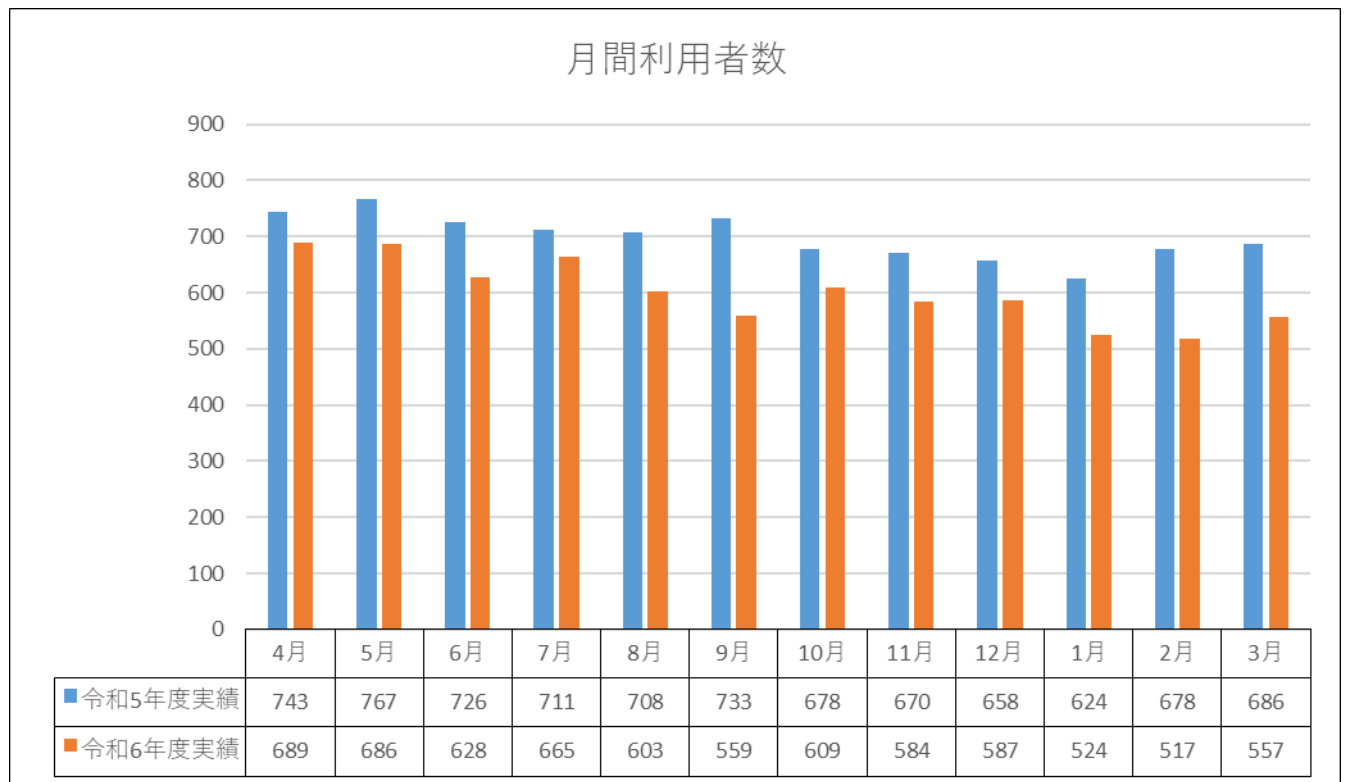
令和6年度も変わらず新型コロナウイルス感染症対策は継続しているが、カラオケレクリエーション、買物外出、喫茶外出、おやつ作り、工作など一年を通してコロナ禍以前と同様に充実したレクリエーションを行う事ができた。また新たなレクリエーションとして、美容レクリエーションを取り入れ、レクリエーションの充実を図ることが出来た。

しかしここ数年の管理者変更に加え、職員の度重なる異動等により、利用者様・御家族・担当ケアマネジャーの不信感が払拭できていない状況にあり、問い合わせ等も少なく、新規利用者の獲得が出来ていない状況が続いていたため、下半期より営業活動の大幅な見直しを図り、年明けより徐々に問い合わせ・見学希望者が増え、新規利用者の獲得へつながっている。

また、支出については度重なる職員の異動等による人件費の増加と、施設開設から13年が過ぎ、施設設備の修繕、備品等買い替えに加え、送迎車両1台購入も重なり支出増となった。

今後も修繕等の支出が増加する可能性が予測される為、業務の効率化、光熱水費等の見直しを図り、可能な限り支出を抑えていきたい。

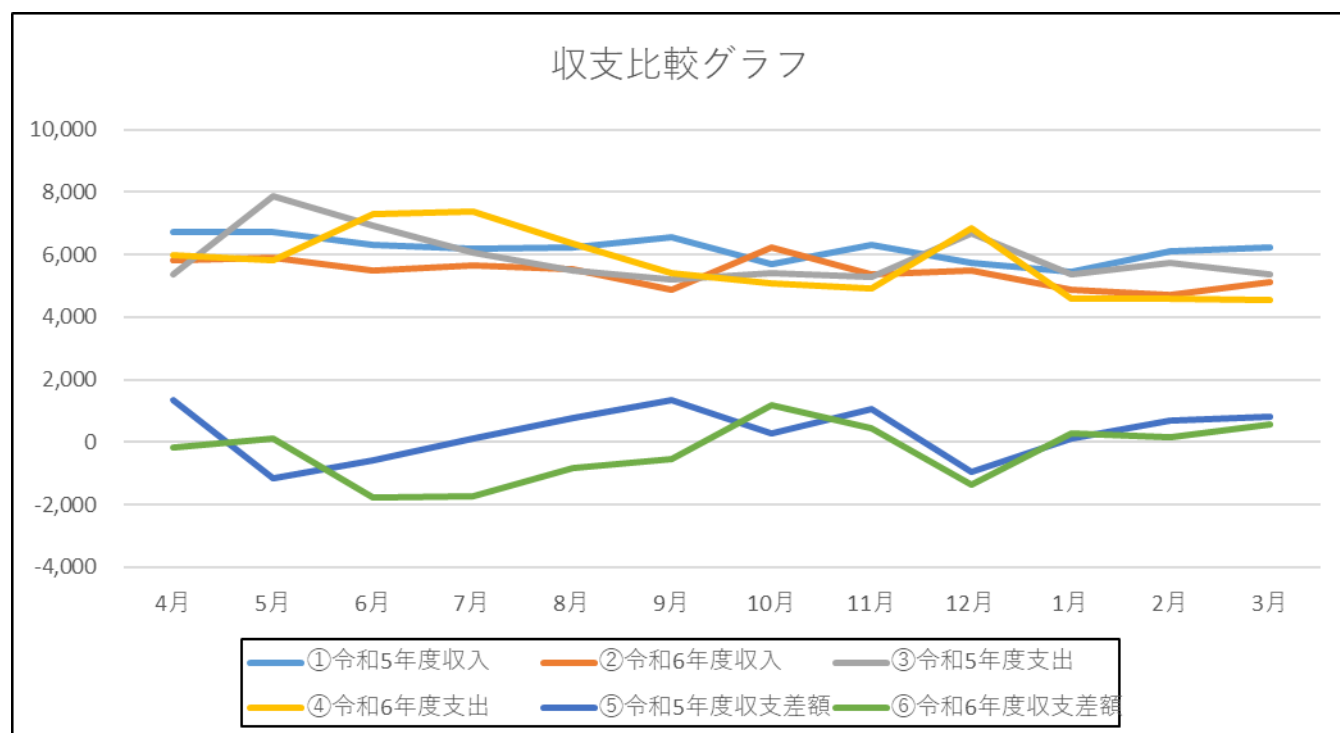
1. 利用者数



2. 年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
①令和 5 年度収入	6,713	6,724	6,327	6,181	6,229	6,555	38,729	-
②令和 6 年度収入	5,814	5,918	5,496	5,648	5,526	4,884	33,286	85.9%
③令和 5 年度支出	5,365	7,875	6,929	6,056	5,474	5,214	36,913	-
④令和 6 年度支出	5,980	5,806	7,283	7,398	6,353	5,413	38,233	103.6%
⑤令和 5 年度収支差額	1,348	-1,151	-602	125	755	1341	1,816	-
⑥令和 6 年度収支差額	-166	112	-1,787	-1,750	-827	-529	-4,947	-272.4%
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
①令和 5 年度収入	5,696	6,328	5,747	5,468	6,100	6,226	74,294	-
②令和 6 年度収入	6,227	5,379	5,481	4,870	4,724	5,108	65,075	87.6%
③令和 5 年度支出	5,427	5,290	6,697	5,362	5,723	5,366	70,778	-
④令和 6 年度支出	5,066	4,929	6,856	4,591	4,590	4,535	68,800	97.2%
⑤令和 5 年度収支差額	269	1,038	-950	106	685	794	3,758	-
⑥令和 6 年度収支差額	1,161	450	-1,375	279	134	573	-3,725	-99.1%



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均 (合計)
要支援 1	85.06 (6)	86.38 (5)	86.47 (5)	86.55 (5)	86.63 (5)	86.72 (5)	87.17 (6)	87.25 (6)	86.97 (5)	86.65 (6)	87.10 (5)	87.18 (5)	86.72 (64)
要支援 2	89.53 (12)	89.43 (13)	90.20 (11)	89.80 (10)	89.88 (10)	88.74 (11)	88.83 (11)	88.91 (11)	88.40 (10)	87.81 (13)	87.58 (13)	87.30 (14)	88.87 (139)
要介護 1	87.21 (27)	86.94 (28)	87.02 (30)	87.36 (27)	87.10 (27)	87.41 (27)	87.14 (27)	87.31 (26)	87.47 (26)	86.87 (25)	86.97 (24)	86.95 (24)	87.15 (319)
要介護 2	88.97 (13)	89.46 (13)	88.63 (16)	87.97 (12)	88.44 (12)	89.44 (12)	89.70 (13)	89.85 (12)	87.01 (12)	88.77 (11)	89.37 (12)	88.68 (11)	88.86 (149)
要介護 3	89.11 (11)	89.33 (10)	91.16 (8)	92.06 (10)	93.11 (8)	93.88 (5)	94.51 (7)	94.52 (5)	94.60 (5)	94.22 (5)	94.98 (4)	94.14 (3)	92.97 (81)
要介護 4	87.55 (5)	86.40 (4)	86.73 (5)	86.56 (4)	86.65 (4)	84.39 (6)	82.33 (7)	84.42 (7)	83.92 (8)	84.00 (8)	84.08 (10)	83.75 (11)	85.07 (79)
要介護 5													
平均 (合計)	87.95 (74)	87.97 (73)	88.13 (73)	88.24 (71)	88.30 (66)	88.03 (66)	88.00 (71)	88.13 (67)	87.48 (66)	87.26 (68)	87.45 (68)	87.17 (68)	87.84 (831)

上段の数字は平均年齢、（ ）内の数字は実利用者人数を示しています。

4. 職員充足度（令和7年3月現在）

職員 16.5 名（正職員 2.5 名 非常勤看護師 3 名非常勤介護職員 11 名）

機能訓練指導員
を
含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 月	職員/ 月	職員 一人対	職員/ 月	職員 一人対
4 月	26	689	1901	26.5	11.3	2.3	10.3	2.6
5 月	27	686	1967	25.4	11.7	2.2	10.6	2.4
6 月	25	628	1819	25.1	10.8	2.3	9.9	2.5
7 月	27	665	1985	24.6	11.8	2.1	10.9	2.3
8 月	27	603	1712	22.3	10.2	2.2	8.8	2.5
9 月	25	559	1776	22.4	10.6	2.1	9.1	2.5
10 月	27	609	1844	22.6	11.0	2.1	9.5	2.4
11 月	26	584	1647	22.5	9.8	2.3	8.5	2.7
12 月	26	587	1494	22.6	8.9	2.5	7.6	3.0
1 月	24	524	1443	21.8	8.6	2.5	7.4	3.0
2 月	24	517	1554	21.5	9.3	2.3	8.0	2.7
3 月	26	557	1664	21.4	9.9	2.2	8.5	2.5

姫路市安室地域包括支援センター

令和 6 年度 事業報告書

令和 6 年 4 月に介護報酬改定があり、介護予防プランが今までは地域包括支援センターで直営で担当するか、居宅介護支援事業所に外部委託するかであったが、介護予防支援の指定対象を居宅介護支援事業所にも拡大し、直接担当できることとなった（総合事業のみのプランは対象外）。上半期を通して、徐々に直接担当できる居宅介護支援事業所も増え、姫路市の方針に従い、書類等適切に対応している。

事業所内連携については、今年度も引き続き毎日朝礼でミーティングを実施し、伝達事項や研修報告、地域役員からの情報、新たな相談者・継続相談者等の報告を行うことで、事業所内での情報共有を確実に行うことができている。また、毎月 1 人ずつ担当を決め、主催してもらうことで、各職員のファシリテーションのスキルアップと知識向上のため、月 1 回の職員会議開催も継続できた。困難事例については、ホワイトボードを使用し、可視化した事例検討により、情報の整理と課題抽出を行い、適切に対応できるよう努めた。

高齢者虐待に関しては、新規 4 件、継続 1 件のコア会議を開催、姫路市高齢者虐待等マニュアルに基づき、市や中央保健福祉センター等関係機関と連携をとり、対応した。事業所としては、職員会議時に虐待防止に関する研修を実施、法人での研修にも参加し、利用者等の人権の擁護・虐待の防止に取り組んだ。

研修については、今年度も案内を事業所内で回覧し、受講したい研修があれば受けることができるようにしている。オンライン研修を主として受講できており、今後も事業所全体でのスキルアップにつなげていきたい。

認知症カフェについては、今年度も 2 グループが継続して姫路市に登録できている。2 グループとも定期開催できており、毎回参加し、開催支援している。

いきいき百歳体操については、今年も、各グループでフレイルチェックを行い、診断を元に、専門職派遣を利用し、地域の介護予防につなげている。

今年度は新たに、いきいき百歳体操・認知症カフェ会場で認知症の気づきチェックリストを行い、認知症予防の意識づけやリスクの高い方の発見に努めた。

介護予防については、昨年に引き続き、他機関と連携し、安室東公民館で骨粗鬆症予防をテーマに介護予防講座を開催した。安室校区でも毎月開催協力している公民館講座「公民館の保健室」で、骨粗鬆症予防をテーマに介護予防講座を開催した。3 月には、安室公民館において姫路市と連携協定を締結している企業に依頼し、認知症予防をテーマに介護予防講座を開催、健康計測も行い、大勢参加してもらえた。また、実施した講座等については、地域包括だよりで住民に報告し、介護予防への意識付けを行っている。

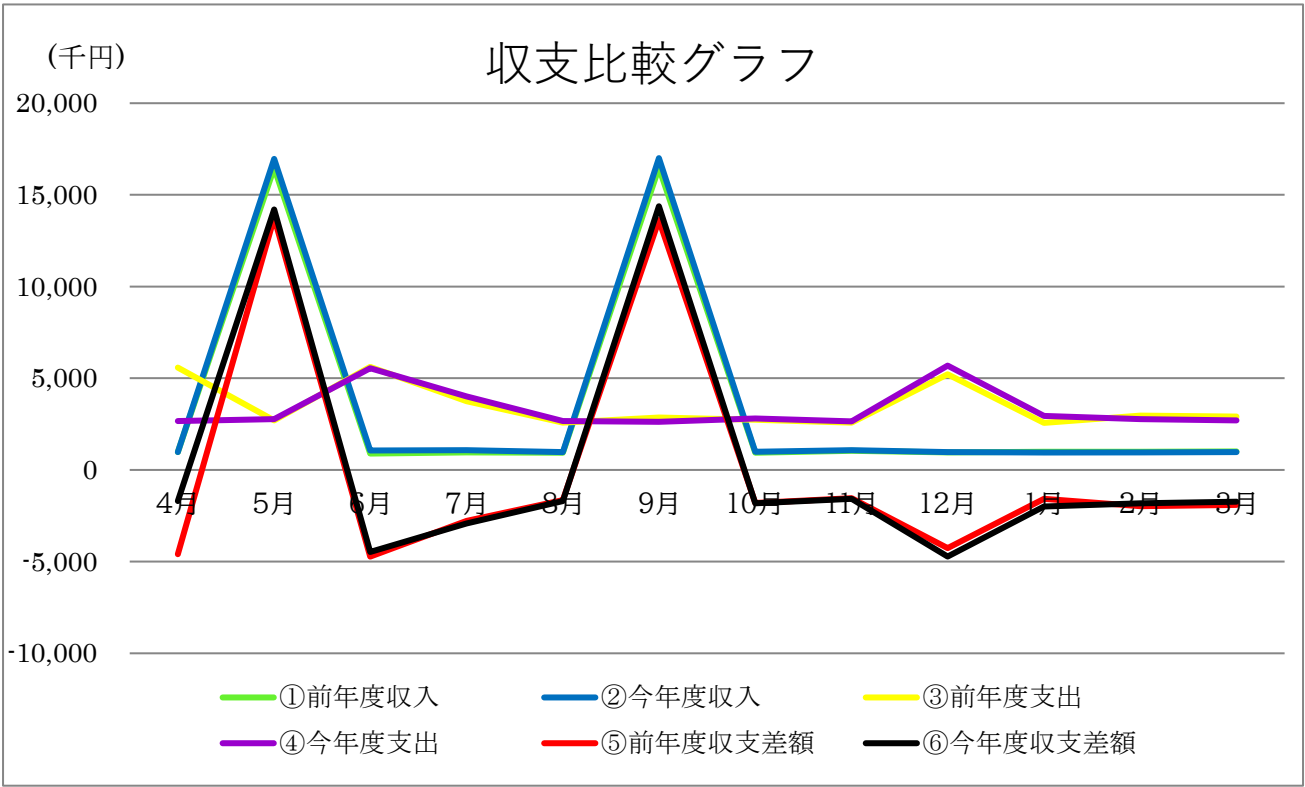
今年度も、センター便りを 3 ヶ月に 1 回、地域役員向け活動報告書を 2 ヶ月に 1 回発行し、地域包括支援センターの啓発、地域の実情把握を行うとともに、地域との連携強化に取り組んでい

る。また、認知症担当職員を中心に、地域の個人医院や薬局、商店等に挨拶にまわり、地域包括紹介のリーフレットを置いてもらえるよう依頼しており、上半期は、地域包括の業務内容を掲載した報告書・認知症サポーター養成講座案内のチラシを配る等、地域回りを継続し、地域との連携強化に努めた。

年間収支比 (千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
①前年度収入	975	16,467	894	960	935	16,481	36,712	
②今年度収入	980	16,971	1,068	1,085	968	17,005	38,077	104
③前年度支出	5,574	2,709	5,620	3,748	2,586	2,858	23,095	
④今年度支出	2,673	2,773	5,544	4,002	2,658	2,625	20,275	88
⑤前年度収支差額	-4,599	13,758	-4,726	-2,788	-1,651	13,623	13,617	
⑥今年度収支差額	-1,693	14,198	-4,476	-2,917	-1,690	14,380	17,802	131
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
①前年度収入	930	1,037	951	987	990	1,016	42,623	
②今年度収入	990	1,072	966	950	952	969	43,976	103
③前年度支出	2,735	2,577	5,210	2,566	2,961	2,915	42,059	
④今年度支出	2,813	2,652	5,689	2,951	2,768	2,709	39,857	95
⑤前年度収支差額	-1,805	-1,540	-4,259	-1,579	-1,971	-1,899	564	
⑥今年度収支差額	-1,823	-1,580	-4,723	-2,001	-1,816	-1,740	4,119	730

※5 月・9 月 姫路市より委託料収入あり



総合相談支援事業の相談者(重複あり)

(件)

区分	家族・本人	行政 (市役 所)	行政 (警察 等)	ケアマネ ジャー	介護保険 サービス事業者	医療 機関	民生委員	地域団体 等	その他
4月	150	10	0	40	34	28	11	0	1
5月	148	22	0	56	8	41	9	9	38
6月	165	5	1	56	28	14	7	11	24
7月	140	13	1	37	11	19	6	8	36
8月	142	13	1	31	20	27	1	8	10
9月	157	4	0	34	8	20	2	7	5
10月	175	17	0	22	18	26	13	15	11
11月	202	4	1	30	21	32	2	11	2
12月	127	2	4	26	19	14	4	1	6
1月	97	0	1	21	16	20	7	8	14
2月	161	5	0	32	15	14	4	4	15
3月	171	8	0	31	28	17	4	6	14
合計	1,835	103	9	416	226	272	70	88	176

特別養護老人ホームサンライフ土山

令和 6 年度事業報告書

昨年 3 月より理学療法士が機能訓練指導員となり、個別機能訓練加算Ⅱの算定を再開した。屋上での車いす操作を行なうメニューや個別的に機能訓練を実施する時間が増えたことで、喜びの声が聞かれた。また、多くの利用者様に対してポジショニングについての関わりも行なえており、ポジショニングについての研修も実施出来ている。さらには福祉用具の選定についても関わってもらっている。4 月より管理栄養士 2 名体制になり栄養マネジメント強化加算と個別機能訓練加算Ⅲが算定できるようになった。

年度の初旬に、利用者様にも新型コロナウイルスの感染が確認されたが、数名のみの感染で終結となった。面会の制限については、ご家族からの強い要望もあり、1 回の面会時間を 15 分から 1 時間へと延長し、土曜日も隔週で面会出来るように制限の緩和を行なった。

行事は、夏祭りや敬老会も実施でき、参加が難しかったご家族にも写真を送付することができた。

また、各ユニットのフロアのテレビで YouTube が活用できるようになり、体操の動画や歌手の歌謡曲が簡単に流せるようになった。併設のデイサービスで使用しているカラオケの機器も、デイサービスが休みである日曜日にのみ貸し出しが可能になり、利用者様からのカラオケがしたいというニーズにも応えることが出来た。

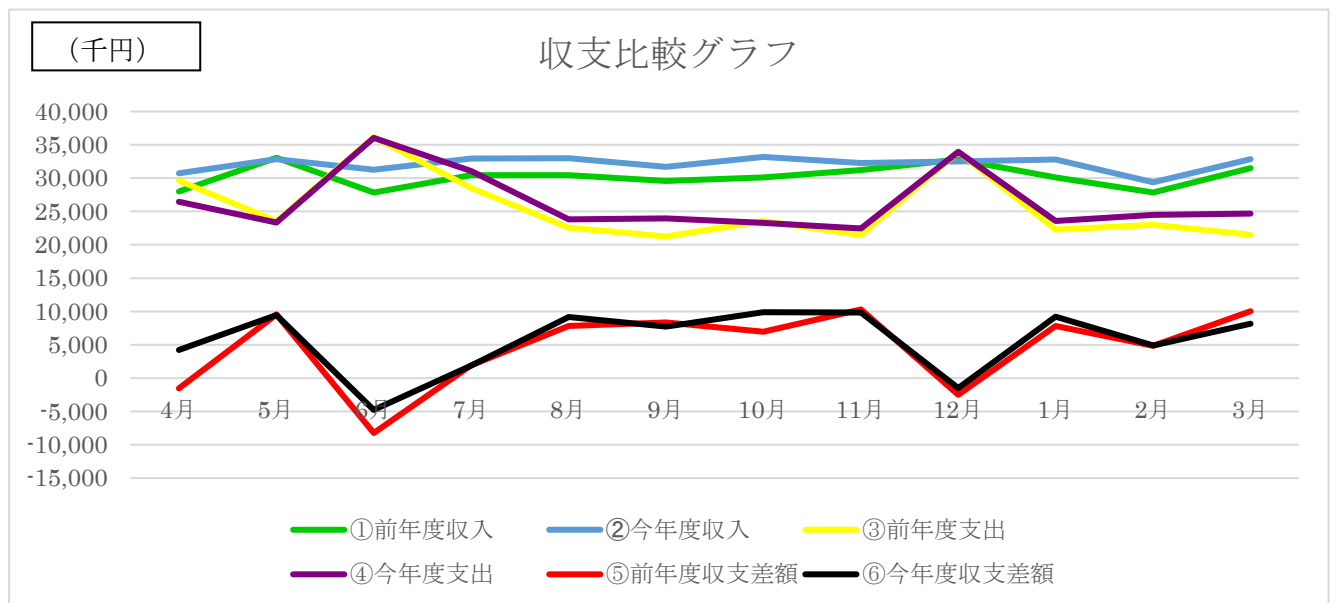
今年度は 29 名の方が退所され、うち 21 名が施設での看取り介護による最期を迎えられた。介護、看護職員をはじめ、多くの部署のスタッフが利用者様とご家族と連携を取り、看取りの支援が行なえた。

稼働率に関しては、前年度 95.8%と比較して、今年度は 95.7%とほぼ変わらない数字であったが、介護報酬の改定と加算取得により今年度の収入は 1182.5 万円増えた。今年度の収支差額についても、上半期では前年度と比較し 487 万円の減であったが、下半期を含めると 749 万円増という結果になった。

1. 年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
① 前年度収入	29,772	34,664	31,085	31,402	31,357	31,502	189,781	—
② 今年度収入	30,712	32,825	31,269	32,950	33,009	31,682	192,447	101.4
③ 前年度支出	25,362	22,358	33,231	27,646	24,913	23,687	157,199	—
④ 今年度支出	26,481	23,355	36,039	31,079	23,840	23,946	164,740	104.8
⑤ 前年度収支差額	4,410	12,305	-2,147	3,756	6,444	7,815	32,583	—
⑥ 今年度収支差額	4,231	9,470	-4,770	1,870	9,169	7,736	27,708	85.0
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
① 前年度収入	33,277	29,125	30,059	30,675	29,841	30,823	373,581	—
② 今年度収入	33,181	32,288	32,488	32,790	29,378	32,833	385,406	103.2
③ 前年度支出	23,638	22,171	34,182	23,337	25,077	27,235	312,839	—
④ 今年度支出	23,294	22,446	33,966	23,584	24,475	24,668	317,173	101.4
⑤ 前年度収支差額	9,639	6,953	-4,123	7,338	4,764	3,589	60,743	—
⑥ 今年度収支差額	9,887	9,842	-1,478	9,206	4,903	8,145	68,233	112.3



2. 利用者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
R5 年度実績	1,980	2,100	2,088	2,108	2,104	2,058	12,438
R6 年度実績	1,997	2,093	1,986	2,048	2,065	2,015	12,204
前年度との差異	17	-7	-102	-60	-39	-43	-234
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
R5 年度実績	2,107	1,930	1,998	2,069	1,970	2,039	24,551
R6 年度実績	2,117	2,028	2,076	2,102	1,853	2,091	24,471
前年度との差異	10	98	78	33	-117	52	-80

3. 入院者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
R5 年度実績	116	65	8	62	60	37	348
R6 年度実績	37	42	63	60	58	68	328
前年度との差異	-79	23	55	2	2	-31	20
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
R5 年度実績	54	127	118	69	17	32	765
R6 年度実績	39	46	77	39	57	48	634
前年度との差異	-15	-81	-41	-30	40	16	-131

4. 稼働率

(単位：%)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
R5 年度実績	94.3	96.8	99.4	97.1	97.0	98.0	97.1
R6 年度実績	95.1	96.5	94.6	94.4	95.2	96.0	95.3
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
R5 年度実績	97.1	91.9	92.1	95.3	97.0	94.0	95.8
R6 年度実績	97.6	96.6	95.7	95.3	94.6	96.4	95.7

5. 令和6年度別要介護度別利用者数

	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満	0	0	0	0
65歳以上～75歳未満	671 (22)	210 (8)	0	881 (30)
75歳以上～85歳未満	701 (25)	3370 (115)	2568 (86)	6639 (226)
85歳以上～95歳未満	3659 (124)	1157 (40)	2530 (87)	13255 (449)
95歳以上	365 (12)	902 (30)	848 (28)	2370 (80)
100歳以上	0	1117 (37)	843 (28)	1960 (65)
合計	5396 (183)	12920 (438)	6789 (229)	25105 (850)

前半の数字は延べ日数、() 内の数字は実人数を示しています。

6. 令和6年度 事故分類別発生者数

	A	B	C	合計
合計	2	4	162	168

Aランクの事故

- ・N様 11/29 20:15頃居室の前辺りで右側臥位になっておられる。

翌日痛みあり、八家病院受診により左座骨骨折との診断を受ける。家人の意向により入院され、12/13に退院される。

- ・S様 2/23 0:10頃トイレにて左側臥位に転倒しておられる。意識レベルの低下見られ救急搬送となる。ツカザキ病院にてCT検査行い脳内出血とのことで入院となる。3/4退院される。

7. 令和6年度 退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
看取り介護	1	2	2	1	0	1	7
病院	1	0	1	1	0	1	4
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	2	3	2	0	2	11
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看取り介護	3	1	3	2	5	0	21
病院	0	0	1	0	1	1	7
急死	0	0	0	1	0	0	1
その他	1	0	0	0	0	0	0
合計	3	1	4	3	6	1	29

サンライフ土山ショートステイ

令和 6 年度 事業報告書

本年度は、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症を持ち込むことはなく、営業することができた。

人材育成については、引き続き仕事の適切な割り振りを行ない、指導も続けていく。また変わらず報告、連絡、相談が疎かなままなので、個別に指導を行なっていくこととする。

レクリエーションについては、企画書を提出して行なうようなレクリエーションはできなかったもので、次年度への課題としたい。

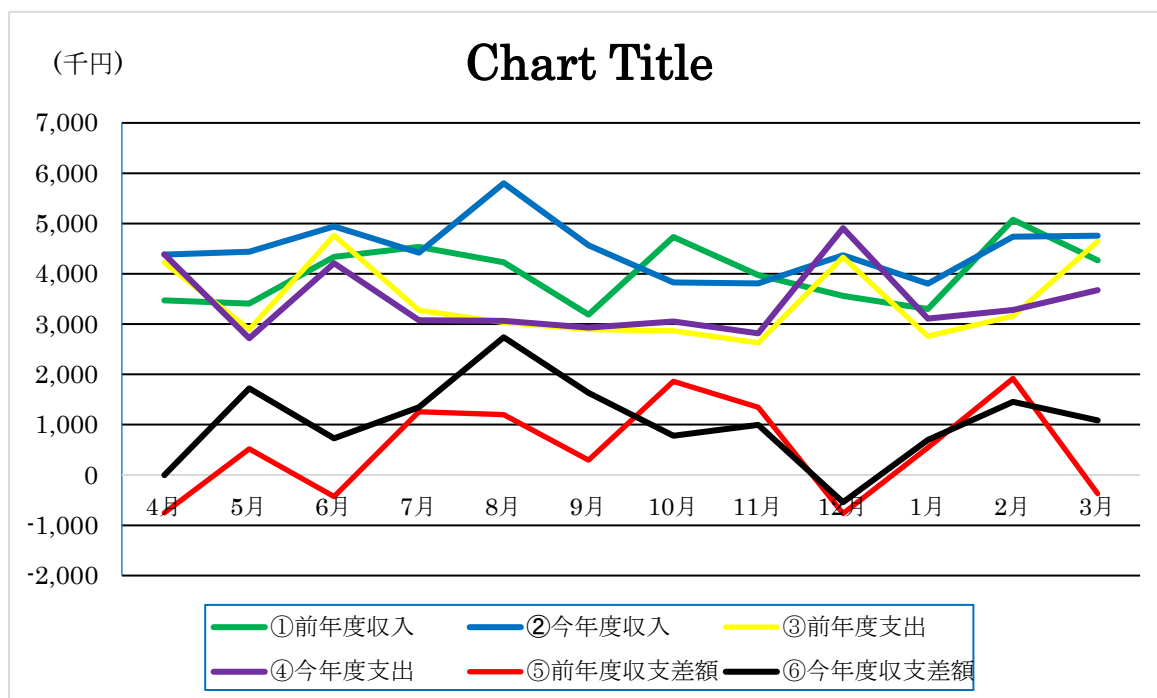
事故については、数は減少しているが、前年度同様の同じ利用者様の繰り返しの事故や入院になる事故が増えているため、引き続きできる範囲での対策を講じていく。

収入面に関して、目標である稼働率は達成することはできた。ただ月により稼働率の差が大きく、前年度同様、急なキャンセルの際の穴埋めをスムーズに行なうことができるよう努めていく。

1. 年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
① 前年度収入	3,471	3,410	4,335	4,534	4,230	3,188	23,168	—
② 今年度収入	4,385	4,441	4,939	4,420	5,800	4,564	28,549	123.23
③ 前年度支出	4,223	2,892	4,762	3,274	3,032	2,894	21,077	—
④ 今年度支出	4,388	2,718	4,213	3,074	3,062	2,929	20,384	96.7
⑤ 前年度収支差額	-752	518	-427	1,260	1,198	294	2,091	—
⑥ 今年度収支差額	-3	1,723	726	1,346	2,738	1,635	8,165	390.48
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
① 前年度収入	4,732	3,974	3,564	3,301	5,075	4,269	48,083	—
② 今年度収入	3,830	3,810	4,366	3,804	4,737	4,760	53,856	112.0
③ 前年度支出	2,868	2,628	4,331	2,760	3,157	4,642	41,463	—
④ 今年度支出	3,052	2,815	4,908	3,110	3,280	3,673	41,222	99.4
⑤ 前年度収支差額	1,864	1,346	-767	541	1,918	-373	6,620	—
⑥ 今年度収支差額	778	995	-542	694	1,457	1,087	12,634	190.8



2. 令和5年度・令和6年度 利用人数比較 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
5年度実績	217	264	296	321	303	343	1,744
6年度実績	314	307	347	385	335	316	2,004
前年との差異	97	43	51	64	32	-27	260
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5年度実績	362	379	242	315	290	321	3,653
6年度実績	290	253	280	314	305	318	3,764
前年との差異	-72	-126	38	-1	15	-3	111

3. 令和5年度・令和6年度 宿泊人数比較 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
5年度実績	179	218	255	273	256	292	1,473
6年度実績	279	266	305	338	293	278	1,743
前年との差異	100	48	50	65	37	-14	286
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5年度実績	315	334	220	277	263	287	3,169
6年度実績	251	213	239	269	271	275	3,277
前年との差異	-64	-121	19	-8	8	-12	108

4. 令和5年度・令和6年度 月ごとの稼働率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
稼働率(5年)	72.3	85.2	98.7	103.5	97.7	110.6	
稼働率(6年)	104.6	99.0	115.6	124.1	108.0	105.3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(5年)	116.7	126.3	78.1	101.6	100.0	103.5	99.5
稼働率(6年)	93.5	84.3	90.3	101.2	108.9	102.5	103.1

5. 令和6年度年齢別・介護度別利用者数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満								
65歳以上～ 75歳未満			27 (6)	3 (1)	36 (12)	117 (5)		183 (24)
75歳以上～ 85歳未満			242 (43)	72 (25)	351 (29)	175 (10)	79 (4)	919 (111)
85歳以上	10 (2)	45 (7)	560 (87)	299 (44)	793 (82)	832 (53)	123 (19)	2662 (294)
合計	10 (2)	45 (7)	829 (136)	374 (70)	1180 (123)	1124 (68)	202 (23)	3764 (429)

前半の数字は延べ日数、()内の数字は実人数を示しています

6. 令和5年度・令和6年度 事故件数比較

	A	B	C	合計
事故件数(5年)	1		56	57
事故件数(6年)	2		35	37

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

R6年度

A 左大腿骨頸部骨折、左脛骨高原骨折

特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

令和6年度 事業報告書

令和6年度は、看護師の増員に伴い看護加算Ⅱを算定できるようになった。機能訓練指導員も理学療法士が配属され個別の機能訓練やポジショニング等の質が向上するように努めた。

看護師の数は増えたが仕事の効率をいかに上げていくかを課題としフロアー滞在時間を増やしユニット会議等にも積極的に参加し多職種と連携・協働し、安全・安心な医療・看護提供に努め介護職員及び他の職員との連携の強化を図った。

入居と同時に心療内科、皮膚科、厚生病院各施設医への回診等で治療が必要な利用者様や状態の安定しない方も多く、協力医への報告・連絡・相談や家族様への連絡等の実施や入居前に受診されていた病院等への確認や調整を必要とすることが多くあった。年度後半は、看取りの方・急変等により永眠されることがあり、新規入居の対応に迫られた。

安全・安心な医療・看護提供の為に、早急な対応や外部を含む各専門医による適宜適切な治療を受けることや、介護職員等の適切な観察・支援により健康状態の悪化を防ぐことに尽力した。

職員の体調についても相談しやすい環境づくりができ、適宜相談を受け必要時には受診をすすめ、時には付き添いも行い職員の健康管理に寄与することが出来た。

食事介助の実施や嘱託歯科医院との連携等も強化する事により、必要な食事形態の提供や口腔ケアの実施・誤嚥防止指導に積極的に取り組むことができ、介護職員や他の職員との連携・協働により利用者様の口腔状態の改善が見られ、嘱託歯科医より口腔衛生状態についてお褒めの言葉も頂くことができた。

日々各種業務の簡素化・効率化に留意した。特に業務改善事項として、今までガーゼを医務にてカットし折り準備し使用していたが、折ガーゼを購入することに変更、また利用者様の他医院からの持ち込み薬や、回診等以外からの薬の処方日数、いつまで服用出来るように準備したか、点滴や注射、血糖検査やインスリン等の処置、臨時服用されている利用者様の服用内容がわかりやすいように一覧表を作成し業務時間や記録時間の短縮や効率化を図ることができた。時間の短縮や効率化により、わずかな時間でもフロアーに出向き滞在し介護職員・利用者様とコミュニケーションを図り、医務としてのニーズの取得に留意した。

利用者様の体調変化についても受診の有無の観察や状態等をFAXで送信し、嘱託医等の適切なアドバイスの元、病院受診の件数を減らすことができ、病院までの往復時間や待ち時間などの減少等ができた。また医務室内の必要書類の作成、分類、明確化など5Sの取組みを行うことにより業務の効率を上げた。各種研修にも積極的に参加し、医務内でのワンポイント教育等で知識・技術の取得・向上に努め、多忙な激務を乗り越えチームワークと団結の強化が図れ、利用者様、施設に貢献できたと自負しているとともに、今まで以上に上同等の医務現場を視認しご指導等頂き業務の改善や効率化を図りたいと思う。

特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

令和6年度 事業報告書

令和6年度は、4月より管理栄養士が2人体制となり、それに伴い5月から栄養マネジメント強化加算の算定を開始した。

令和7年3月時点で、低栄養状態のリスクが高リスク及び中リスクに該当する利用者は36名で全体の51%に当たり、算定要件にある週3回以上のミールラウンドはなかなか厳しいが何とか行えた。一人ひとりを見る時間は短いが頻繁に見ることで状態把握がしやすくなり、小さな変化にも気づくことができるようになった。また、以前の介護職員から状態を聞き取り、計画書の更新時に本人様を確認しに行っていた時と比べ、利用者様に深く関われるようになったように思う。その他に、ユニットに行く回数が増えたことで介護職員との交流が増え、気軽に利用者様の食事の相談をしてもらえるようになったようにも思う。

ただ、週3回以上のミールラウンドを満たすために現在は本当に短時間しか利用者様を見ることができていない。もう少し上手にラウンドできないか模索中である。

献立の充実については、少しずつ新しいメニューを入れていき、中には1度きりのメニューもあったが定番化したものも多数あり、バリエーションアップにつながった。また、管理栄養士が増えたことで今まであまり見なかった料理が増え、献立の幅が少し広がったように思う。そして、メイン料理の調理を担える職員が増えたため、調理工程が多く手間のかかる料理も出せるようになってきた。

食材の値上がりが続いているが、安いものに変えることにも限界があり、価格の高い食材を避けて献立を立てると似たような料理ばかりになってしまう。そのため完全に避けることはできないが、料理のバリエーションを増やせる完全調理済み食品も取り入れ偏りが少なくなるよう努めた。

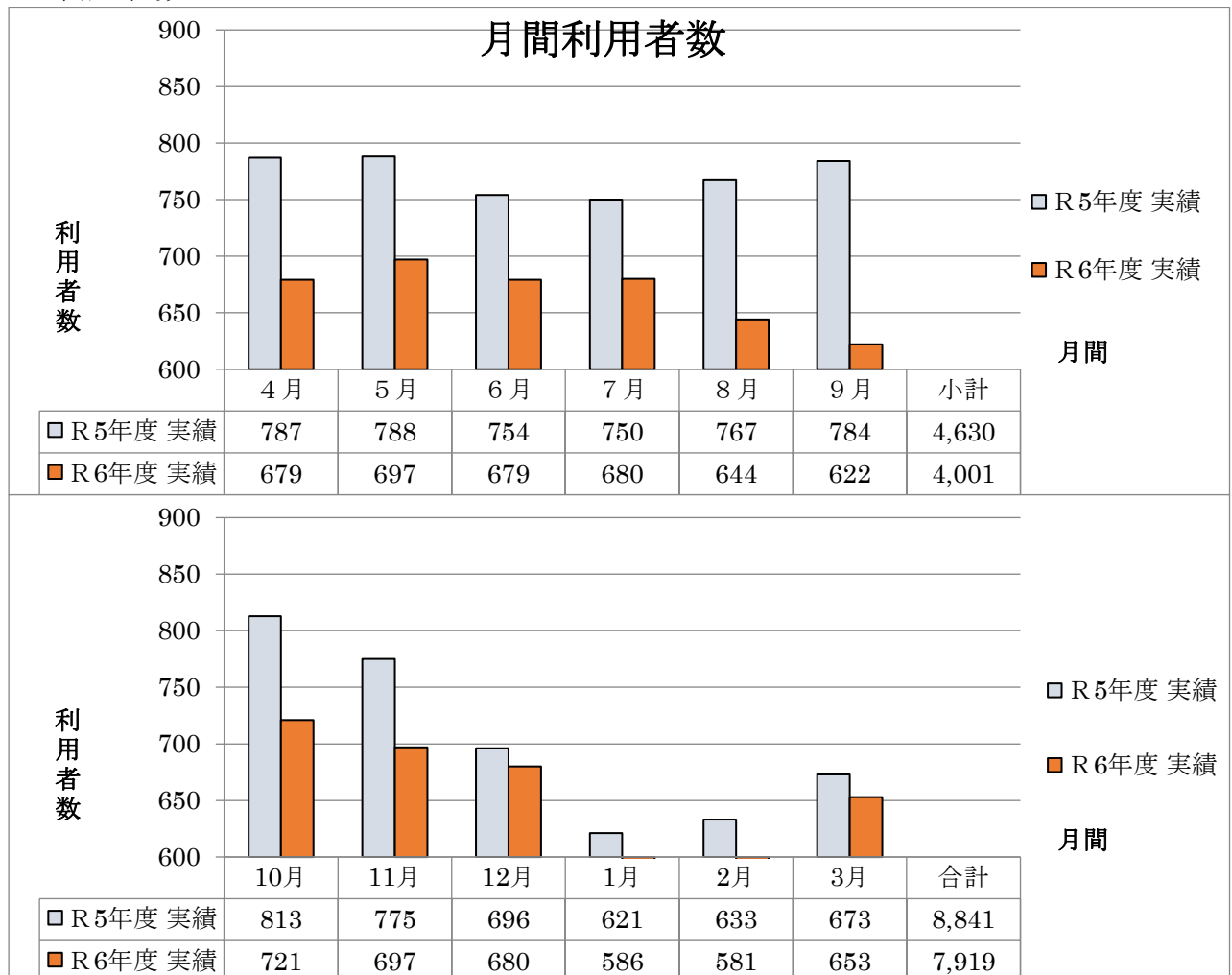
厨房内の清掃については、コンスタントに清掃ができたわけではないが、清掃の日を設け今まで行き届いていなかった場所の掃除をすることができた。また、床の汚れはすぐに目立つが重労働で頻繁に掃除ができていなかったが、デッキブラシを使用することで作業が楽になり以前よりキレイな床を保てるようになった。

厨房の人員について、下半期は体調不良で休まれることも少なく比較的安定した厨房運営ができた。ただ、非常勤職員の年齢も上がってきており体力的な不安もある。加えて、令和7年3月末で通し勤務をされていた職員が退職されたが、条件にあう方がなかなか見つからず新たな職員の採用には至っていない。

デイサービスサンライフ土山 令和6年度 事業報告書

感染対策を継続することで、クラスターを出すことなく、デイサービスを営業することができた。毎月週1回実施していた外出レクリエーションを隔週にし、買い物外出を増やすことで利用者様が外に出る機会を増やすことに努めた。機能訓練や多彩なレクリエーションを実施することで残存能力維持や意欲向上に努めた。スローガン『全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！』を掲げ気づいたことはお互いに言い合える現場作りを行い、良くなるように努めた。月平均利用者数25.5名となり、目標の30名を達成出来ず、収入増面では前年度に比べて減少となった。支出面でも前年度より人件費が大幅にかかる結果となった。結果収支差額は前年度の半分になっている。今後は営業活動やポスティングを積極的に行う。また介護支援専門員・他事業所・家族様との連携を図り、新規顧客の獲得に繋げていきたい。既存の利用者様においては、今後も必要な感染対策を継続し、安心して過ごしていただくことが出来るよう努めていきたい。

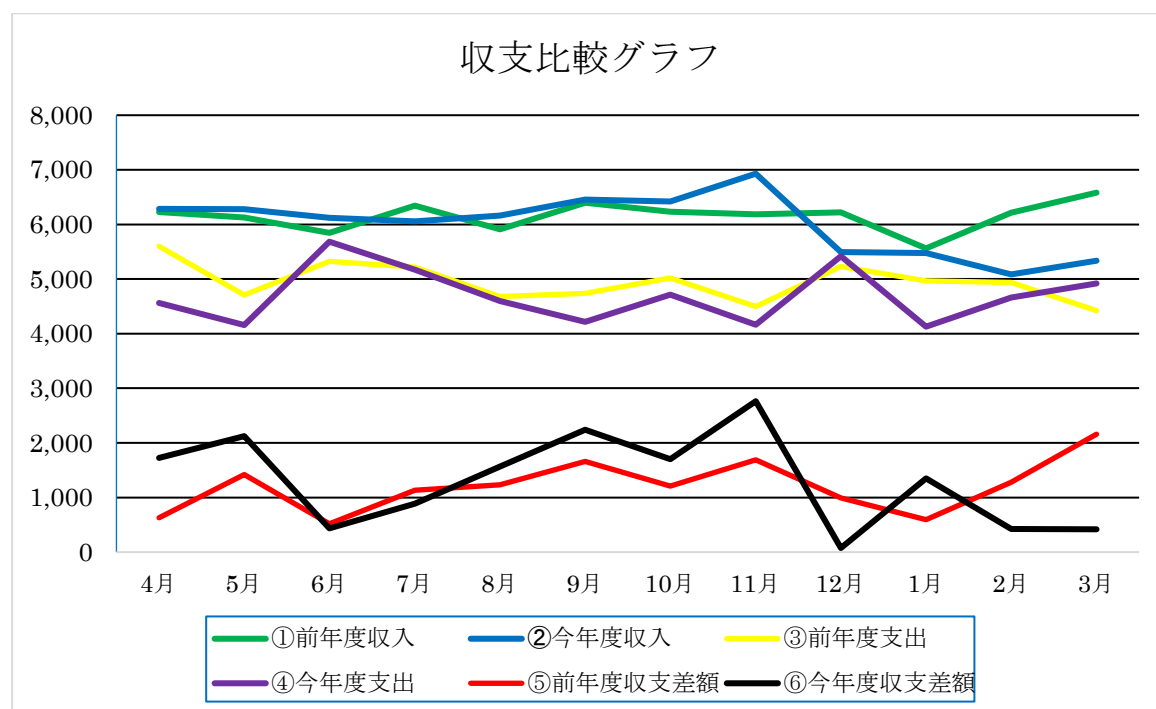
1. 利用者数



2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
1 前年度収入	6,283	6,278	6,120	6,054	6,162	6,453	37,350	—
2 今年度収入	6,053	6,022	5,696	5,775	5,397	5,378	34,324	91
3 前年度支出	4,560	4,157	5,684	5,169	4,598	4,215	28,386	—
4 今年度支出	5,151	5,102	6,556	6,540	4,917	4,958	33,225	117
5 前年度収支差額	1,723	2,121	436	885	1,564	2,238	8,967	—
6 今年度収支差額	902	920	-860	-765	480	420	1,097	12
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
1 前年度収入	6,418	6,929	5,494	5,477	5,085	5,338	72,091	—
2 今年度収入	6,329	6,616	6,104	5,163	4,999	5,397	70,003	97
3 前年度支出	4,715	4,166	5,419	4,128	4,661	4,920	56,397	—
4 今年度支出	4,699	4,402	5,815	4,600	4,261	4,065	61,071	108
5 前年度収支差額	1,703	2,763	75	1,349	424	418	15,699	—
6 今年度収支差額	1,660	2,214	289	563	738	1,332	7,893	50



3. 年齢別・介護度別利用者数

	事業 対象 者	要支 援 1	要支 援 2	要介 護 1	要介 護 2	要介 護 3	要介 護 4	要介 護 5	合計
65 歳未満		2 (1)							2 (1)
65 歳以上 75 歳未満		67 (12)	20 (7)	23 (7)	101 (12)		95 (12)		306 (50)
75 歳以上 85 歳未満	26 (4)		410 (64)	815 (74)	320 (26)	425 (39)	206 (29)	56 (15)	2312 (244)
85 歳以上	72 (11)	237 (61)	415 (52)	1879 (160)	874 (70)	1206 (77)	616 (66)		5299 (518)
合計	98 (15)	306 (74)	845 (116)	2717 (241)	1295 (129)	1631 (116)	971 (107)	56 (15)	7919 (813)

前半の数字は延べ回数、() 内の数字は実人数を示しています

4. 職員充足度 (R7 年 3 月現在)

職員 13 名 (正職員 3 名 非常勤看護師 3 名 非常勤介護職員 7 名)

個別機能指導員 (看護師) 1 名含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/月	利用者/ 日	職員 /日	職員 一人 対	職員/日	職員一人対
4 月	26	679	2264.8	26.1	13.3	1.97	11.4	2.29
5 月	27	697	2385.3	25.8	13.5	1.86	11.6	2.22
6 月	25	679	2113.5	27.1	12.3	2.20	10.3	2.62
7 月	27	680	2309.9	25.1	13	1.92	11.0	2.28
8 月	27	644	2229.5	23.8	12.5	1.89	10.5	2.26
9 月	25	622	2021.2	24.8	11.9	2.09	9.8	2.52
10 月	27	721	2100.3	26.7	11.9	2.23	9.5	2.85
11 月	26	697	2084.3	26.8	12.2	2.19	9.9	2.70
12 月	26	680	2075.5	26.2	11.8	2.22	9.5	2.76
1 月	24	586	1781.8	24.4	10.1	2.40	8.0	3.04
2 月	24	581	1729	24.2	11.9	2.22	8.6	2.82
3 月	26	653	1772	25.1	10.2	2.47	7.6	3.30

サンライフ土山居宅介護支援事業所

令和 6 年度 事業報告書

今年度は前年度より収入が増えたが、全体的に、要介護の新規依頼より予防の委託依頼が非常に多かった。敏速に利用者様の身体状態を見ながら区分変更などの対応を行っていたが、なかなか大きな収入には繋がっていない。

今年度は要介護者の新規獲得を増やしプラス収入に繋げるようにする。
大幅な収入増にはなっていないがかなり支出を抑えることが出来た。今年度も計画的に注意しながら業務を行っていく。

1. 営業・新規獲得実績 (単位：件)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
営業実績	7	7	7	8	8	10	47
新規獲得	2	4	9	8	6	4	33
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
営業実績	10	10	10	10	8	12	107
新規獲得	5	5	5	5	3	5	61

2. 居宅介護料収入 (単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 5 年度	789	770	747	858	832	722	4718
令和 6 年度	893	879	971	962	898	851	5454
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 5 年度	938	917	948	856	823	861	10061
令和 6 年度	1000	998	985	966	1060	1163	11626

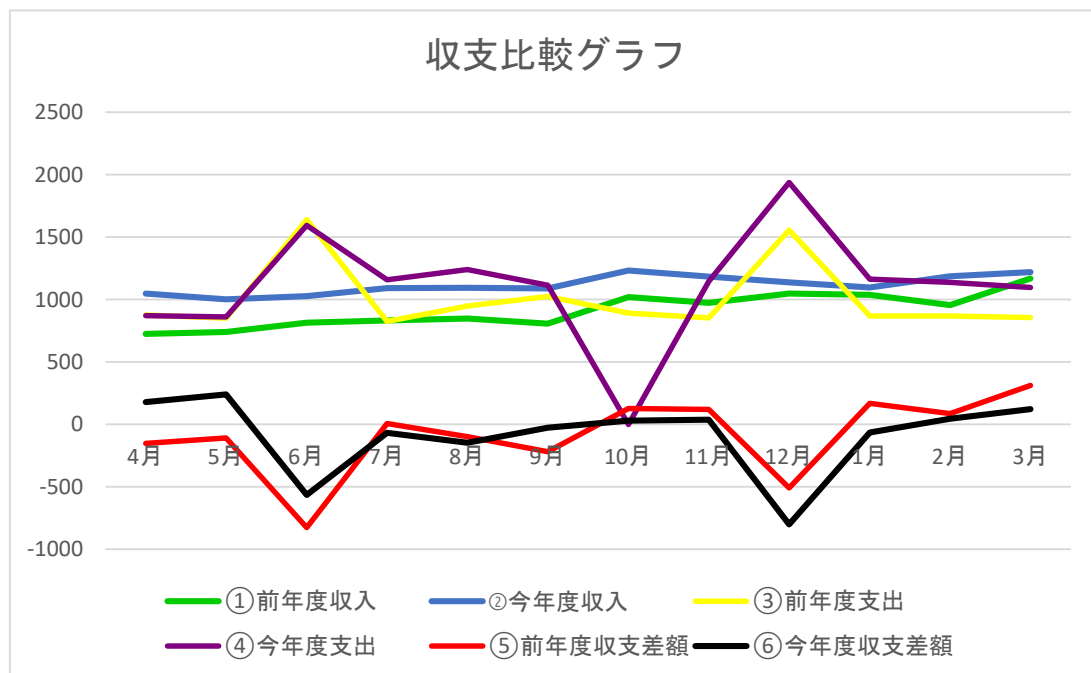
3. 予防委託料収入 (単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 5 年度	183	204	198	205	217	243	1250
令和 6 年度	216	201	238	242	245	240	1382
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 5 年度	233	214	210	198	210	220	2535
令和 6 年度	181	327	251	262	239	255	2897

4.年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
① 前年度収入	1075	1005	997	1118	1132	1053	6380	
② 今年度収入	1210	1210	1342	1303	1245	1195	7505	117.6
③ 前年度支出	1078	1014	1946	1542	1017	1026	7623	
④ 今年度支出	1037	1029	1938	1031	1050	1046	7131	93.5
⑤前年度収支差額	135	205	345	185	113	142	1267	
⑥今年度収支差額	-41	15	-8	-511	33	20	-492	
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
① 前年度収入	1286	1191	1245	1149	1120	1175	13546	
② 今年度収入	1262	1393	1359	1392	1434	1560	15905	117.4
③ 前年度支出	1042	1012	1867	982	945	2297	15768	
④ 今年度支出	1042	1012	1867	1017	1005	2184	15258	96.7
⑤ 前年度収支額	-24	202	114	243	314	385	2744	
⑥ 今年度収支額	0	0	0	35	60	-78	-475	

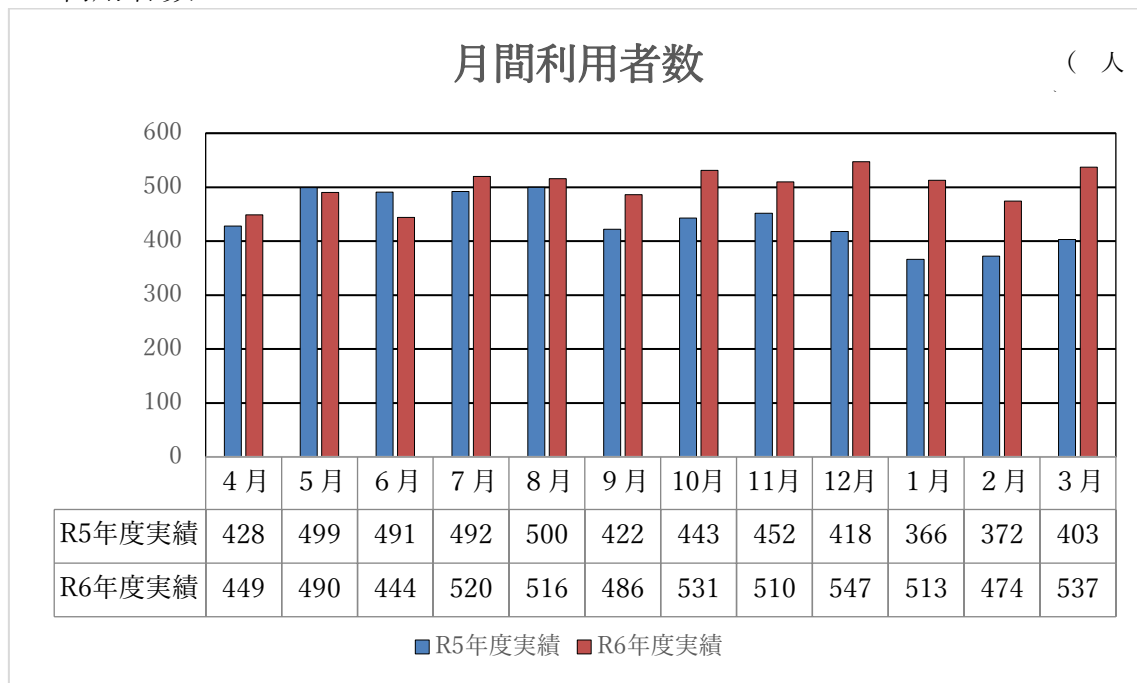


リハビリデイサービス サンライフ御立西

令和6年度 事業報告書

令和6年度経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をもとに、職員一人ひとりが各職種の役割を再確認し、業務全般の見直しを行い、利用者様の満足度を高められるよう環境を整備することにより、利用者様や家族様に選んでいただけるデイサービスを目指した。理学療法士による個別リハビリでは、常に在宅支援の視点で援助した。利用者様一人ひとりの心身状態及び生活環境に即した機能訓練を実施し、残存機能の維持・向上に努めた。また、介護職員による介護予防に視点を置いたレクリエーションやレッドコードエクササイズ、機能訓練を兼ねた外出レクリエーションに参加することにより、楽しみながら体力の増進・維持向上を図ることが出来るよう支援した。収入面では、月平均利用者数19.4名となり、目標の19.3名を達成することができ収入増となった。支出面では修繕費等経費は増加となったが、人件費等の削減により支出減となった。引き続き、リハビリ特化型デイサービスとしての認知度と利用者満足度の向上を両立することで、継続的な成長を実現し、選んでいただけるデイサービスを目指していきたい。

1. 利用者数

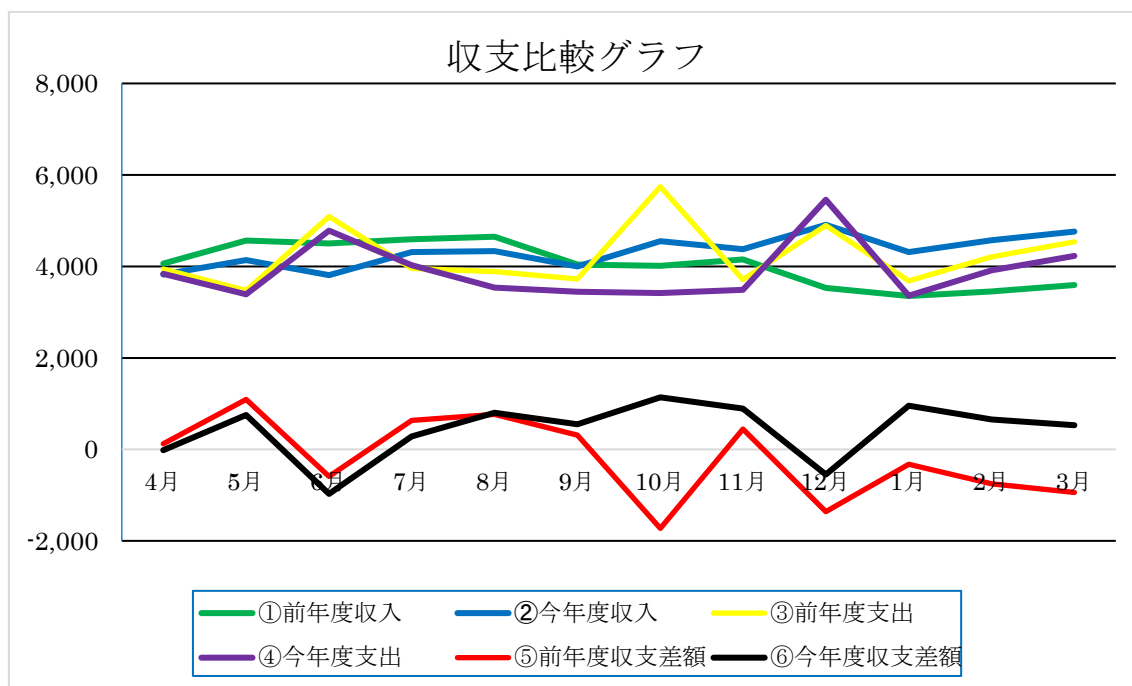


令和5年度実績 5,286人 令和6年度実績 6,017人 前年度比 113.8%

2. 年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
1 前年度収入	4,063	4,565	4,499	4,595	4,649	4,040	26,411	—
2 今年度収入	3,821	4,142	3,809	4,311	4,336	3,996	24,415	92.4%
3 前年度支出	3,940	3,473	5,092	3,959	3,884	3,726	24,074	—
4 今年度支出	3,841	3,390	4,782	4,028	3,534	3,445	23,020	95.6%
⑤前年度収支差額	123	1,092	-593	636	765	314	2,337	—
⑥今年度収支差額	-20	752	-973	283	802	551	1,395	—
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
1 前年度収入	4,015	4,156	3,532	3,353	3,453	3,594	48,514	—
2 今年度収入	4,553	4,378	4,910	4,315	4,573	4,761	51,905	107%
3 前年度支出	5,742	3,715	4,891	3,682	4,209	4,536	50,849	—
4 今年度支出	3,415	3,488	5,458	3,360	3,917	4,230	46,888	92.2%
⑤前年度収支差額	-1,727	441	-1,359	-329	-756	-942	-2,335	—
⑥今年度収支差額	1,138	890	-548	955	656	531	5,017	—



3. 年齢別・介護度別利用者数

	事業 対象 者	要支 援 1	要支 援 2	要介 護 1	要介 護 2	要介 護 3	要介 護 4	要介 護 5	合計
65 歳未満				73 (9)		17 (5)	94 (12)		184 (26)
65 歳以上 75 歳未満		36 (9)	247 (34)	106 (9)	103 (13)	5 (2)			497 (67)
75 歳以上 85 歳未満		113 (31)	565 (82)	882 (105)	550 (64)	325 (43)	129 (17)		2564 (342)
85 歳以上		214 (51)	554 (72)	1390 (158)	406 (55)	148 (24)	26 (7)	34 (5)	2772 (372)
合計		363 (91)	1366 (188)	2451 (281)	1059 (132)	495 (74)	249 (36)	34 (5)	6017 (807)

前半の数字は延べ回数、() 内の数字は実人数を示しています

4. 職員充足度 (R7 年 3 月末現在)

職員 17 名【内訳】正職員 3 名 非常勤職員 14 名

							個別機能指導員 1 名含まない	
	営業 日数	利用者/月	職員総時間数 /月	利用者/日	職員/月	職員一人 対	職員/月	職員一人 対
4 月	26	449	1,316	17.30	7.7	2.3	6.7	2.6
5 月	27	490	1,367	18.20	7.7	2.4	6.7	2.7
6 月	25	444	1,332	17.80	7.8	2.3	6.8	2.6
7 月	27	520	1,444	19.30	8.2	2.4	7.2	2.7
8 月	27	516	1,393	19.11	7.9	2.4	6.9	2.8
9 月	25	486	1,320	19.44	7.7	2.5	6.7	2.9
10 月	27	531	1,431	19.67	8.1	2.4	7.1	2.8
11 月	26	510	1,402	19.62	8.2	2.4	7.2	2.7
12 月	26	547	1,376	21.04	7.8	2.7	6.8	3.1
1 月	24	513	1,335	21.38	7.5	2.8	6.5	3.3
2 月	24	474	1,236	19.75	7.7	2.6	6.7	2.9
3 月	26	537	1,400	20.65	7.9	2.6	6.9	3.0

特別養護老人ホームサンライフ西庄

令和6年度 事業報告書

令和6年度ささゆり会経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」に沿って事業運営に取り組んだ。環境整備として5S活動や業務の効率化に努めた。職員一人ひとりに責任を持たせ、情報を共有することで考え行動できる人づくりに努めた。新型コロナウイルスのクラスターが発生したが、感染対策をすることで死亡者は発生しなかった。虐待予防の研修や体制の再構築、協力医療機関との連携体制を構築し感染症及び非常災害BCPの研修や訓練を行い、安心して安定した介護サービスの提供が継続できるように努めた。感染対策による制限の中ではあるが、外出の機会を設けることで自由に面会したいといったご家族のストレスは軽減出来ている。リストランテ・ボーノを続けることで地域貢献に努めている。また、電気代・ガス代・食材費などの高騰が続いている為、昨年と同様に節約に取り組んだ。

1. 人材育成について

I. 全ての勤務実施

今年度3名の特定技能実習生を受け入れた。

外国人労働者に限らず、リーダー及びチューターが利用者毎、介助毎に「やって見せ」「やらせてみて」最後に両者からチェックして一人で出来るようになるという指導を行い、安全で安心な介護提供が出来るようにしている。

1年半以上勤務する特定技能及び技能実習生に対し緊急時の対応研修や電話対応の研修を行うことで1フロアを1名で担当する夜勤を開始している。

II. 居室担当・ケアプラン作成

今年度受け入れた特定技能実習生2名に対して、チェックリストを使用しながらリーダーと特定技能実習生とで、1～2週間毎にそれぞれが評価し何が出来ていて何が出来ていないかを擦り合わせを行い指導している。パソコンや教材を支給し日本語教室への参加が適う環境を整え、日本での生活や仕事に困らないように支援をしている。居室担当やケアプランの原案作成において、日本人職員と共同で担当し、フォローしながら対応している。N2試験を合格した者については介護福祉士の勉強会への参加、実務者研修の受講を勧め、支援している。

2. 介護の質について

I. 生産性向上の取組み

施設長がトヨタ生産方式による生産性の向上の取組みの研修を受け、施設全体での5S活動や改善活動に取り組んだ。QC活動では排泄にかかる職員負担の軽減として『尿漏れ回数の減少』をテーマにした活動を行った。20%削減が適い目標を達成できた。巡回による睡眠の妨げや必要以上の訪室回数を減らす為眠りスキャンを全室に導入する為補助金申請を行ったが落選してしまった。

II. 余暇活動支援について

コロナウイルスクラスターや穏やかな気候があまりなかったため、お花見散歩を行うぐらいで外出の機会は少なかった。手作りおやつや月1回の誕生会、運動会やクリスマス会等季節に応じた行事を開催して楽しんで頂いた。

3. リスクマネジメント（介護事故・感染症・自然災害等）

I. 感染対策の強化

感染症委員会が主体となり、全職員にガウンテクニックの指導とチェックを行っている。9月に感染症委員で研修資料を作成し10月にBCPとしてゾーニングについての机上訓練、3月にノロウイルス等接触感染に対する初期対応の物品場所の確認を行った。

II. 自然災害 BCP

8月に水災害、3月に地震によるBCP避難訓練及びchatworkやメールを使用した情報共有訓練を実施した。

III. 事故について

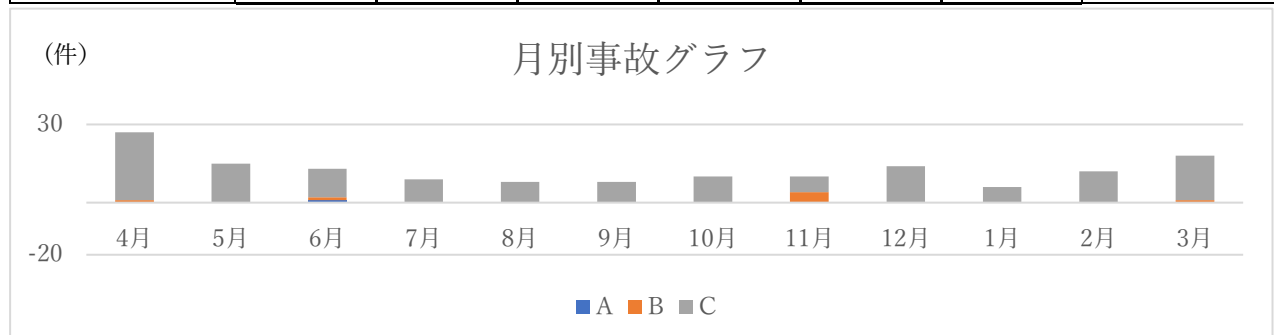
転倒を繰り返していた方が重度化したため転倒件数が減少してきている。Aランク事故としては普段歩行されない方が急に歩き出し転倒・骨折すると言った骨折事故が1件あった。ヒヤリハット報告から事故回避を検討し、リスク回避が適わない場合にはリスクの低減を考え対策をしている。

●事故件数

(単位：件)

令和6年度事故件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
総数	27	15	13	9	8	8	80
A	0	0	1	0	0	0	1
B	1	0	1	0	0	0	2
C	26	15	11	9	8	8	77
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	10	10	14	6	12	18	150
A	0	0	0	0	0	0	1
B	0	4	0	0	0	1	7
C	10	6	14	6	12	17	142



- A の事故は入院を要する事故
 B の事故は通院を要する事故
 C の事故は通院を要しない事故

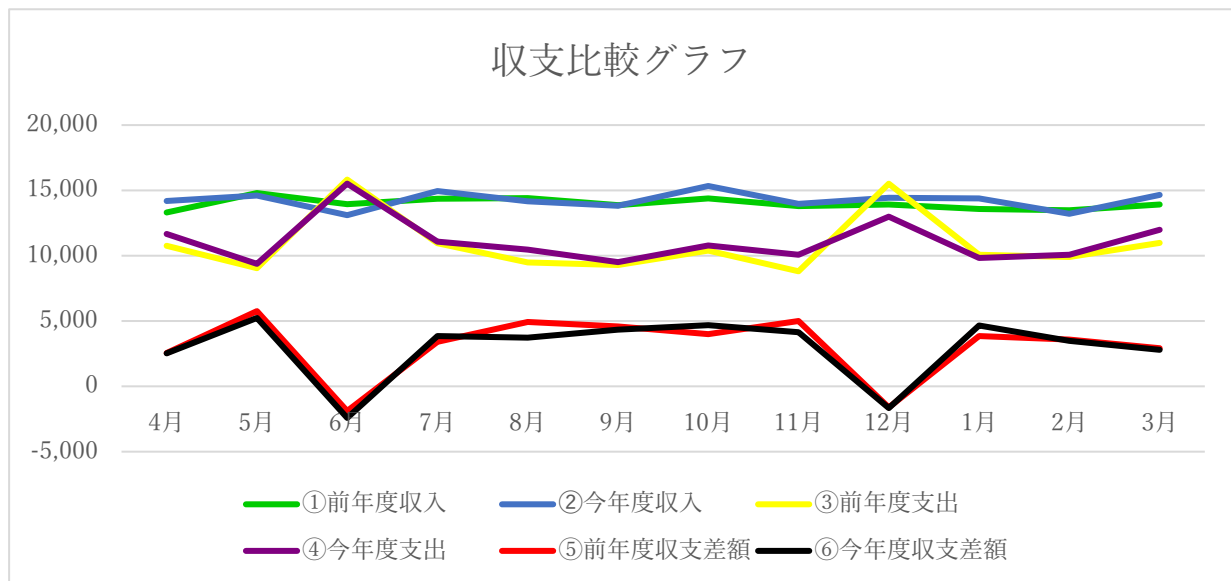
4. 健全経営（収入・支出等）

前年度は退所者が少なくコロナのクラスターも無かったため稼働率 99%だったが、今年度は新型コロナウイルスクラスター、入院等で稼働率が 98%であった。目標値には到達している。また、看護師の人員不足に伴い看護体制加算Ⅱが算定できない事があった。求人広告を行うも反響は無く、本体施設からの応援で補った。協力医療機関連携加算や生産性向上加算等新たな加算や介護サービス費の増額、居室料の増額があった為昨年より 300 万円の増収となった。支出面として、電気代が高騰する中、昨年と同様に施設全体で節電や節ガス、節水を行うが軽減措置の終了や気候の変動が激しく光熱費は約 30 万円増額している。支出合計としては約 70 万円増額している。嘱託職員や非常勤職員への賞与、物価高騰による昇給があった為人件費が約 500 万円増加している。収支差額としては約 280 万円の減収となっている。

I. 年間収入差額

●令和 6 年度年間収支 （単位:千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
①前年度収入	13,310	14,797	13,942	14,361	14,413	13,879	84,704	-
②今年度収入	14,191	14,613	13,104	14,944	14,170	13,835	84,859	100.1%
③前年度支出	10,762	9,037	15,828	10,953	9,497	9,299	65,379	-
④今年度支出	11,671	9,377	15,520	11,088	10,454	9,499	67,611	103.4%
⑤前年度収支差額	2,548	5,760	-1,886	3,408	4,916	4,580	19,325	-
⑥今年度収支差額	2,520	5,236	-2,416	3,856	3,716	4,336	17,248	89.2%
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
①前年度収入	14,381	13,797	13,914	13,586	13,468	13,914	167,767	—
②今年度収入	15,339	13,961	14,424	14,389	13,209	14,665	170,849	101.8%
③前年度支出	10,385	8,808	15,522	10,070	9,898	10,983	130,703	—
④今年度支出	10,778	10,072	12,981	9,836	10,081	11,994	136,550	104.4%
⑤前年度収支差額	3,996	4,992	-1608	3,858	3,570	2,931	41,660	—
⑥今年度収支差額	4,689	4,136	-1654	4,658	3,478	2,796	36,915	88.6%



Ⅱ. 入院者数

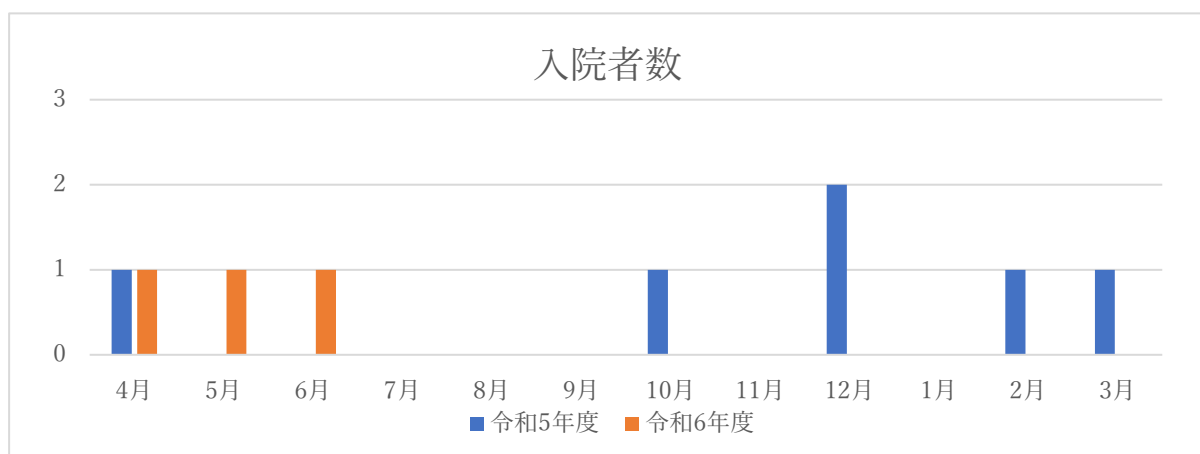
入院者数については、前年度が6名であったが今年度は3名となった。内容としては肺炎、胆嚢炎、新型コロナ重症化による重症肺炎及び腎不全であった。病院では食事が摂れず治療も出来ない状態となり、看取り介護を行う為に施設へ退院される。食事形態の変更や介助方法の見直しを行い、施設ケアの力で食事摂取が適い、状態は安定している。

●入院者数

(人)

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和5年度	1	0	0	0	0	0	1
令和6年度	1	1	1	0	0	0	3
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年度	1	0	2	0	1	1	6
令和6年度	0	0	0	0	0	0	3



Ⅲ. 地域貢献

運営推進会議を2か月に1回開催、子ども食堂を月1回20名定員で開催している。大学生ボランティアや飛び込みの高校生ボランティアがあり子供たちも楽しそうな様子があった。4月・7月はコロナクラスターの為中止、8月は利用者がほとんどいない為中止、2月はインフルエンザが社会的に流行している為中止となった。

5. ガバナンスについて（虐待・パワハラ・セクハラ・法令順守・就業規則等）

登録機関や法人本部による書類に不備があり、昨年度受け入れた特定技能実習生の事前登録が上手く行えていなかった為、入国管理局より厳しい指導があり、実習生が2か月近く働けない事があった。受け入れ法人の変更や就業場所変更等を行う際には書類の確認を行い、再発予防に取り組むたい。

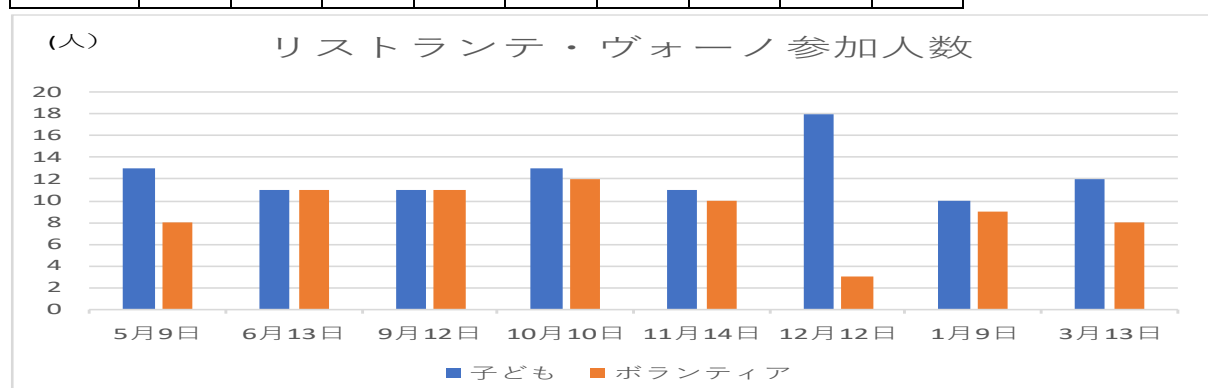
同法人内の施設で起きた虐待に対してささゆり会で虐待防止委員会を立ち上げ指針やマニュアルの再構築や全体研修を実施している。理事長からの虐待についての説明や、全介護及び看護職員が事例に沿った話し合いを行うことでより効果的な虐待予防に取り組んでいる。

パワハラ・セクハラにおける相談窓口を設置、心理士による職員相談を行うことで職員の心理的負担に取り組んでいる。毎月、管理者が加算要件の確認を行い過誤にならないように注意をしている。

トラブルのあった家族からの苦情が姫路市へ入り臨時監査が開催された。書面による指摘事項があれば真摯に受け止め対応に努めたい。

（人）
リストランテ・ヴォーノ参加状況

	5月 9日	6月 13日	7月 8日	9月 12日	10月 10日	11月 14日	12月 12日	1月 9日	3月 13日
人数 子ども	13	11	11	13	11	12	18	10	12
人数 ボランティア	8	11	11	12	8	10	3	9	8



サンライフ西庄ショートステイ

令和6年度 事業報告書

令和6年度ささゆり会経営スローガンである「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をもとに作業時間におけるムダの真因を見つけ効率化を行い、ばらつきを抑えることで効率的に業務が行えるようにしたい。効率化によりできた時間を活用し余暇活動やリハビリ等に活用していきたい。また、職員一人ひとりが考え行動できる人づくりを進める為、外国人労働者・リーダー・個々の職員に対して責任を持たせ、情報共有できる体制を整えることで、より良いサービスが提供できる人材育成に努めたい。病院との連携体制を構築し、感染症対応の研修を定期的に行い、災害も含めたBCPの更新及び研修も行いたい。全国人員配置基準（1：1.67）に合わせた中でも質の高いサービスが提供できるようにしたい。また、電気代・ガス代・食材費などの高騰が続いている為、ムダを省き対策を行い、支出を抑えて行ける取り組みを継続していきたい。

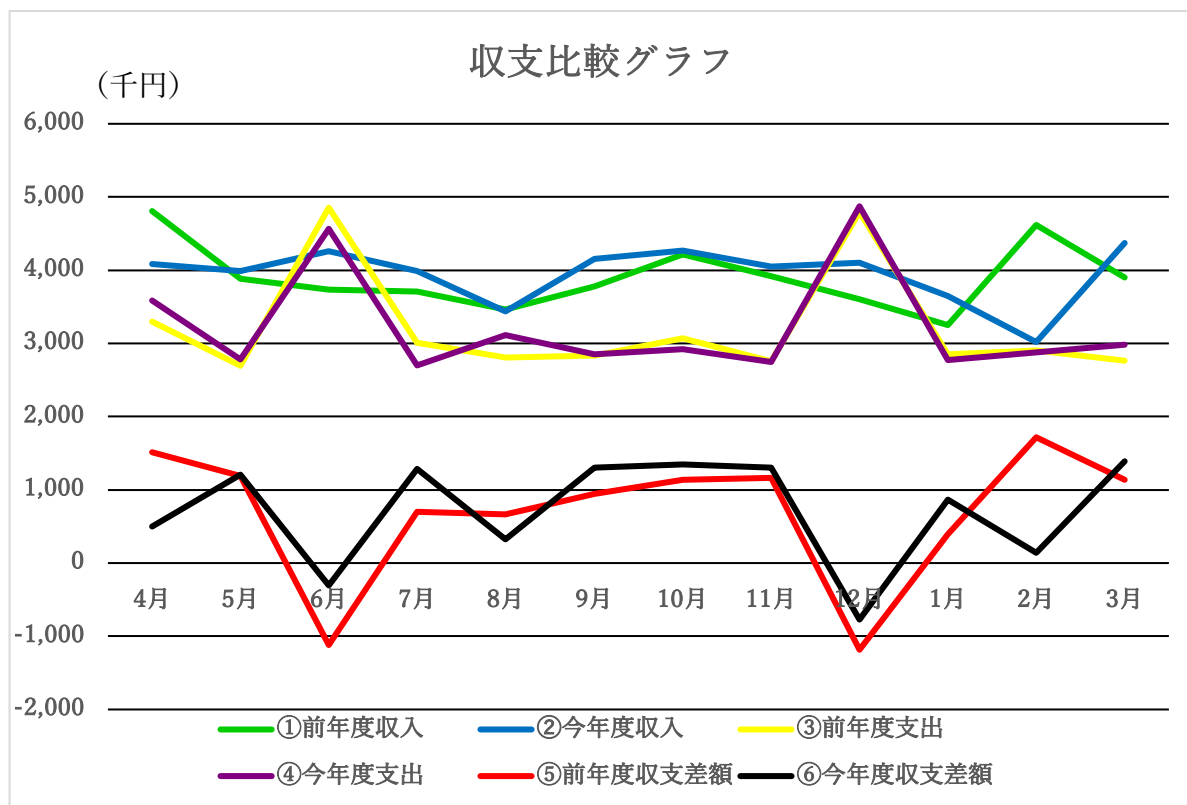
1. 収入の確保と支出

前年度は稼働率が99.5%だったが、今年度はロングショート者の入院や特養入所へ移行後に次の待機者が確保できず、稼働率が96.8%と目標に届かなかった。ロングショート待機者の確保については早めに電話やFAXを入れて探し、空床を減らし、入所率98%以上を目指したい。加算に関しては引き続き算定している加算が継続して取得できるようにしたい。支出面では物価高騰や電気、ガス、水道代が上がり、昨年に比べると金額も上がっている。

●令和6年度収支

（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	4,808	3,883	3,731	3,707	3,468	3,779	23,376	
②今年度収入	4,086	3,990	4,260	3,986	3,440	4,159	23,921	102.3%
③前年度支出	3,295	2,695	4,854	3,010	2,804	2,834	19,492	
④今年度支出	3,586	2,784	4,566	2,700	3,116	2,853	19,605	100.5%
⑤前年度収支差額	1,513	1,188	-1,123	697	664	945	3,884	
⑥今年度収支差額	500	1,206	-306	1,286	324	1,306	4,316	111.1%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	4,212	3,921	3,606	3,251	4,620	3,897	46,883	
②今年度収入	4,268	4,047	4,101	3,645	3,019	4,372	47,373	101.0%
③前年度支出	3,037	2,759	4,790	2,855	2,902	2,763	38,598	
④今年度支出	2,923	2,745	4,873	2,776	2,877	2,982	38,781	100.4%
⑤前年度収支差額	1,175	1,162	-1,184	396	1,718	1,134	8,285	
⑥今年度収支差額	1,345	1,302	-772	869	142	1,390	8,592	103.7%



2. 外国人職員の能力の向上

I. 全ての勤務実施

特定技能生は早出や遅出勤務だけでなく、夜勤の勤務もできるようになった。緊急対応や電話対応では確実な対応は難しいこともあるが、協力を得ながら行っている。

申し送りに関しても正確な内容を伝えることが難しく、確認は必要な状況である。

II. 居室担当・ケアプラン作成

外国人職員にも居室担当を決めて、日本人職員がサポートに入っている。ケアプランの原案の作成を行うことを目標にしていたが、一人での作成には至っていない。日本人職員がサポートしている状況。日本人職員と同じ介護職としての意識や自覚、責任を持たせるようにしたい。

3. 介護職における技術向上及び体制強化

I. 間接業務におけるバラツキ（時間）の管理

間接業務の中でバラツキが大きい業務に関しては業務内容や手順の見直しができた。

引き続きユニット内で話し合い、バラツキがなくなるようにしたい。

II. 余暇活動支援について

気候の良い時には散歩で外出を行った。年に1回大きな行事として秋に運動会を実施し、利用者様にも喜んでもらえた。また、ユニットで毎日午後からラジオ体操は実施できている。月1回の行事（誕生日会）もユニット内で担当を中心に企画し、実施できた。

Ⅲ. 情報共有について

ユニット会議は定期的に行われている。フロア会議も開催はできているが、意見を出す職員が少ないように感じた。申し送りは短時間で行い、次の業務へスムーズに移行できている。

Ⅳ. 居室担当・委員会担当の強化

委員会や研修は30分程度で実施できているものもあれば、30分以上かかっている委員会もあった。今後は委員会で話し合いたい内容を決めておき、更にスムーズに委員会等が行えるようにしていきたい。担当入居者の1日及び週間スケジュールも作成できている。

居室担当に関しても担当職員が家族様へ状態を報告することができている。今後も継続していくことで説明能力の向上と信頼関係を構築したい。

4. 虐待防止対策について

マニュアルや指針の更新はできている為、継続していきたい。

法人全体の虐待防止研修は全員受けることができた。研修を受けることによって自身の振り返りを行い、虐待防止への意識が高まるようにしていきたい。

5. 生産性向上の取組み

業務についてはユニット会議で話し合い、ムダ・ムラを洗い出し検討できた。パットの大きさも本人様の排泄状況や業務内容に合わせて変更できている。

QC活動も『尿漏れ回数の減少』をテーマに活動し、減少に繋がった。

また、施設全体で取り組んでいる5S活動も担当を決めて実施できた。

6. 感染症への体制強化

感染対応については看護師の協力のもと、ガウンテクニックのチェックができた。不合格者については再チェックを行い合格できるようにしている。また、施設内研修では委員会で研修内容を検討し、委員が主体で実施できている。

7. BCPについて

BCPは8月に水災害による訓練を実施し、チャットワークを使用した情報共有訓練を実施した。チャットワークで自身の状況を伝えてもらうだけでも日数がかかっていた。実際に災害が起こると状況確認だけでも時間を要することが予想された。10月にゾーニングについて机上訓練等を実施したが、1回では把握することが難しい様子だった。職員全員が実施でき、把握できるような内容の検討が必要と感じた。

8. 事故について

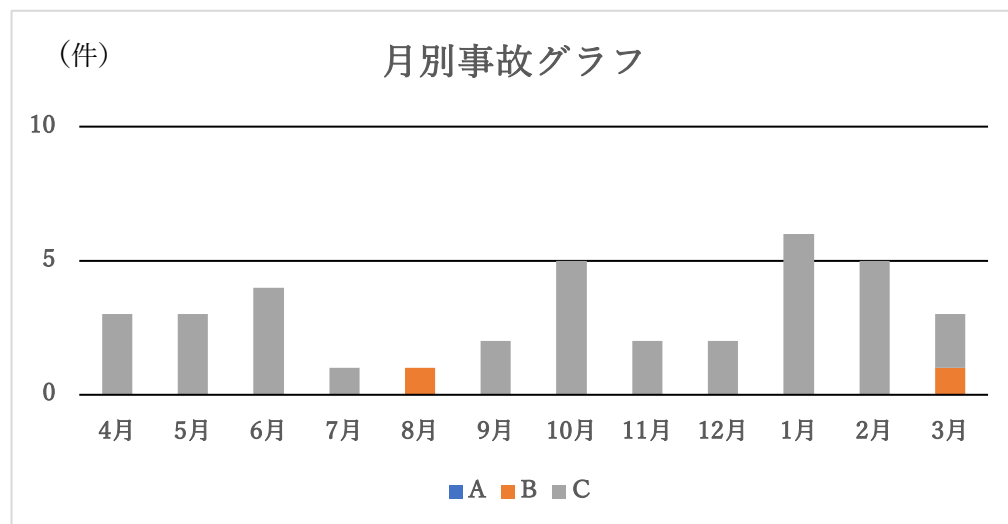
令和6年度の事故件数は37件で、8月と3月に痛み・外傷を伴う事故があった。8月は骨折事故であったが入院には至らず、3月は利用者自身での起き上がりによるベッド柵で頸部の圧迫事故があり救急搬送となったことがあった。

事故件数の中では転倒事故が一番多かった。

●事故件数

(単位：件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
総数	3	3	4	1	1	2	14
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	0	0	1	0	1
C	3	3	4	1	0	2	13
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	5	2	2	6	5	3	37
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	0	0	0	1	2
C	5	2	2	6	5	2	35



グループホームサンライフ西庄

令和 6 年度 事業報告書

令和 6 年度ささゆり会経営スローガンである「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をもとに、細やかな情報の共有や小さな問題でも職員間で話しやすい環境作りに取り組んだ。チームとして全体が調和し入居者様に家庭的な雰囲気の中で、安心感を得ながら様々な出来る家事の維持と、日常生活を通じて生活意欲を高め認知症の進行緩和に繋がるように努力した。が、一方では平均年齢 90 歳と言う事もあり出来る家事も減少傾向にあった。

1. 人材育成

I. 虐待研修、セルフケア研修、アンガーマネジメント研修には全員が参加できた。施設外研修の実務者研修や実践者研修に各 1 名ずつ参加と、オンライン研修で認知症基礎研修にも 1 名参加できた。下半期に人員不足傾向となり施設外研修の参加を残念する事があったが、グループホーム内での研修に於いては、年間計画通りに担当を決め、研修を行う者、受ける者の両方の学びの場があった。

II. 職員一人ひとりの介護力の向上と実力の同一レベル化を図るとともに、スキルアップの為に各々の資格の取得が出来ている。(認知症実務者研修、実践者研修など)。採用時より入職後にできる勤務を増やして行き、一人の職員の勤務できる幅が広がっている。

III. 外国人の特定技能実習生 1 名は 4 月に退職したが、残っている 1 名は、電話対応も進んで出来る様になり、家族様とのやり取りも出来ている。

緊急時の対応については、3 か月に 1 回程度の訓練をする予定だったが、数多くの研修と入浴の関係で、年間を通して 1 回しかできていない。9 月後半に新たに特定技能実習生 1 名と日本人の非常勤職員が入職し順調に業務の習得をしている。更に認知症についての学びの研修参加を増やして行く。

施設内研修

実施月	研修内容	参加人数	実施月	研修内容	参加人数
4 月	認知症ケア	12 名	10 月	感染症 BCP 訓練	6 名
5 月	衛生管理	10 名	11 月	不適切ケア (GH)	5 名
6 月	電話の対応	3 名	12 月	看取り	9 名
7 月	緊急時の対応	8 名	1 月		
8 月	風水害避難訓練	3 名	2 月	介護度進行予防	6 名
9 月	消防訓練	3 名	3 月	消防・防犯訓練	5 名

2. 介護の質について

- I. 認知症の進行を遅らせる効果のある非薬物療法のレクリエーション活動では、両ユニット合同のレクを多く取り入れ、今までの『顔なじみの関係』の維持と楽しい時間を提供することが出来たが、買い物や外出は職員の人数の関係により回数が減少してしまった。今後は、いつでも気楽に外出が出来るような環境を整備したい。
- II. 誕生日会のケーキ、おやつ、工作レクでは使う色や形を自分で決めるなど、自己選択、自己決定のできる機会を多く取り入れ介護の質の向上に努めた。
- III. 家事参加については、重度化が進み参加できる利用者が少なくなって来ているが、その中でも出来る家事動作を職員と考え参加している。その人のできる範囲ではあるが、家事参加が筋力低下の防止や役割のある生活となっている。役割を持つことで「自分がここに居てもいい。」と感じて頂き、認知症の進行緩和につなげた。

3. リスクマネジメント（介護事故・感染症・自然災害）

I. 事故について

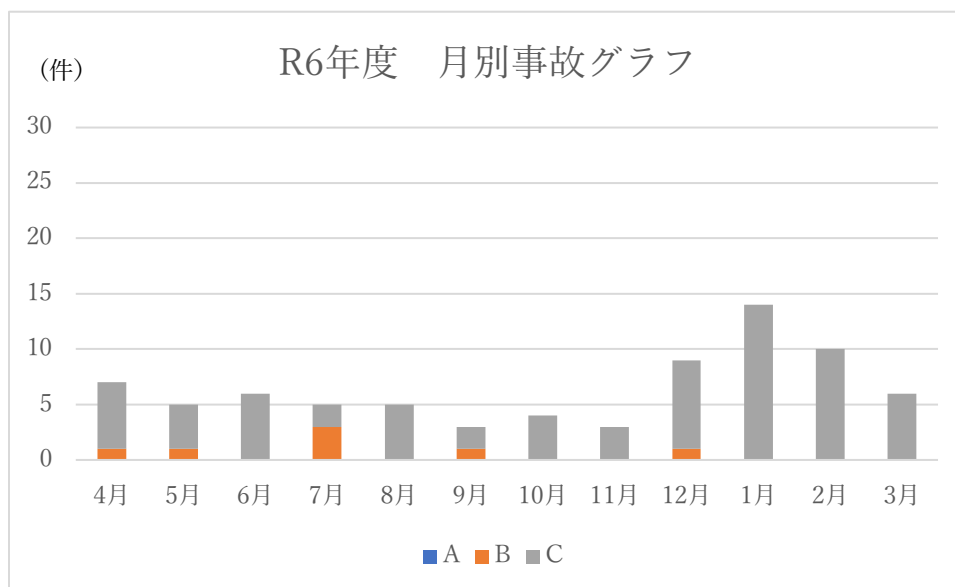
今年度の事故総件数は 77 件で前年度件数より 18 件も増えた。転倒事故が前年度は全体の 44%の 26 件だったが、今年度は全体の 17%の 13 件だった。今年度は誤薬、落薬が多かったように思う。7 件の服薬ミスがあり、往診となったケースもある。服薬マニュアルの徹底と確認を怠らないようにチーム全体で認識を変えて行く必要がある。事故件数は前年度より増えたが A ランクの事故発生が無かったことは良かった点である。

●事故件数

令和 6 年度事故件数 総数 77 件

(単位：件)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
A	0	0	0	0	0	0	0
B	1	1	0	3	0	1	6
C	6	4	6	2	5	2	25
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	1	0	0	0	7
C	4	3	8	14	10	6	70



A：入院を要する事故

B：受診・通院を要する事故

C：受診・通院を要しない事故

●入院者数

入院者数は昨年度 9 名で 95 日間だったが、今年度は 1 名 6 日間だった。今後も長期の入院にならない様に健康管理に注意して行く。

令和 6 年度入院者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 6 年度					1 人（虚血性大腸炎）		1 人
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 6 年度							1 人

Ⅱ. 感染症対・自然災害について

1 日 3 回フロアから廊下等、共有部分を中心にアルコール消毒を継続している。委員会や研修の参加。ガウンテクニックを月 2 回、看護師のチェックの下で継続している。適切な対応がいつでも素早く出来るように今後も継続する。8 月に内水害を想定した水害訓練を行った。水囊の作り方やチャットワークを使い施設職員への災害時非常徴収の連絡訓練も同時に行なったが、年に 1 回の事なのでチャットワークがうまく活用出来ていなかった。今後も有事に備えチャットワークの活用をして行く。3 月に

消防防犯訓練と震度 6 を想定した訓練を行った。BCP については今後も適切な変更をして行く。

4. 健全経営（収入・支出）

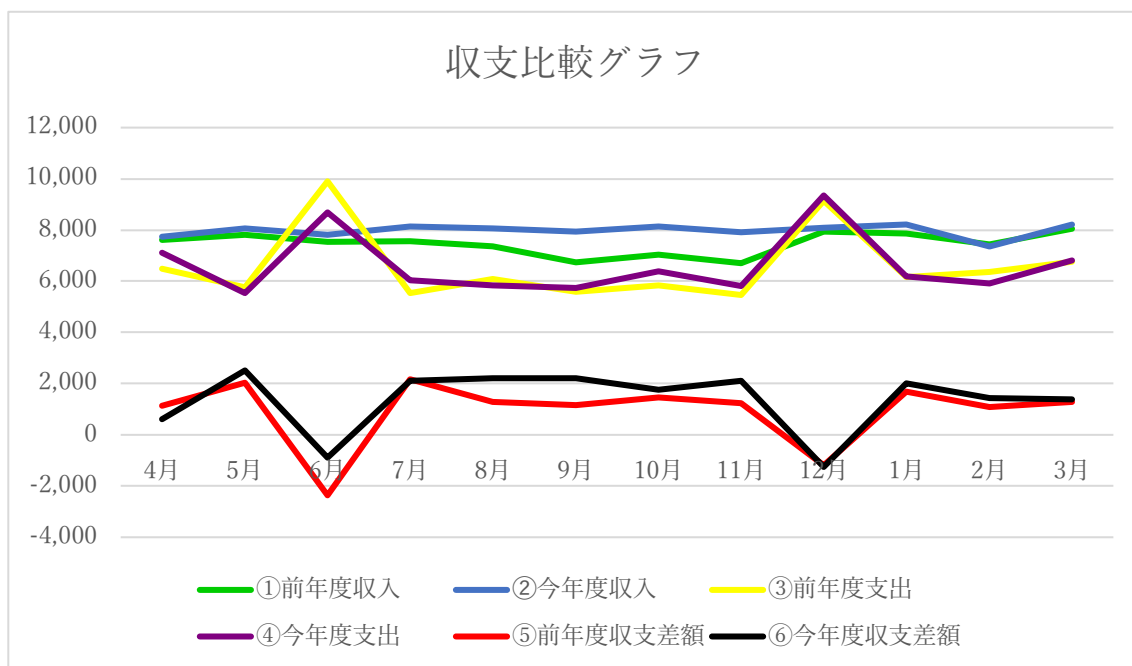
収入については、入院（6 日間）が 1 名あったがそれ以外は満床状態を維持できた為、99.9%の稼働率となった。介護報酬改定もあり昨年度と比べると約 600 万円の増となっている。常に満床状態が維持できるように施設見学から入居待機へと繋げる努力を行い、入院に繋がる様な事故や病状悪化にも気を付けた。支出については、一番大きな人件費で常勤職員 2 名の退職があり人件費の削減が見込まれたが夜勤体制など苦しいシフト状態となり派遣や紹介の採用、特定技能実習生の雇用で経費が掛かり昨年度とほぼ同額の人件費となってしまった。その他の支出としては、パソコンの購入、非常誘導灯の交換もあり支出合計は昨年度と変わらず。結果として収入が増えた分の 597 万円が前年度より増加となった。今後は経費の大きな人件費を考え、今いる職員が安定して長く働ける環境作りと、修繕費、光熱水費、消耗品費などの節約により多くの収入増加を目指して行く。

年間収入差額

●令和 6 年度年間収支

（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計	比率 (%)
①前年度収入	7,625	7,801	7,540	7,568	7,371	6,750	44,675	
②今年度収入	7,726	8,052	7,810	8,145	8,063	7,935	47,731	103.8
③前年度支出	6,482	5,770	9,902	5,539	6,085	5,583	39,361	
④今年度支出	7,123	5,536	8,692	6,045	5,842	5,728	38,968	99.0
⑤前年度収支差額	1,143	2,031	-2,362	2,170	1,286	1,167	5,435	
6 今年度収支差額	603	2,516	-882	2,100	2,221	2,207	8,795	161.2
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	
①前年度収入	7,032	6,704	7,939	7,852	7,436	8,050	89,688	
②今年度収入	8,139	7,920	8,096	8,216	7,357	8,209	95,666	106.6
③前年度支出	5,843	5,462	9,129	6,168	6,356	6,754	79,073	
④今年度支出	6,387	5,820	9,350	6,197	5,918	6,817	79,461	100.5
⑤前年度収支差額	1,460	1,242	-1,190	1,684	1,080	1,296	10,736	
⑥今年度収支差額	1,752	2,100	-1,254	2,019	1,439	1,392	16,242	151.2



(単位：千円)

5. 虐待防止について

虐待防止委員会が設立し委員会で虐待防止の指針とマニュアルの確認、作成を行なった。虐待研修については、2か月に1度のペースで行いそれぞれが感想を書く研修を受けた。夏からは臨床心理士が職員のヒヤリングを行い、抱えている問題がないかなどの心のチェックを行い、職員面談も順次行った。セルフケア研修、アングーマネジメント研修なども事業所の全職員が受講し、自身の思考の癖などに向き合える時間ができた。常勤職員は2月に昇級試験があり試験で就業規則が出たので個々に学べる事となったと思う。

特別養護老人ホームサンライフ西庄 医務

令和 6 年度 事業報告書

入居者様の医療ニーズが日々変化し、重症度も上がってきている。安心・安楽に過ごせるよう体調管理や観察を行い異常の早期発見、適切な対応を行ってきた。それに伴い看取りへの移行も増えてきている。家族様の思いを尊重しながら、最期まで、その人らしく過ごせるようなケアを目指している

1. 感染対策の強化

今年度も感染症拡大に備え、PPE着脱方法を全職員が習得できるよう、定期的に確認している。繰り返し行っている事により、少しずつではあるが、習得できている職員が増えた。今後も継続した研修を行い、感染症に対する知識や行動力の向上を目指す事が集団感染を防ぐために必要となってくる

2. 看取りへの対応の充実

全身の機能が徐々に低下する事によって、食事摂取困難になってくる入居者様が増えていく。今年度新たに 18 名（うちショート 5 名）の看取り介護についての同意をいただいた。令和 5 年度まではショートで看取り対応ができず、明らかに老衰の入居者様も病院へ入院となり、施設で最期を迎える事ができなかった。しかし、今年度からショートでも看取り対応ができることになり、より職員の看取りに対するモチベーションもあがり適切なケアを行うことができ、家族様との信頼関係も深まってきている。今後も入居者様の思いに寄り添いながら家族様・介護職共に話し合い可能な限りのケアが実践していきたい。

3. 重症化防止への取り組み

高齢者は症状が現れないことが多く、認知症症状により体調不良の訴えができないことがある。そのため気づいた時には重症化していることがある。介護職員と情報共有・連携を密にし、早期に嘱託医に報告、相談し入院することなく施設で対応することができた。また、月 1 回協力病院と（嘱託医）入居者様の状態について情報共有する話し合いの場を持ち連携している。

加齢による身体機能低下、認知症の悪化等の影響により誤嚥や褥瘡のリスクが高くなってくる。今年度褥瘡 5 名（うち持ち込み 1 名）であった。低栄養、拘縮等ある褥瘡リスクの高い入居者様は栄養補助食品を提供したり、ポジショニングやシーティング方法を管理栄養士、外部理学療法士、介護職員と連携しながら予防ケアの徹底を引き続き行っていきたい。

4. 日常生活機能訓練の強化

認知症予防、日常生活動作の向上、誤嚥や褥瘡予防のための機能訓練を行う。身体機能の維持や低下した生活機能の向上を目指していくために歯科衛生士、外部理学療法士、介護士、看護師と連携しながら、一人一人に合った機能訓練を計画、実施し ADL の低下を防止する。歯科医師や歯科衛生士からの正しい口腔ケアの方法や義歯の調整、嚥下訓練等のアドバイスを受け誤嚥予防につなげていきたい

5. 職員の健康管理への取り組み

全職員が健康診断や予防接種を適切に受けることができた。また日頃から何気ない会話の中で職員が体調不良を訴えられる環境作りやコミュニケーションを図っていくことができた。今後も職員一人一人が自分の健康意識を高めてもらうよう働きかけを行っていききたい。

特別養護老人ホームサンライフ西庄(厨房)

令和 6 年度 事業報告書

1. 人材の定着・育成

令和 6 年度は職員の募集を積極的に行い人数の確保を行ったが、上半期に採用した新規の非常勤職員は続かず、人員の確保、定着には至らなかった。作業工程を職員間で話し合うことで、作業効率の改善を図った。また職員同士コミュニケーションをとり、確認不足や思い込みによる間違いを未然に防ぐことを心掛けた。

2. 献立の充実

令和 6 年度は計 10 回の行事食を取り入れ、季節を感じるイベント食を提供した。旬の野菜を取り入れ食事の中で季節を味わって頂けるように努めた。また嗜好調査で出た意見を給食委員会で取り上げ、献立に反映させるように努めた。食材費に関して今年度も値上げされる食材が多く予想されるので、各業者から随時相見積もりを取り無駄のないよう管理する。

3. 衛生管理

異物混入に関して報告はなかった。また給食委員会や施設内研修を通して食中毒や衛生についての周知を行い、職員 1 人 1 人に意識してもらうよう努めた。

4. 栄養ケアマネジメントの充実

介護士、看護師と連携を取りながらミールラウンドやモニタリングを通して入所者様の状態の把握、褥瘡の有無の把握を行った。低栄養状態や体調不良、嚥下困難な方やターミナル期の方など食事摂取量の減少している入所者様に対して栄養状態の改善に努め、体重減少を少しでも防ぐため、摂取しやすく栄養価の高いゼリーやジュースを個別で提供するなどの対応を行った。

5. 食事形態

食べられるものだけでも形態をアップする対応を行い、少しでも食事形態を段階的に調節できるように努めた。水分摂取が難しい方にはゼリーやトロミを付け提供し個別対応を行った。食思の低い方には必要に応じ栄養補助食品を提供し必要栄養量の確保に努めた。

6. 子供食堂の充実

令和 6 年度も感染防止対策を徹底しながら開催することが出来た。何度もおかわりする参加者も多数見られ、盛況を呈している。令和 7 年度に開催する際も引き続き手指消毒を徹底し、感染防止対策を行って開催していきたい。おやつなど子供に人気のある物を調査し、参加者の満足度の維持向上に努めていきたい。

小規模多機能ホームサンライフ岡田 令和 6 年度 事業報告書

令和 6 年度の「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行!」という法人の目標は、問題の原因を制度や、設備、他者などの外部に求めてしまうことが多く、自分たちの問題としてなかなか捉えることが出来なかったように思う。今後の課題として勉強会や研修をし、職員の意識改革を持続的にやっていく必要があると感じた。

1. 個人に応じた利用計画作成

利用者様が在宅での生活が継続できるよう、個々の特性に応じた小規模多機能型居宅介護計画を作成し、支援の提供を行った。施設サービスだけではなく、インフォーマルサービスを含めた計画の作成を目指していたが、介護保険のサービスだけで計画を立ててしまうことが多く、インフォーマルサービスを組み込むことがなかなかできなかった。

2. 人材育成

通い・宿泊・訪問とサービス提供内容が幅広く、柔軟な対応が求められる機会も多いため、施設内部で研修を行い、知識や技術を学んだ。加算取得の為に e ラーニングを使用した個別の研修も継続して行うことが出来ている。また今年度は公認心理士による面談を法人として取り組み、職員が普段悩んでいることなどを相談できる機会を作ることが出来た。また、BCPに関しては、マニュアルをもとに研修や訓練を行った。

3. 身体拘束・虐待防止対策の強化

今年度は法人で取り組んだ 2 か月に 1 度の虐待予防研修や、外部講師によるセルフケア・アンガーマネジメント研修に参加し定期的に虐待等に関し勉強する機会を得ることが出来た。また身体拘束に関して、今までは委員会での話し合いが「身体拘束なし」で終わってしまっていることが多くあったが、身体的な拘束だけではなくスピーチロックといった言葉の拘束はしていないかも意識して会議が出来るようになった。今後も意識改革を行うことで、虐待等が起らない健全な施設を目指していきたい。

4. 事故の防止

今年度の施設での事故は 12 件あった。いずれも病院受診等が必要のない C ランクの事故であった。1 件、利用者様がシャワーチェアから立ち上がるときに、シャワーチェアの座面が外れるといった大事故になりかねない事故があったため、リフトの操作を見直すとともに、リフトのメンテナンスを依頼し、安全配慮に努めた。

5. 地域関係の強化

利用者様の近隣の方から利用者様に関する相談を頂いたり、少しずつ地域との関係が築けているように感じた。地域行事に出かけて行ったり、施設行事に招いたりと言ったことはまだほとんど出来ていないため、来年度力を入れていきたい。

6. 感染症予防

今年度も新型コロナやインフルエンザが流行したが、感染症対策を継続して行っていることで、施設内で流行することはなかった。

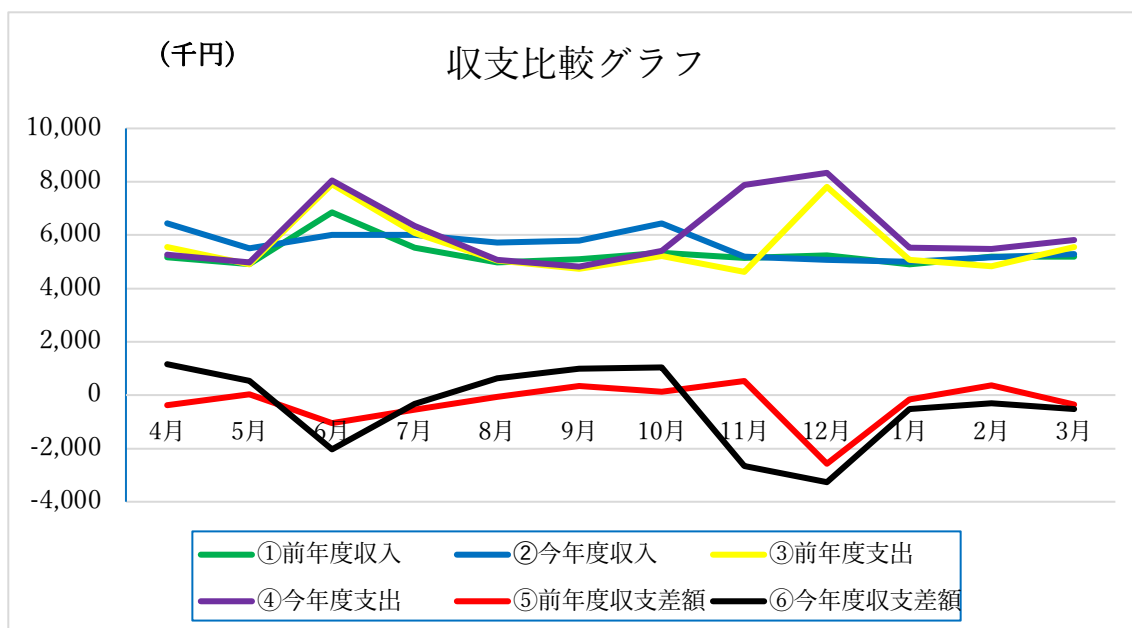
7. 収入・利用者の確保

今年度は前年度より利用人数は減ったが、新規加算の取得や、介護度の見直しにより前年度収入と比べると約 400 万円の収入増加となった。ただ、下半期に介護度の高い方の入院・退所が相次いだことと、新しく利用された方の介護度が低かったことなどもあり、下半期の収入を伸ばすことができなかった。支出に関しては、光熱水費、食材費等は節約に努め昨年度とほぼ変わりはないが、人件費の増加と、今年度は介護ソフトケアカルテ（ソフト、端末など含め約 280 万円）を導入したことにより、支出が大幅に増加することとなった。介護度 3 以上の方の利用者様を増やすことと、導入したケアカルテを使いこなし、効率的な業務を行うことで、来年度の収入増加につなげていきたい。

1. 年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
①前年度収入	5,175	4,913	6,852	5,525	4,981	5,094	32,540	—
②今年度収入	6,431	5,500	6,015	6,008	5,716	5,799	35,469	109%
③前年度支出	5,545	4,900	7,907	6,076	5,055	4,745	34,228	—
④今年度支出	5,273	4,973	8,057	6,342	5,077	4,818	34,540	101%
⑤前年度収支差額	-370	13	-1,055	-551	-74	349	-1,682	—
⑥今年度収支差額	1,158	527	-2,042	-334	639	981	929	
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
①前年度収入	5,335	5,148	5,234	4,915	5,200	5,197	63,569	—
②今年度収入	6,438	5,201	5,068	4,999	5,156	5,288	67,619	106.4 %
③前年度支出	5,208	4,620	7,809	5,079	4,826	5,548	67,318	—
④今年度支出	5,396	7,869	8,334	5,530	5,475	5,814	72,958	108.3 %
⑤前年度収支差額	127	528	-2,575	-164	374	-351	-3,743	—
⑥今年度収支差額	1,042	-2,668	-3,266	-531	-319	-526	-5,339	



2. 令和5年度・6年度登録者数 (MAX29名)
(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R5登録者	23	24	23	22	21	23
R6登録者	21	21	21	21	21	22
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R5登録者	22	21	22	21	21	21
R6登録者	20	19	18	19	19	19

3. 令和5年度・6年度延べ利用人数 (通い・訪問・宿泊)
(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R5通い	447	503	482	468	394	403	2,697
R5宿泊	184	226	234	227	167	180	1,218
R5訪問	194	210	193	206	216	270	1,289
R6通い	413	428	401	432	444	431	2,549
R6宿泊	180	222	186	210	209	209	1,216
R6訪問	289	263	292	301	261	182	1,588
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R5通い	447	414	404	379	401	442	5,184
R5宿泊	203	189	181	169	176	185	2,321
R5訪問	266	252	257	217	274	307	2,862
R6通い	412	361	395	386	385	418	4,906
R6宿泊	189	157	160	147	153	178	2,200
R6訪問	157	109	120	122	111	93	2,300

デイサービスサンライフ岡田

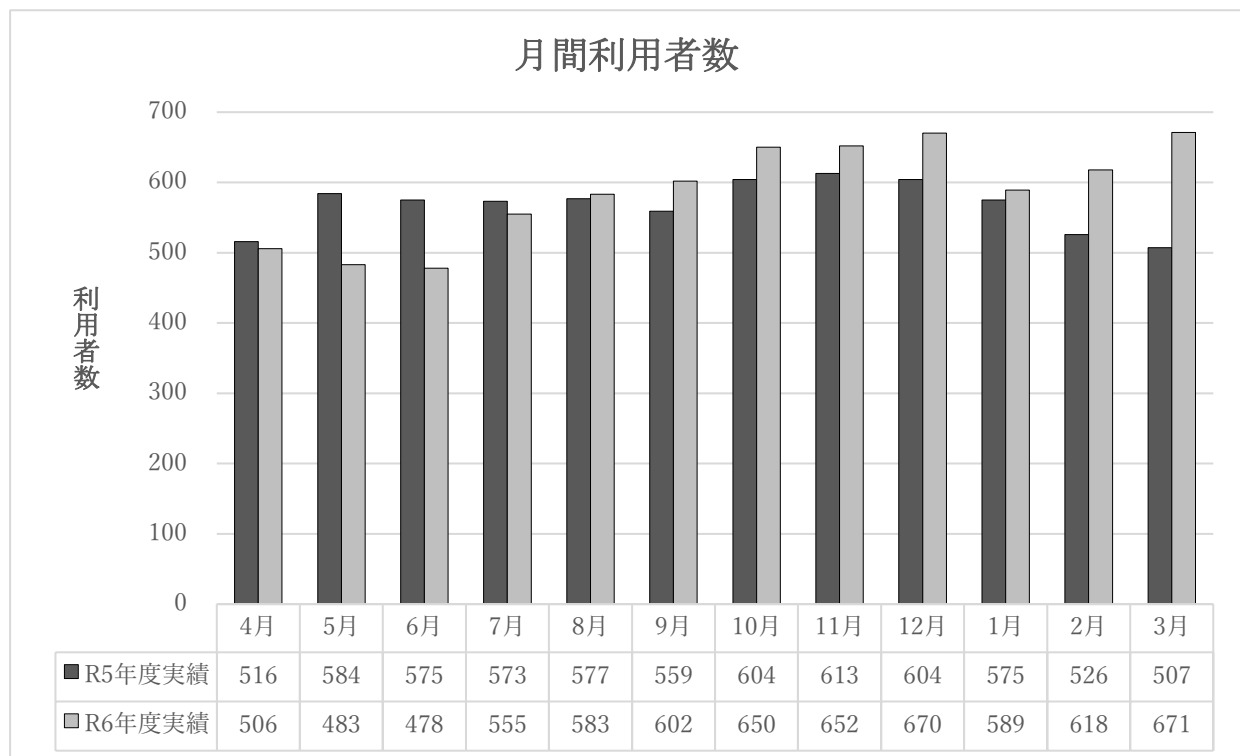
令和 6 年度 事業報告書

「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をスローガンに、業務の見直しや職員への研修を行うことで利用者が安心して過ごせるデイサービスを目指し運営を行った。職員面談を行い、業務を整理・改善し、現状の人数でもスムーズな業務が行えるよう業務分担表を作成、適宜修正を行いながら進めてきた。まだまだ改善点が見られる為、今後もその都度職員間で話し合いながら見直しを行っていきたい。事故予防については、事故内容・対策を職員間で共有することで事故予防に努めたが、事故件数は増加している。また、虐待防止研修・委員会を行い、虐待防止に取り組み、利用者が安心して利用できるデイサービスにしていく。

収入については、上半期の利用者数が前年を下回り、減収となっていたが、下半期には新規利用者数が増え、前年を上回る人数となり、収入増となった。支出については、新しいソフトの導入費用や、人件費の増加があり、収支差額はマイナスとなった。

利用人数の更なる増加が図れるよう、営業活動やサービスの質の向上に努めていきたい。

1. 利用者数

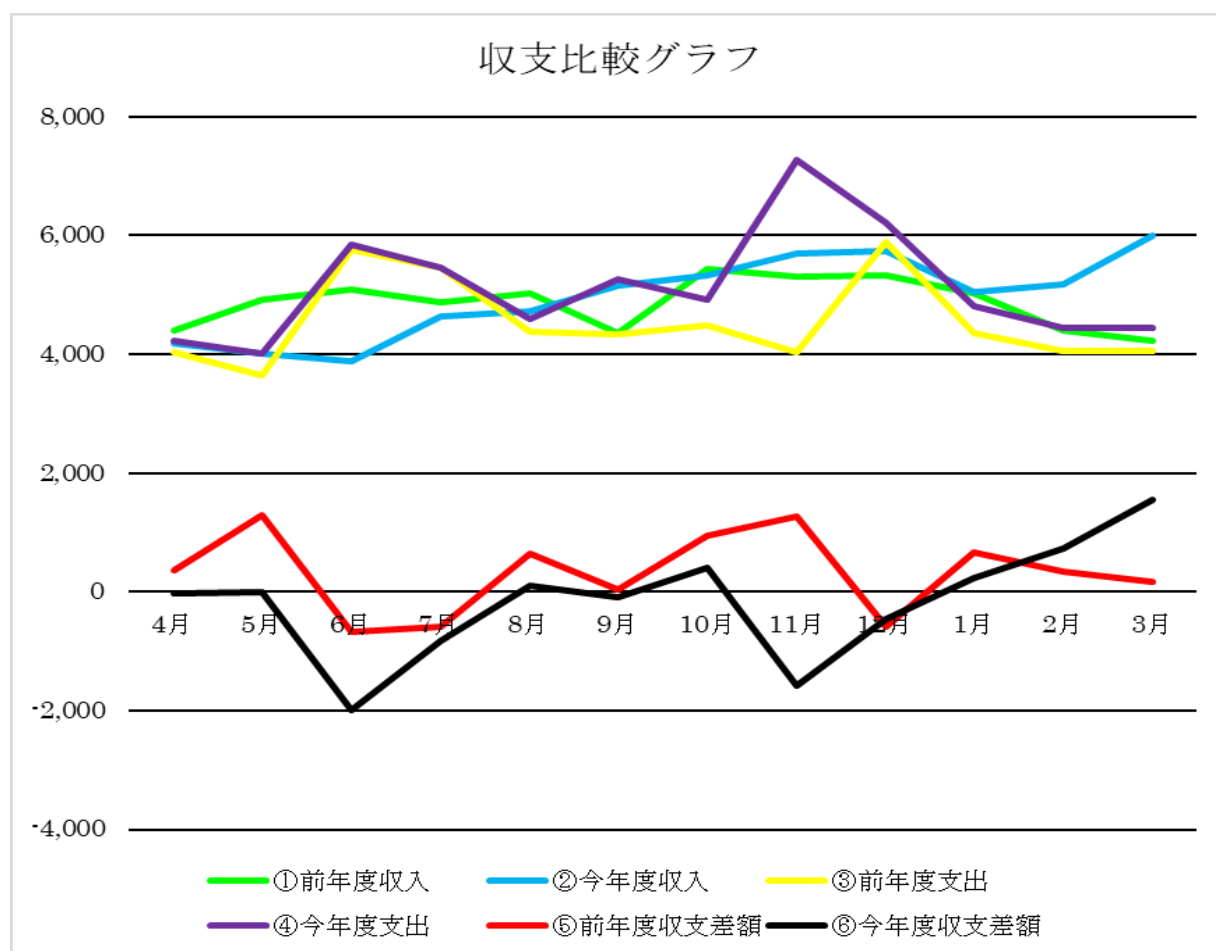


2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	比率
①前年度収入	4,401	4,924	5,094	4,874	5,024	4,364	28,681	—
②今年度収入	4,196	4,021	3,874	4,630	4,715	5,165	26,601	92.75%
③前年度支出	4,040	3,637	5,762	5,454	4,373	4,328	27,594	—
④今年度支出	4,219	4,013	5,854	5,450	4,604	5,260	29,400	106.54%
⑤前年度収支差額	361	1,287	-668	-580	651	36	1,087	—
⑥今年度収支差額	-23	8	-1,980	-820	111	-95	-2,799	-257.50%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	5,443	5,311	5,324	5,032	4,410	4,222	58,423	—
②今年度収入	5,320	5,697	5,748	5,048	5,181	5,994	59,589	102.00%
③前年度支出	4,497	4,040	5,901	4,361	4,064	4,052	54,509	—
④今年度支出	4,910	7,269	6,212	4,809	4,448	4,444	61,492	112.81%
⑤前年度収支差額	946	1,271	-577	671	346	170	3,914	—
⑥今年度収支差額	410	-1,572	-464	239	733	1,550	-1,903	-48.62%



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	平均 (合計)
事業対象者	91.08 (1)	91.17 (1)	91.25 (1)	91.33 (1)	91.42 (1)	91.50 (1)	91.58 (1)	91.67 (1)	91.75 (1)	91.83 (1)	90.00 (1)	90.00 (1)	91.22 (12)
要支援 1	86.11 (7)	86.19 (7)	85.44 (8)	85.10 (7)	85.18 (7)	85.61 (8)	85.70 (8)	86.51 (9)	87.06 (9)	87.23 (9)	86.40 (10)	86.40 (10)	86.08 (99)
要支援 2	86.77 (9)	85.58 (9)	85.69 (9)	85.78 (9)	85.86 (9)	84.56 (11)	84.67 (12)	84.91 (13)	84.99 (13)	85.32 (12)	85.92 (13)	86.80 (12)	85.57 (131)
要介護 1	86.50 (20)	85.82 (18)	86.01 (22)	86.00 (22)	85.61 (27)	86.52 (27)	86.34 (23)	86.48 (26)	86.63 (27)	86.92 (27)	86.44 (27)	86.54 (26)	86.32 (292)
要介護 2	86.93 (11)	87.95 (10)	88.03 (10)	87.83 (11)	88.41 (10)	87.15 (12)	86.55 (11)	86.34 (11)	87.23 (11)	86.80 (9)	88.00 (8)	88.00 (8)	87.44 (122)
要介護 3	83.00 (3)	83.08 (3)	84.27 (5)	86.11 (6)	86.68 (5)	86.15 (6)	87.04 (6)	87.13 (6)	87.54 (8)	87.29 (6)	84.17 (6)	84.29 (7)	85.56 (67)
要介護 4	87.53 (3)	87.61 (3)	84.83 (3)	84.92 (3)	85.00 (3)	87.67 (2)	87.42 (4)	87.82 (5)	87.69 (4)	87.77 (4)	86.60 (5)	86.60 (5)	86.79 (44)
要介護 5	94.67 (1)	94.75 (1)	94.83 (1)							93.75 (1)	90.67 (3)	90.67 (3)	93.22 (10)
合計	86.68 (55)	86.46 (52)	86.26 (59)	86.25 (59)	86.20 (62)	86.28 (67)	86.20 (65)	86.40 (71)	86.71 (73)	86.67 (69)	86.36 (73)	87.00 (72)	86.46 (777)

上段の数字は平均年齢、（ ）内の数字は実利用者人数を示しています

4. 職員充足度（令和7年3月現在）

職員 17 名（正職員 3 名 非常勤看護師 3 名 非常勤介護職員 11 名）

機能訓練指導員を
含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 月	職員/ 月	職員 一人対	職員/ 月	職員 一人対
4 月	26	506	1490	19.46	8.9	2.2	7.9	2.5
5 月	27	483	1600	17.89	9.5	1.9	8.5	2.1
6 月	25	478	1555	19.12	9.3	2.1	8.3	2.3
7 月	27	555	1507	20.56	9.0	2.3	8.0	2.6
8 月	27	583	1791	21.59	10.7	2.0	9.7	2.2
9 月	25	602	1614.8	24.08	9.6	2.5	8.6	2.8
10 月	27	650	1725	24.07	10.3	2.3	9.3	2.6
11 月	26	652	1569	25.08	9.3	2.7	8.3	3.0
12 月	26	670	1499	25.77	8.9	2.9	7.9	3.3
1 月	24	589	1485	24.54	8.8	2.8	7.8	3.1
2 月	24	618	1541	25.75	9.2	2.8	8.2	3.2
3 月	26	671	1613	25.81	9.6	2.7	8.6	3.0

サンライフ岡田居宅介護支援事業所

令和6年度 事業報告書

令和6年度の介護保険改正により、ケアマネジャー1人あたりの担当件数が見直され、事業所内の担当利用者数が増加しました。その結果、収入が増加しましたが、人件費やケアカルテへの変更に伴う支出が抑えきれず、全体としては収支差額がマイナスとなってしまいました。また、担当件数の増加に伴い業務負担が増大し、時間的・精神的な負荷が大きくなったことから、認定調査の委託件数を減らすなどの対応を行いました。このことも影響を与えたと考えています。今後は、書類作成や連携業務、利用者への対応方法の改善を進め、担当件数の維持、業務効率化、支出の抑制、収益の増加に向けた事業所運営に努めていきます。

1. 介護度別利用者推移

(単位：人)

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
1～2	40	48	49	51	50	51	289
3～5	23	22	21	20	21	23	130
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1～2	50	49	47	47	47	47	576
3～5	23	22	23	25	25	23	271

2. 居宅介護料収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和5年度	775	649	670	635	704	646	4,049
令和6年度	766	849	863	873	871	918	5,140
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年度	742	763	846	742	706	756	8,634
令和6年度	902	867	864	880	861	920	10,434

3. 予防委託料収入

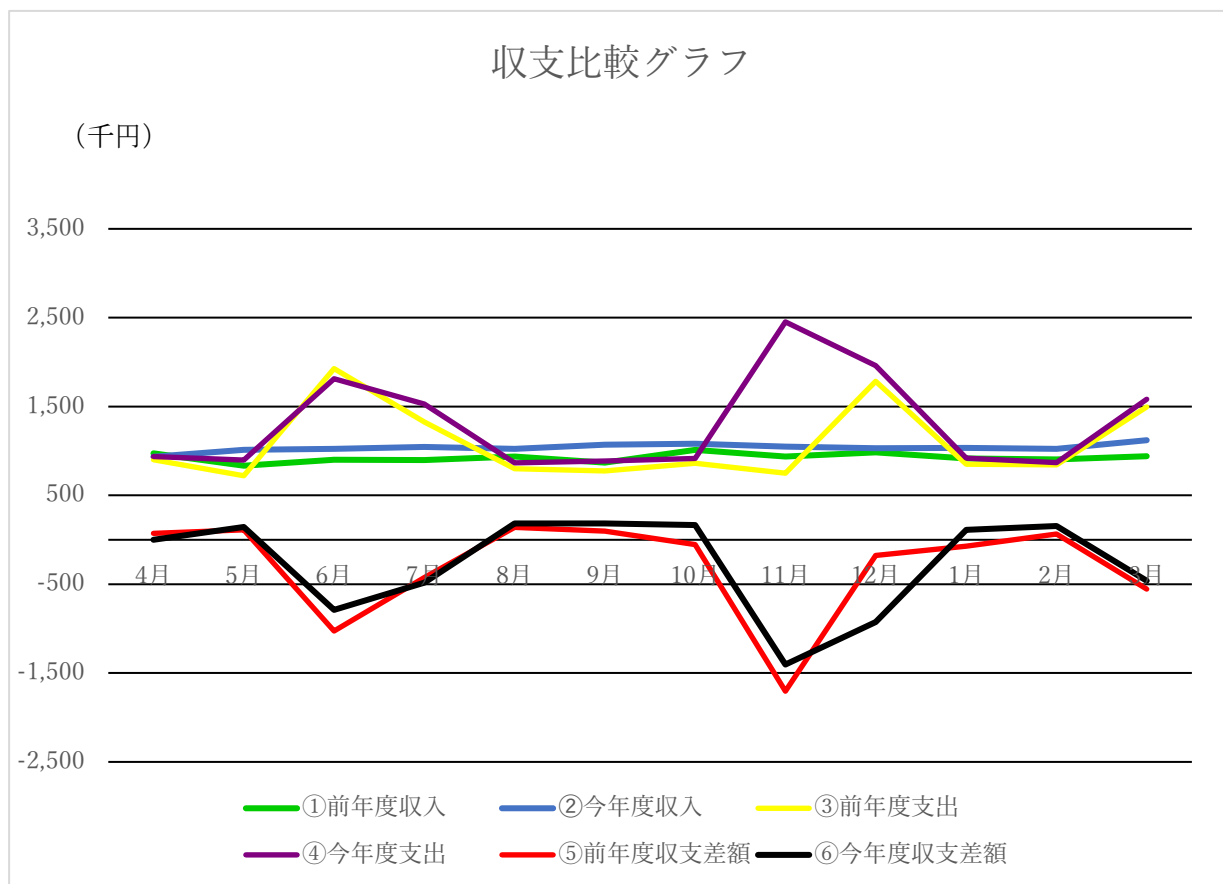
(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和5年度	132	142	141	156	150	140	861
令和6年度	125	129	125	133	121	134	767
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年度	137	124	137	136	131	132	1,658
令和6年度	137	154	150	147	136	170	1,661

4. 年間収支比較

(千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率
①前年度収入	973	834	902	899	939	870	5,417	—
②今年度収入	935	1,013	1,024	1,047	1,022	1,070	6,111	112%
③前年度支出	900	721	1,927	1,325	799	774	6,446	—
④今年度支出	936	899	1,814	1,528	866	886	6,929	107%
⑤前年度収支差額	73	113	-1,025	-426	140	96	-1,029	—
⑥今年度収支差額	-1	144	-790	-481	184	184	-760	—
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
①前年度収入	1,012	938	983	917	906	940	11,113	—
②今年度収入	1,083	1,049	1,032	1,034	1,024	1,121	12,454	112%
③前年度支出	862	749	1,784	849	842	1,494	13,026	—
④今年度支出	916	2,453	1,959	921	870	1,582	15,630	120%
⑤前年度収支差額	-54	-1,704	-175	-72	64	-554	-3,524	—
⑥今年度収支差額	167	-1,404	-927	113	154	-461	-3,118	—



特別養護老人ホームサンライフ魚崎

令和6年度 事業報告書

今年度は「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」を経営スローガンに掲げ、歩行、立位、座位の状態に応じて、移乗方法の見直しや車いすの選定を行い、個別ケアの改善に努めた。介護物品（車いす、エアマット等）を新しく購入し、入居者様の ADL に適した物品を使用することで、シーティングやポジショニングに力を注ぎ、個別ケアを実践することができた。この結果、入居者様の身体的負担が減少し、職員の業務負担の軽減にも繋がっている。また、入居者様と家族様の交流する機会を増やすため、入居者様の傍で面会して頂く方法で面会を実施することができた。外出も一部再開しており、家族様と交流する機会が増えている。施設内の美化（整理整頓、不用品の撤去及び廃棄）を強化して行い、入居者様に快適な生活空間を提供することができた。

1. 入居者様の健康増進を一人ひとりが考え実行する

- I、 介護物品（車いす、体位交換クッションやエアマット等）を新しく買い替えたことで、入居者様の個々に応じたシーティングや臥床時のポジショニング、拘縮及び褥瘡予防に繋げることができた。特にシーティングやポジショニングにおいては拘縮や褥瘡予防に影響が大きいいため、職員の介助に対する意識を向上させる必要がある。次年度もシーティング及びポジショニングの取り組みを強化して実践していく。
- II、 業務進行（食事介助、排泄介助、入浴介助、雑務等）において、2カ月に1回の頻度で見直しを行った。中堅職員が中心となり、今まで以上に職員間のコミュニケーションを図る機会が増えた。業務改善や業務課題の意見を出し合うことで、意見を採用された職員の発言の回数が増えており、業務課題において、直ぐに業務内容を変更することで業務時間の短縮に繋げることができた。特に排泄介助については毎月、ユニ・チャームの担当者と研修を行い、職員個々の介護技術の確認、必要な技術及び知識を習得することができた。入居者様の視点で考える機会になっており、介護の質の向上に繋がっている。
- III、 居室環境や共用部の美化において、不要な物（共用部のソファ、食堂の椅子、破損した車いす、歩行器等）の廃棄を行い、共用部の整理整頓に努めた。カーテンレールの劣化が多く、レール備品の交換を行い対応した。
- IV、 内部研修の年間スケジュールに沿って、虐待防止（法人内共通）、不適切ケア（スピーチロック等）、事故対策、身体拘束等の研修を実施することができた。

2. 感染症及び災害時における業務継続について

- I、 10月に基幹福祉避難所開設訓練及び BCP（災害）の訓練を実施した。災害時における、職員との連絡方法（LINE を使用）や生活用水確保（住吉川へ水を汲みに行く）の訓練を行った。訓練の内容は全職員に資料を回覧し、周知徹底することができた。
- II、 感染症対策を緩和において、入居者様の傍に寄り添いながら面会できる対面面会を上半期と同様に継続して実施した。入居者様と家族様が近くで交流する機会が増えた。面会回数の制限なく、外出や外泊の実施が家族様の意向として多いため、次年度は現在よりも感染症対策の緩和を進めていきながら、実施し

ていきたい。

3. 経営の安定化への取り組み（年間稼働率98.5%への取り組み）

- I、年間稼働率の目標稼働率は達成できずに98%の稼働率となった。下半期に長期入院となるケースがあり、病院と連携し、早期退院に繋げようとするも、状態改善に時間が掛かり、空室数が増加した。
- II、前年度までは在宅や入院している方、ショートステイロング利用者を中心に特養への入所が多かったが、今年度からはグループホーム、ケアハウス等と合同に入所判定会議を行い、各部署で特養に申し込んでいる対象者の情報共有を行い、特養への入所に繋げる取り組みを実施した。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期
令和6年度	日数	900	930	900	930	930	900	5490
	利用日数（人）	869	917	891	930	915	886	5408
	稼働率（%）	97%	99%	99%	100%	98%	98%	99%
	入院者数（人）	0	8(1)	0	0	0	8(1)	16
	空室数（人）	31	5	9	0	15	6	66
	入所者数（人）	2	0	1	0	1	1	5
	退所者数（人）	2	1	0	0	2	0	5
	看取り人数（人）	2	1	0	0	2	0	5
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	日数	930	900	930	930	840	930	10950
	利用日数（人）	911	884	915	912	812	873	10715
	稼働率（%）	98%	98%	98%	98%	97%	94%	98%
	入院者数（人）	15(1)	13(1)	0	6(1)	22(2)	40(2)	112
	空室数（人）	4	3	15	12	6	17	123
	入所者数（人）	1	1	1	1	1	0	10
	退所者数（人）	1	1	2	0	1	1	11
	看取り人数（人）	1	1	2	0	1	1	11

4. 令和6年度収支

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	前年度比
令和5年度収入	12,090	12,091	11,752	12,017	12,013	11,232	71,195	
令和6年度収入	12,137	12,629	12,402	12,914	12,839	12,337	75,258	4,063
令和5年度支出	10,742	10,208	15,733	8,512	8,111	8,323	61,629	
令和6年度支出	9,429	8,702	15,037	9,714	9,375	10,213	62,470	841
令和5年度収支差額	1,348	1,883	-3981	3,505	3,902	2,909	9,566	
令和6年度収支差額	2,708	3,927	-2635	3,200	3,464	2,124	12,788	3222
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
令和5年度収入	12,760	12,134	12,425	12,091	11,680	12,451	144,736	
令和6年度収入	12,706	12,365	12,809	12,713	11,387	12,139	149,377	4,641
令和5年度支出	9,643	9,331	14,576	8,651	8,546	8,499	120,875	

令和6年度支出	10,961	9,563	15,402	9,396	9,209	9,464	126,465	5,590
令和5年度収支差額	3,117	2,803	-2151	3,440	3,134	3,952	23,861	
令和6年度収支差額	1,745	2,802	-2593	3,317	2,178	2,675	22,912	-949

※補助金事業収益分、減価償却費等は計上せず

単位千円

収入・支出・収支差額についての管理者意見

令和6年度の収入において、稼働率（98.5%）目標を達成することができなかった。入院期間が長期化し、空室数が増加する。早期退院に繋がらなかったが、入院者の状態改善に時間が掛かった。空室の利用ができないため、長期入院は空室数増加の要因となり、今後の課題となっている。次年度は入居者様の日々の健康状態を観察し、状態が悪化する前に医師と連携し、施設内で行える範囲の治療を積極的に行っていきたい。

介護物品の買い替えを行い、車いす10台、エアマット3台、体位交換クッション等を購入した。支出は増えたが、入居様のADLに適した介護物品を使用することによって、褥瘡及び拘縮予防に繋がり、介護の質の向上に繋がっている。

入所検討会をケアハウス、グループホーム、特養の3事業所合同で行い、各部署の空室状況及び待機者状況を確認した。各部署内で特養への申込を行っている申込者の情報共有を行い、特養への入所に繋げることができた。

今年度は美化環境整備を強化して行い、共用部及び居室の整理整頓に努めた。床のコーティングは次年度に計画し、快適な生活環境を提供できるようにしたい。

以上

魚崎高齢者介護支援センター(短期入所生活介護)

令和 6 年度 事業報告書

今年度の経営スローガン「全てを自分の問題と捉え、一人ひとりが改善実行！」に基づき、感染対応の緩和に向けての話し合いや業務・ケアの改善について申し送り時の話し合いだけではなく、定期的な話し合いを開催に向けて取り組みを行った。ご利用中の活動量の低下を少しでも改善できるよう、ご自宅での様子を共有し意識づけを行う事ができた。朝のラジオ体操や YouTube を活用した体操の実施。活動量低下予防の為、可能な範囲で歩行をお勧めすることで室内での歩行や運動の機会を増やせるように努めた。近隣への散歩は機会としては少ないながらもロングショートステイを中心に行う事ができた。余暇活動の定着やレクリエーションなどが行えるようおやつレク・音楽療法を再開。ご利用者様の楽しみに繋がる様な活動の再開に向けて取り組んだ。

利用人数については、神戸市より、利用定員遵守の通達があり、見直しを行った。

5月と12月にコロナウイルス感染やR7年3月に胃腸炎の流行。6月、9月、10月とロング利用の入院や退所などの影響により利用者数の変動がみられたが、昨年度に比べ71名(1%)の増加となった。緊急等の急ぎのご利用にも対応する事ができた。

ロングショートステイ・準ロングを月平均10名確保し、他部署との連携を行う事ができた。ご家族様・ケアマネージャーへも変化時以外にもTELやFAXでの毎月ご利用状況を報告し、利用者様の情報の共有を図れるようにお伝えをした。

1. 楽しく快適で安全な生活を提供

- I. 音楽療法の再開やおやつレクの実施。ご利用者様へ安心だけではなく、楽しみながら過ごせる場を提供できる様に取り組みを行った。機会としてはまだ多くはないが、ご利用者様の笑顔や楽しい空間でお過ごし頂けるように次年度も取り組みを続けていきたい。
- II. 各居室、フロアの整理整頓の意識づけが、まだ根付いていないのが現状。物品の管理も含め環境整備は引き続き次年度の課題となった。
- III. 空き時間を活用した、レクリエーションや軽作業ラジオ体操、天候の良い日にはロングショート中心に散歩等を実施した。

2. 災害や感染症対策にかかわる体制整備

- I. 感染症や自然災害が発生した場合であっても、介護サービスが安定的・継続的に提供できるよう、BCP(事業継続計画)に基づき研修や訓練を実施した。

感染症対応緩和の中でも体調不良者の初期対応や医務との連携を密にし、速やかに感染者への対応について話し合いを行い、対応を行った。

3. 安定した利用者確保

利用者数

単位(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	577	597	524	588	577	540	512	493	465	517	511	563	6,464
令和5年度	606	585	584	552	587	540	539	485	486	580	490	604	6,638
令和6年度	567	512	520	571	611	546	534	565	576	585	542	577	6,709

稼働率（一日平均利用者数）

単位（％）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
令和 4 年度	96%	96%	87%	94%	93%	90%	82%	80%	75%	83%	91%	90%	88%
令和 5 年度	101%	94%	97%	89%	94%	90%	86%	80%	78%	93%	84%	97%	90%
令和 6 年度	95%	83%	87%	92%	99%	91%	86%	94%	93%	94%	97%	93%	91%

Ⅰ．感染状況による利用率の減少

5 月、12 月にコロナ感染症が発症した。12 月発症のコロナウイルス感染以降、1 月初旬までコロナウイルス以外の風邪症状利用者が増加し、終息までに時間を要した。12 月は、コロナウイルスやインフルエンザではない風邪症状がみられる方の感染があり、感染対応を個別対応。多床室の方を部屋ごとのエリアで分けずに個別に対応した事が長引く結果となったと考える。

R7 年 3 月には胃腸炎にてご利用者様及び職員の感染が 2 週間ほどあった。感染症が長引けば、利用者様へのご負担や利用者数の減少に繋がっている。感染対応での介護職員への身体的・精神的な負担だけではなく、感染対応の連絡業務等増加等もある。

日常の感染症対応を緩和と感染症発症後からの一日でも早い終息に向けて、初動対応の徹底と医務と連携しながら、引き続き感染症予防に努めていきたい。

Ⅱ．利用について

- ・神戸市より、利用定員遵守の通達があり、予約調整の見直しを行った。ご利用の要望はあるが、実際にはご利用頂けない方の増加。ご家族様やケアマネージャーには夕方入所や朝食後の退所等を提案するも、あまり需要が少なく、緊急時の対応のみ程度。（8 月利用者数は 1 ヶ月の利用者の数の平均を用いると定員超過に関する規定の再通達）

- ・週末（金・土・日・月）の利用が集中しており、日曜日入所も増加。偏りが見られている。日曜日は看護師一名体制。可能なご利用者様には、利用開始までに内服薬の持参をお願いする等の対応をお願いし、数名だご協力いただけた。

- ・急を要するご利用の方にも可能な範囲で柔軟にお受け入れを行い対応した。

- ・入所部門との情報共有を行い、スムーズな入所に繋がる様努めた。また、入所部署とも連携を図りながら、ショートステイご利用者様の中からもロングショートステイのご希望を確認しながら、提案を行う事ができた。安定した利用の継続の為に、ロングショートステイ利用者を 10 名以上は保持しながら、新規利用者、固定利用や時期ロング候補とのバランスを取りながら、ベットコントロールを行っている。

4. 収入の確保と支出

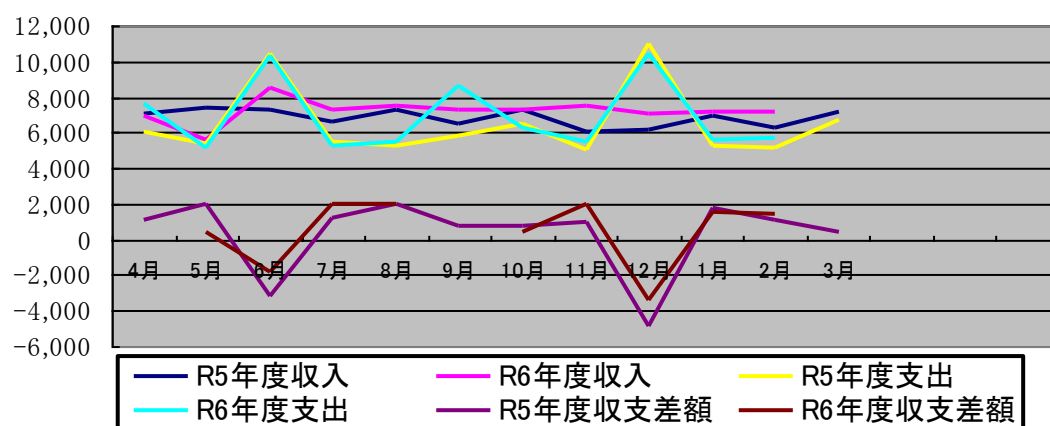
収支金額

単位:千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	前年度比
令和5年度収入実績	7,077	7,392	7,219	6,630	7,261	6,495	42,074	
令和6年度収入実績	6,940	5,631	8,465	7,245	7,548	7,297	43,126	
令和5年度支出実績	6,007	5,372	10,375	5,470	5,282	5,771	38,277	
令和6年度支出実績	7,651	5,171	10,308	5,301	5,525	8,631	42,587	
令和5年度収支差額	1,070	2,020	-3,156	1,160	1,979	724	3,797	
令和6年度収支差額	-712※	460	-1,842	1,944	2,023	-1,334※	539※	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
令和5年度収入実績	7,253	6,024	6,117	6,985	6,302	7,120	81,876	
令和6年度収入実績	6,703	7,504	7,053	7,173	7,136	7,182	85,877	104.9
令和5年度支出実績	6,462	5,033	10,970	5,253	5,189	6,761	77,945	
令和6年度支出実績	6,256	5,488	10,414	5,593	5,740	5,770	84,848	108.9
令和5年度収支差額	791	991	-4,853	1,732	1,113	359	132	
令和6年度収支差額	446	2,016	-3,361	1,581	1,396	1,412	1,029	780

※令和6年度支出に修繕費として下記施設負担分を計上している。

4月 中央監視盤設備更新工事 ￥1,749,000
9月 エレベーター機能維持工事 ￥2,860,000
計 ￥4,609,000



- I. R6年4月1日よりサービス提供体制強化加算Ⅱ18単位→Ⅰ22単位に変更
II. R6年4月1日より長期利用適正化(61目以上のご利用の方対象の減算)

5. 事故件数と重大事故報告

A：入院加療を要する事（事故が直接の要因で無い場合の入院は含まない）

B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A												1	1
B									1	1		3	4
C	4	3	6	6	2	5	2	5	4	5	7	4	55
合計	4	3	6	6	2	6	2	5	5	6	7	8	60

I. 事故件数は前年度の 72 件に比べ減少しているものの転倒による救急搬送が下半期増加していた。日々の話し合いやケアの見直し等を行った。

II. 3 月椅子に座りそこない転倒。一時的なレベル低下が見られ、搬送後脳震盪をおこされていた為、入院し経過観察となった。

6. 人員構成本力の強化

I. 介護支援専門員資格取得受験講座に 1 名参加。1 名合格。

- ・短期入所生活介護においては、施設内介護支援専門員の確保は必須ではないが、毎年自部署で介護支援専門員資格取得の為に受験勉強を継続してきた。その中で、早出の勤務の後、1 年間教育室に閉じこもり独学でノートを取ってきた丸山 莉佳が介護支援専門員実務者研修受講資格試験に合格することが出来た。

II. 運転・送迎指導にて 2 名の職員はリピーターの送迎の対応が行えるようになった。

以上。

特別養護老人ホームサンライフ魚崎特養・短期入所・通所 医務

令和 6 年度 事業報告書

「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をスローガンに掲げ、特養・短期入所・通所介護の看護業務を一体として担当し、第 5 類コロナ感染症に対する対応策等、新しい事象や局面を受け入れ、本館医務としての形作りの第一歩の 1 年であった。

1. 事故防止について

- I. 爪関連の事故ゼロを目指していたが前年より増え 5 件発生、入浴後の爪切り管理が徹底しきれず漏れていたため日勤業務進行表に「爪」のシグナルを表記し意識づけるようにした。
- II. 重大な服薬事故はなかったが、服薬忘れが 5 件あり、介護職と協議の上、眠前薬のセット場所を朝食後薬と一緒にしていたものを 夕食後薬と一緒に変更した。
- III. 非常勤の職員が増えた事と担当部署が増えたことで次の担当・翌日への引継ぎを意識した日誌・業務進行表の残し方や送りノートの活用を充実させた。
上半期に、特養日勤業務進行表を利用者全員の名前を入れて作り変えた事で、伝達事項が漏れなく、簡潔に伝わりやすくなった。

2. 感染症について

- I. 年末から年明けにかけて発生したコロナの初症状が全て嘔吐から始まり、又、その後の感染性胃腸炎の流行で嘔吐の対応が非常に多く続いた。
ノロウイルスを疑う下痢嘔吐の場合にはアルコール消毒が無効となる等コロナ感染対応の初動とは異なることや吐瀉物の処理・消毒方法を一から伝達していく必要があった。
- II. 経験のない職員の層が増えてきている事もあり研修の課題としたい。
インフルエンザの流行もあったが部署内での感染者はなく、流行期を終える事ができた。
- III. 面会等の対応緩和に関しては上半期の行事での感染拡大があったため、来期の時期を過ぎてから行っていきたいと考える。

3. 看取りについて

- I. 前年度が 16 名と非常に多くの方々を見送ったが、今年度も月 1 名のペースで多くの方々を見送った。前年度からの、空床を次々と埋めるために病院から在宅を経由せずに直接入所を受け入れる形が続いたことで重症既往症の利用者が増えたことが影響していると考えられる。連鎖が続いている間は入院数も増える傾向にある為、現病再燃が早期発見早期対応できるよう状態観察をしっかりと行っていきたい。

4. デイサービスについて

- I. 利用者様の把握自体はまだ半分程度ではあるが、情報のデータ入力は大分埋められ、後追いの情報入手となってもそこで経験とすり合わせ確認ができる状態になってきている。
又、午後から他のスタッフと情報共有したり簡易的なカンファレンスが出来、一人で抱え込んだりすることなく、チームワークも高まっている。

5. 令和6年度特養・ショートステイ看護及び研修状況

(1) 傷病発生状況

項目	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
発熱・嘔吐等 感染対応者数 (コロナ)	20(11)	2	3	10(4)	1	3	5	44(15)	104(187)
尿路感染/誤 嚥性肺炎(疑 い)の発熱	13	1	1	1	0	3	5	26	260
加療を要する 外傷(内擦傷)	92	19	16	15	10	6	6	175	133
	13	1	1	1	3	0	3	22	146
Ns 付き添い受 診回数	2	0	0	1	0	3	0	6	35

(2) 特変緊急対応の回数

項目	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養	4	0	1	0	2	3	1	9	150
ショートステイ	1	1	1	0	2	3	0	8	100

(3) 入院・退院・入退所者数

項目	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
入院者数	4	1	1	1	0	0	1	7	100
退院者数	3	1	0	0	0	2	1	7	100
退所・死亡者数	6	1	1	2	0	2	1	12	63
入所者数	6	1	1	1	0	1	1	11	55

(4) 医療診療件数(受診・往診)・診療人数

項目	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養ショート 件数	164	27	33	25	23	28	30	330	85
特養ショート 人数	613	124	134	97	100	99	104	1271	90

(5) 研修受講状況

項目	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
外部件数	0	0	0	0	0	0	0	0	33
外部人数	0	0	0	0	0	0	0	0	125
内部件数	9	1	1	0	0	1	5	14	93
内部人数	36	4	4	5	0	5	5	59	115

魚崎高齢者介護支援センター（通所介護）

令和 6 年度 事業報告書

今年度の経営スローガンである「全てを自分の問題と捉え、一人ひとりが改善実行！」を基盤に、常勤職員・非常勤職員関係なく、思っている事、感じている事を発信し、前向きな改善策を考えられることができる職場環境づくりを意識し取り組んだ。

令和 5 年度は大幅な赤字となってしまう、令和 6 年度は赤字脱却に向け、人件費の見直し・利用者獲得増加を中心に取り組んだ。なんとか赤字から黒字に転換出来ているが、新規利用が平均、月に 2～3 件獲得できても、入院や入所による中止が多く見られ、長くご利用頂ける利用者様が少なくなっている。また、物価高騰も拍車がかかり利用日追加をされる利用者様も以前に比べ激減している。やはり職員の少数精鋭での経営が必須ではあるが、職員の精神的・身体的負担増にも繋がり、最近のデイサービスの経営状況はどの施設も厳しくなっている事を全職員にも通知し、意識して仕事に取り組んでもらう事も必要になってきている。

1. 安心で、楽しく元気になれるデイサービスを目指して

- I. デイサービスの基本方針「いつまでも元気に楽しく」のもと午前・午後における体操や棒、チューブ等を使用した体操、YouTube を活用し実施した。音楽・映像が流れる事で、利用者様も抵抗なく積極的に体操に取り組むことができた。
- II. 「職員から提供される限定された楽しみ」から「利用者様がしてみたい自己決定した楽しみ」を実現させるため、午前中の色塗りや脳トレプリントの種類を増やし、本人様に選んで取り組んで頂く。また何かに取り組む事にこだわらず雑誌や新聞を読んだり、テレビを観たりマッサージチェアで過ごす等、本人様が希望される事、本人様がお好きな事、ルーティンとしている事を見つけ出しいつでも提供できる環境づくりに努めた。

利用者数

利用者数 (目標差)	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
	587 名 (-3)	615 名 (-5)	577 名 (-43)	634 名 (4)	615 名 (-25)	575 名 (-65)
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	616 名 (-34)	581 名 (-69)	529 名 (-91)	497 名 (-123)	500 名 (-100)	626 名 (-40)

- I. 今年度は、1 日の平均利用人数を 23.5～24 名、1 ヶ月の利用人数 600～650 名と前年度より利用者増加を目標としていたが、殆どの月で目標値を下回る結果となった。1 月 2 月は利用者様が、体調不良により当日欠席や、入院 5 名、入所 2 名で特に利用者数が減少した。

II. 利用者獲得に向けての具体的な取り組み

- ① 引き続き毎月、居宅事業所への訪問を行う事で「毎月必ず訪問してくるデイサービス」という印象付けを行った。ケアマネジャーとコミュニケーションを取ることで信頼を獲得し、新規利用者獲得へと繋げていった。状況報告や空き情報等のチラシ配布等を実施した。
- ② 家族様やケアマネジャーからショートステイや入所に関しての相談があった場合、スムーズにご案内できるようある程度の説明を行い、相談員への情報提供を行った。デイサービスのみの利用者増加を目的とするだけでなく、施設全体の窓口である事を意識し営業を行った。

2. 職員の資質向上・資格取得

- I. 令和6年度より入浴介助にあたる職員の入浴研修が必須となり、順次研修を行い技術向上に努めた。
- II. 少数精鋭でのデイサービスを目指し、一人一人が責任、意識を持って業務に取り組む事で職員間の助け合いや、声を掛け合うようになった。時には相談員も介護業務に入る事で、問題点や改善点を客観的にとらえ、リーダーを中心に業務改善に取り組んだ。
職員間の関係性の構築がこの一年で向上され、相手が相手を思いながら業務に取り組む事が出来た。
- III. 2か月に1回のささゆり会全体での高齢者虐待研修（ZOOM）に参加し、レポートの提出を全職員行い、高齢者虐待防止に対する意識を高めた。ZOOM研修に入らなかった職員も録画での研修を全職員受ける事が出来た。
- IV. 毎週部署研修に1名は参加し、参考資料を全職員が目を通せるように、送迎表の横に保管した。

3. BCPと感染防止対策

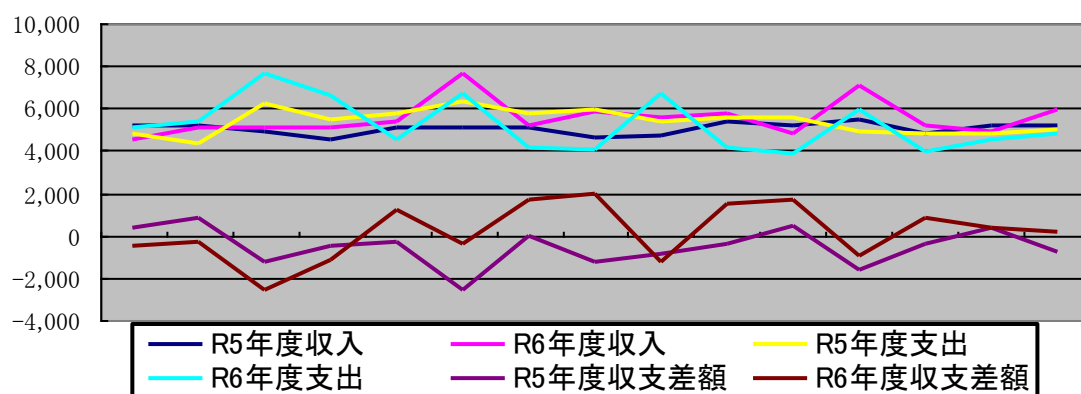
- I. 感染症や災害が発生した場合においても、デイサービス事業を止めずに継続して利用様に必要なサービスを提供するためのBCPの作成と体制作りを行い、全職員への周知徹底を行った。研修・訓練の実施を行った。
- II. 引き続き、お迎え時の検温・体調確認、来所時のうがい・手洗いの徹底。適宜換気の施行、利用中の検温を実施する事で、感染拡大の予防に努めた。

7. 令和6年度利用者状況と収支状況

令和6年度 収入・支出 (単位：千円) 3月は見込み

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	前年差	
R5年度収入	4,511	5,060	5,067	5,128	4,615	4,706	29,087	119	
R5年度支出	5,034	5,398	7,615	5,186	5,832	5,588	34,653	7,229	
R6年度収入	5,441	5,737	6,298	5,759	5,942	5,385	34,562	5,475	
R6年度支出	6,573	4,528	6,719	4,116	4,026	6,679	32,641	-2,012	
R5年度収支差額	-523	-338	-2,548	-58	-1,217	-872	-5,556	4,976	
R6年度収支差額	-1,132	1,209	-421	1,643	1,916	-1,294	1,921	7,477	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年差	
R5年度収入	5,367	5,194	5,419	4,774	5,180	5,141	60,162	4,511	
R5年度支出	5,736	4,780	7,043	5,145	4,861	5,935	68,153	9,911	
R6年度収入	5,547	5,534	4,860	4,802	4,812	4,800	64,917	4,955	
R6年度支出	4,088	3,849	5,900	3,934	4,505	4,600	59,517	-8,436	
R5年度収支差額	-369	476	-1,624	-371	319	-794	-7,991	-3,399	
R6年度収支差額	1,459	1,685	-1,014	868	307	200	5,400	13,391	

収支比較グラフ (単位：千円)



以上

フレール魚崎中町（認知症対応型共同生活介護）

令和6年度 事業報告書

「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をスローガンに、職員一人一人が意識して、自ら考え、色々なことに気づき、感じ、実行できるよう取り組んだ。また、思ったこと感じた事を発言し合い、お互いの考えや感情を共有し、個別でも意見を聞く事で、理解を深めることが出来たように思う。引き続き、体操・廊下歩行・散歩(日光浴)・家事・自立支援を強化し、やりがい作りや、楽しみごとを提供している。11月に音楽療法が再開され、3、4階の入居者様同士の交流が増えたことで、脳が刺激され認知機能の低下の抑制に繋がっていると思う。

感染症や災害発生時に、職員一人ひとり適切な行動がとれるよう、訓練・物品の整備を適時行っている。入居者様の安定的な確保の為、他部署との情報交換や連携をおこない、入居者様確保に努めることが出来た。

1. 入居者様の健康増進、やりがい・楽しみ作りを一人ひとりが考え実行

- I. 担当職員が主となり、個々のやりがいや楽しみを提案し全職員と話し合い実行している。
- II. 日課として廊下歩行、散歩、日光浴・体操・口腔体操(昼食前と夕食前)・手や頭を使う余暇活動を継続した。
- III. YouTubeを活用し職員の業務負担を軽減しつつ、入居者様に充実した時間を提供した。
- IV. 11月に音楽療法を再開した。感染症対策で外食や長時間の外出に至らなかったが、1ヶ月間だけ居室での家族面会をしていただけた。
- V. 食の楽しみとして、毎月季節を感じていただけるおやつ作りを行った。

2. 入居者様の安定的確保

- I. 前年度入院日数 97 日に対して今年度は 106 日、空床日数は前年度 18 日に対して今年度は 100 日となった。早期退院に向けて繋げようとするも、改善に至らず長期入院になった事や、入居までに時間を要してしまった事で、空床日数が大幅に増えてしまった。
- II. 見学時、明るく挨拶・楽しい雰囲気作りを心掛けた。管理者以外の職員にも情報の共有・提供を行い見学時、問い合わせ時に説明が出来る体制となった。急な見学依頼にも柔軟に対応。ケアハウスやショートステイの提案も行った。
- III. EPA 職員も電話での対応方法を指導し誰でも対応できるように徹底した。
- IV. SNS の活用。金額、雰囲気、サービス内容、空き状況等タイムリーに情報提供した。
- V. 他部署と連携。運営会議時等に、グループホームの状況を伝え、入居希望者の情報を得た。ロングショート等活用し確保に繋いだ。新規入居者様 3 名がショートステイ利用者様である。
- VI. 綺麗で季節を感じる施設作り。ここに住みたいと思ってもらえるよう、季節のお花を飾り壁画作りに力を入れている。常に整理整頓を行った。
- VII. 管理者・リーダーの現場業務以外の時間があまり作れなかったが、適時入居確保業務を行い、待機者確保に努めた。
- VIII. ADL 低下時等介護認定変更を速やかに行うよう努め、転居検討も実施。
- IX. 体調管理、事故防止に努め、極力入院とならないようサポートに努めた。

3. その他

- I. 認知症ケアのプロとして、接し方・対応の仕方、精神的ケアを全職員が認識し、常に安心感を与える対応を指導徹底した。

- II. 認知症研修と職員会議を(5月・9月・12月・3月)職員会議を(4月1月)に実施し、認識の強化・意欲の向上・ケアの統一・スキルアップを行った。
- III. 毎日の申し送り時と金曜日にフロア会議をおこない、個々のニーズに向き合い、話し合い、皆で統一したケアを実施した。
- IV. 感染委員会を中心に、感染症発生時の研修を3か月に1回実施した。
- V. 内部研修を実施。職員のスキル向上と知識の習得に努めた。また、緊急時の対応を全職員が実施できるようにした。
- VI. BCP に基づき、感染症や災害が発生時も入居者様に必要なサービスが継続して提供できるよう、体制作りや研修を行った。又、災害や感染症に備え、感染予防物品は感染委員が確保、確認、点検を行った。
- VII. 光熱費・物価の高騰の為、コスト削減の意識を高める。正職員を中心に節約を常に啓発。無駄な出費を無くし、レク物品やリハビリ物品の購入に努めた。
- VIII. 職員がハラスメントを理解・意識できるよう研修を実施。働きやすい職場を構築。
- IX. 介護支援専門員・介護福祉士・実務者研修等資格取得を推進。
- X. 虐待防止研修の定期的実施を進めた。起こりそうな虐待行為について朝礼や昼礼時の申し送りで討議し、全職員に周知徹底した。

4. その他

- I. 気持ちのゆとりを持って働けるよう、メンタルヘルスの講師への相談や人員調整・業務調整にて職員の心身の健康管理に努めた。
- II. 職員の心身のリフレッシュの為3日以上連続休暇をとる。生活支援休暇も活用。
- III. 加算項目…①初期加算 ②入院時費用 ③認知症専門ケア加算(I) ④サービス提供体制強化加算(I)ロ ⑤介護職員等処遇改善加算(I) ⑥口腔衛生管理体制加算

5. 要介護者の年齢・介護度

平均年齢 3階 89.8歳・4階 88.6歳 平均介護度 3階 2.1 4階 2.1 (R7.3月末)

6. 事故発生状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	R5年度	2	8	10	2	3	2	2	6	4	1	4	2	46
	R6年度	2	1	2	7	2	5	0	1	4	3	2	5	34
転落	R5年度	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
	R6年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内出血 打撲	R5年度	6	2	4	7	6	3	6	4	2	2	5	2	49
	R6年度	2	3	5	4	2	2	5	6	1	2	5	2	39
傷 裂傷	R5年度	0	4	1	1	0	3	2	1	1	1	0	0	14
	R6年度	1	4	3	2	0	5	2	5	1	3	0	0	26
異食 誤嚥	R5年度	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	5
	R6年度	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	4
薬	R5年度	2	1	0	1	1	5	1	1	1	5	5	2	25
	R6年度	1	1	1	2	0	2	1	1	1	0	0	2	12
その他	R5年度	1	1	1	2	0	1	0	0	0	0	1	0	7
	R6年度	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
合計	R5年度	12	17	17	13	12	14	11	13	9	9	15	6	148
	R6年度	7	9	12	18	4	14	9	13	7	9	7	9	118

- ①転倒…肋骨骨折、脾臓損傷(入院)1件・慢性硬膜下血腫(入院)1件・大腿骨骨折、股関節周りの骨折(入院)1件・恥骨骨折1件
 ②誤嚥…喉詰め 異食…ティッシュ・形態違いのパンなど
 ③薬ミス…飲みこぼし9件・下剤を多く内服1件

7. その他

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総日数		540	558	540	558	558	540	558	540	558	558	504	558	6570
利用日数 (日)	R5年度	444	496	457	529	558	539	558	534	558	550	518	544	6285
	R6年度	540	558	538	558	558	528	551	540	527	499	440	527	6364
入院 (日)	R5年度	36	0	23	11	0	1	0	0	0	8	4	14	97
	R6年度	0	0	0	0	0	12	0	0	31	34	29	0	106
空室 (日) (退居)	R5年度	0	0	0	18	0	0	0	6	0	0	0	0	18
	R6年度	0	0	2	0	0	0	7	0	0	25	35	31	100
稼働率 (%)	R5年度	93%	100%	95%	95%	100%	99%	100%	98%	100%	98%	99%	97%	97%
	R6年度	100%	100%	99%	100%	100%	97%	98%	100%	94%	89%	87%	94%	96%

①入院7件…病気5件・骨折2件 ②入居8件・退居8件(4件特養入所)

8. 年間収支結果

単位(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
令和5年度収入	5,514	5,982	5,306	6,698	6,787	6,942		
令和6年度収入	6,638	6,725	6,686	7,042	7,117	6,537		
令和5年度支出	5,219	4,758	8,675	5,277	4,796	5,296		
令和6年度支出	4,976	4,798	8,480	5,487	5,255	5,173		
令和5年度収支差額	295	1,224	-3,369	1,421	1,990	1,646		
令和6年度収支差額	1,662	1,927	-1,794	1,555	1,862	1,364		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
令和5年度収入	7,015	6,701	6,996	7,053	6,419	7,080	78,493	
令和6年度収入	6,847	6,337	6,916	6,202	5,678	6,852	79,577	101.3%
令和5年度支出	5,006	5,047	9,129	5,532	5,338	4,888	68,961	
令和6年度支出	5,385	5,200	7,960	5,592	5,355	5,782	69,443	100.6%
令和5年度収支差額	2,009	1,654	-2,133	1,521	1,081	2,192	9,532	
令和6年度収支差額	1,462	1,137	-1,044	610	323	1,070	10,134	106.3%

※減価償却費等は計上せず

※令和6年度12月～3月に入院日数・空室日数が増えてしまい、収入が大幅に減少となった。

介護型ケアハウス サンライフ魚崎

令和6年度 事業報告書

「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」をスローガンとし、入居者様の楽しみや健康増進について職員一人一人が向き合って計画・実行できるよう日々コツコツとできる事に取り組んだ。その中で入居者様の状態に変化がある場合は速やかに介護職・看護師間で連携・対応しており、結果として入院日数の大幅な削減に繋がったと思っている。感染症においてはコロナウイルスやインフルエンザなどが入居者様に発症することなくお過ごしいただく事ができた。

8月にインドネシアからの特定技能生1名、3月末に2名が入職、特に健康面で心配な面もあったが、概ね順調に業務理解・日本語の理解が進んでいる。資格取得においては介護福祉士国家試験にEPA候補生が1名受験し、無事に合格することができた。

1. 入居者様の健康・喜ばれる介護支援

- I. 入居者様の日々の運動・活動において入居者様担当職員がPDCAサイクルで考え、入居者様ごとに毎日実施できているかのチェック及び1か月ごとに評価・改善を行った。
- II. 先生に来て頂くフラワーアレンジメントを5月より再開、ハーブセラピーは6月よりした。また1月より音楽療法を再開、毎月1・2・4週目の木曜日（ケアハウス1階・3階西フロア）・金曜日（2階・3階東フロア）として感染対策を考慮しながら実施するようにした。
- III. 感染症対策に慎重になった結果、外出や外食の企画に至らなかったが毎週火曜日を中心に散歩・体操・手作業・書道のクラブ活動を企画・実施した。月2回は入居者様と職員一緒に簡単なおやつを作るおやつレクリエーションも実施した。
- IV. 家族様面会において11月中旬から1か月間は居室での面会ができるようにした。また個別の事情による外出希望に関しては柔軟に対応を行った。

2. 入居者様の安定的確保

- I. 前年度入院日数386日に対し今年度は180日、空床日数は前年度101日に対し211日となった。介護職・看護職の連携が強化され病気などへの早期対応で入院日数は削減できたが、新規入居者様の確保に時間を要する事もあり空床日数は増えてしまった。
- II. 電話やホームページでの問い合わせ・施設見学について親切・丁寧に対応・説明を行った。急な相談もあったが、安易に断らず魚崎事業所内で対応ができないか可能性を模索し相談内容に応じてグループホームや特養・ショートステイの提案も行った。
また少々遠方であっても看護師と相談員で面接に行くようにした。
- III. 引き続きショートステイと連携し、ケアハウス待機でのショートステイを利用して頂き、状況に応じて円滑に入居して頂けるようにした。新規入居者様10名中4名がショートステイ利用者様となった。

3. 活力ある職場作り・業務改善

- I. インドネシアからの特定技能生が8月下旬より1名、3月末に2名が入職した。体調面で心配されることはあるが、概ね順調に業務及び日本語の理解が進んでおり、順次業務を任せる事ができている。
- II. 職員の介護負担軽減の為、床走行式リフト1台、移乗時に使用するスライディングボードを各階1台ずつ3台購入した。
- III. 本部長代理・施設長を中心とした介護福祉士・介護支援専門員試験講座や学習の進捗状況の確認、勉強方法のアドバイスをを行った。EPA 候補生1名が介護福祉士国家試験を受験し、無事に合格する事ができた。
- IV. 全職員、年間5日以上有給休暇が取得できるよう調整を行った。外国人職員が個別の事情により一時帰国を希望するケースが計5件あったが柔軟に対応した。
- IV. 年間研修計画に沿って、虐待防止・身体拘束・感染症・BCP等の研修を行った。

4. その他

- I. 入居者様の生活に大きな支障がないよう業者との入念な事前打ち合わせ・業務の調整を行った上で、10月～11月にかけてケアハウス1～3階の東西食堂フロア床フローリングの張替えを行った。
- II. 手洗い・うがい・換気・消毒などの標準予防策の徹底、職員体調不良時の連絡強化出勤を見送る等の対応を行った。年間通してインフルエンザやコロナウイルスが施設内で発症することなく、入居者様にお過ごし頂く事ができた。
- III. 重大事故については入院に至った事故が3件、入院に至らなかった事故が4件あった。

5. 利用日数・稼働率・入院日数・外泊日数・入退所人数・看取り人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
日数	1,440	1,488	1,440	1,488	1,488	1,440	8,784
利用日数	1,395	1,481	1,440	1,452	1,456	1,377	8,548
稼働率	96.9%	99.5%	100%	97.6%	97.9%	95.6%	97.3%
入院日数	23	6	0	1	0	36	66
外泊日数	0	0	0	0	0	0	0
空室数	22	1	0	35	32	17	107
退居者数	1	0	0	2	1	1	5
新規入居者数	1	1	0	1	1	1	5
看取り人数	0	0	0	0	1	1	2
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	1,488	1,440	1,488	1,488	1,344	1,488	17,568
利用日数	1,463	1,398	1,455	1,427	1,331	1,444	17,081
稼働率	98.3%	97.1%	97.8%	95.9%	99.0%	97.0%	97.2%
入院日数	8	7	6	36	13	44	180
外泊日数	0	0	0	0	0	0	0
空室数	17	35	17	25	0	0	211
退居者数	2	0	2	1	0	0	10
新規入居者数	1	2	1	2	0	0	10
看取り人数	1	0	2	1	0	0	6

5. 年間収支結果

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	前年度比
令和 5 年度収入	19,281	20,807	19,338	19,551	19,377	20,956	119,310	
令和 6 年度収入	19,870	21,336	21,157	20,842	20,855	21,022	125,082	104.8%
令和 5 年度支出	15,807	14,515	25,304	14,189	13,729	14,107	97,651	
令和 6 年度支出	15,296	13,793	27,474	13,813	14,293	14,476	99,145	101.5%
令和 5 年度収支差額	3,474	6,292	-5,966	5,362	5,648	6,849	21,659	
令和 6 年度収支差額	4,574	7,543	-6,317	7,029	6,542	6,546	25,917	119.6%
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	
令和 5 年度収入	21,415	19,791	21,638	21,257	19,488	21,086	243,985	
令和 6 年度収入	20,209	20,206	22,365	20,294	19,427	20,750	248,333	101.8%
令和 5 年度支出	15,060	13,863	25,537	13,918	14,296	14,036	194,361	
令和 6 年度支出	16,351	14,085	27,068	14,645	22,877	14,500	208,671	107.4%
令和 5 年度収支差額	6,355	5,928	-3,899	7,339	5,192	7,050	49,624	
令和 6 年度収支差額	3,858	6,121	-4,703	5,649	-3,450	6,250	39,662	80%

※減価償却費等は計上せず

※収入は令和 5 年度と比べ 101.8%、支出は 107.4%、収支差額は 80%の結果となった。

収支差額 80%の主な原因は、各フロアフローリング張替え工事（760 万円）

以上

介護型ケアハウス サンライフ魚崎医務室

令和6年度 事業報告書

<スローガン>

「全てを自分の問題としてとらえ、一人ひとりが改善実行！」

1. 令和6年度受診・往診・入院・救急・看取り件数等

月	往診 件数	受診 件数	入院 件数	救急 件数	看取り 件数	薬管理 件数	入居数	退所	入所
4月	116	8	0	0	0	47	47	1	1
5月	139	8	1	0	0	48	48	0	1
6月	137	7	0	0	0	48	48	0	0
7月	120	6	1	1	0	47	47	2	1
8月	119	5	0	0	1	47	47	1	1
9月	114	5	4	1	1	46	46	1	1
10月	131	10	1	0	1	45	45	1	1
11月	154	5	0	0	0	48	48	0	2
12月	120	8	1	0	2	47	47	0	1
1月	140	16	2	1	1	48	48	1	1
2月	128	9	1	0	0	48	48	0	0
3月	122	7	3	1	0	47	47	0	0
合計	1540	94	14	4	6	566	566	7	10

2. 令和6年度 看護業務の総括

1. 入居者様の健康管理

- 1) 入居希望者様との面接に同席し、内服や処置など生活上の医療的な問題や、必要とされる病院受診の把握に努めることができた。
- 2) 入居者様の体調確認を行い、受診の必要がある場合は速やかに医療機関へつなぐことができた。今年度は入院件数が14件で、うち8名が2週間以内には退院している。(1名は病院で永眠)
- 3) 毎月医療連携報告書を主治医へ提出し、医師と看護師の情報共有を行うことができた。

- 4) 歯科医師指示の下、歯科衛生士による口腔ケアを2カ月に1回は実地し、情報共有を行うことができた。
- 5) 褥瘡に関しては、大転子、腸骨に出来る方や、臀部に繰り返しできる方が多く、皮膚科医師の往診、栄養状態の管理、内服薬の調整、除圧の工夫、スキンケアに取り組んでいる。認知症の方が多く食事の拒否や、除圧のクッションを取り除いたり、排便コントロール不良でなかなかこちらの意図するようにできなかったり、職員に褥瘡予防の意識が低く適切な体位変換や、除圧が出来ていないのが現状。
- 6) 今年度は転倒し骨折される方が多く、職員の転倒防止の意識も低かったように思う。今後は転倒の要因となるものはないか常に目を光らせ、積極的に転倒カンファレンスに参加し、職員全体で転倒予防に努められるよう働きかけていくことが必要。

2. 感染対策

- 1) 手洗い、うがい、マスク着用を徹底し感染経路の遮断を行った。
- 2) BCP 感染症研修を行った。
- 3) 体調不良の方がおられた時は速やかに医師に報告し悪化しないよう努めることが出来た。
1月～3月にかけて、1階で風邪症状のある方や、心不全を起こした方が多くおられ、今後寒い時期には防寒対策、環境整備について職員に周知してもらうことが必要。
- 4) 年休、生活支援休暇を計画的に取得し、看護職員自身の体調管理に努めることが出来、病気休暇は無かった。

3. 看取りの対応

- 1) 入居時に危篤時の対応について入居者様・ご家族様へ意思を確認しておくことができた。
- 2) ご家族様や医師への状態報告を密に行い、適切な時期に看取り同意書の説明と同意を得ることができた。
- 3) 今年度は6名看取ったがいずれもご家族様からは感謝の言葉を得られた。

4. 虐待防止

- 1) 虐待防止の職員研修には全員参加できた。
- 2) 不適切ケアや虐待について定期的に学ぶことで、自分自身のケアを振り返り、意識付けすることが出来た。
- 3) 他の職員に不適切ケアの兆候は見られなかった。

以上

サンライフ魚崎（厨房）

令和6年度 事業報告書

今年度、ささゆり会の経営スローガンである「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行」を実現するため、継続して厨房職員の人材育成・職場環境改善を重点に置き、利用者様・入居者様に好まれる安心・安全・美味しい食事の提供を目指した。

今年度は、常勤の管理栄養士1名の入職があったものの、すぐ退職となってしまった。常勤非常勤職員は3名の入職があったが4名退職。常勤管理栄養士が産休に入ったことも含め、昨年度に比べて人員不足は続いている。また、円安の影響で物価高騰が続いているのと加工食品使用の増加により、前年度と比較すると2,026,227円と大幅な増額となった。

1. 新たな人材育成・職員の定着・人材育成方法の見直し

- ・今年度は、7月に常勤管理栄養士1名の入職があったが1月に退職。昨年度よりの非常勤職の入れ替わり等もあり高齢化は解消されつつあるが、勤続年数や個人の能力による技量差が大きいことは課題として残っている。個人で出来る仕事を増やしていくという目標については、個々の技量と厨房業務全体のバランスを見ながら、今後も継続して指導を行っていく。
- ・厨房職員の人材不足については、職員食を9月から週3回提供無しとし、日中の勤務人数を削減する対応を取った。また、朝食提供時間帯においても、果物加工品を使用する等朝食提供内容を一部変更することや、業務の開始時間を変更し1人で対応してもらうことにより、必要な時間に人員を配置できるよう努めた。
- ・職員定着を図る為のアンケートについては、業務のひっ迫と人員不足加速により未実施である。常勤管理栄養士が1名今年度より休職となっており、引き継ぐ予定であった常勤管理栄養士が退職になり、後続の栄養士に引き継ぎができていないことから、アンケートや面談の実施については今後の目標とし、口頭での聞き取りや、内容によってはその都度改善できる策を考えるよう努めていく。

2. 衛生管理の徹底

昨年度より清掃方法の変更を行い現在も継続できている。3月に職員食に服の繊維のようなものが混入してしまった。すぐに業務に入る前に粘着クリーナーで衣類に付着している埃等を取る対策をとり、以後同じことが起こらないよう努めている。害虫に関しては厨房外で繁殖した害虫が侵入してくることがあった。駆除業者への駆除依頼と該当箇所の消毒清掃を行っていただき、より清潔な空間となるよう努めている。また、チョウバエの繁殖については、駆除業者より繁殖を防ぐ方法を聞き取り実施中。効果があるため今後も現状を継続できるよう努める。

3. 食材価格高騰に対する対策

今年度も円安の影響で物価上昇が続いており、前年度よりも食材費が増額している。増額の原因としては4月から8月間は昨年度中止していた職員食の提供を実施していたため、食数が増えたことがある。また8月末より厨房の人員不足により、加工品を使用する頻度が増えたことも大きな影響がみられた。今年度に入り、冷凍野菜等常時使用する食材の納入先をより安く仕入れできる業者へ変更する対策も行っている。今後も値上がりが予測され、厳しい状況ではあるが、主となる納入先3社で見積もりを取り、随時納入先の変更も検討しながら食材費を抑えられるよう努めていく。

〈R6年度 食材料費実績〉(円)

	R5年度	R6年度	増減(%)
4月	2,535,448	2,539,313	+0.2
5月	2,744,626	2,922,627	+6.5
6月	2,417,446	2,531,369	+4.7
7月	2,742,802	2,847,302	+3.8
8月	2,476,285	2,738,121	+10.6
9月	2,632,103	2,765,155	+5.1
10月	2,632,274	2,889,581	+9.8
11月	2,517,109	2,574,242	+2.3
12月	2,729,628	3,055,050	+11.9
1月	2,589,595	2,838,774	+9.6
2月	2,369,627	2,606,818	+10.0
3月	2,806,713	2,911,531	+3.7
合計	31,193,656	33,219,883	+6.5

※昨年度比較、2,026,227円増額

4. BCPサイクルの取り組み

退職した常勤管理栄養士には感染症や天災が発生した場合であっても、利用者様に必要なサービスが継続して提供できるようBCPの伝達を行った。しかし、それ以外の職員には伝えきれておらず、皆に周知できるようにする必要がある。

5. 新しい献立の導入

今年度も年に1回行う嗜好調査の結果や、各部署の給食委員より頂いた意見も反映しながら新しい献立の導入を行っている。今年度よりデイサービスでもおやつレクの実施を開始しており、市販の菓子だけでなく、手作りで楽しめるような内容となるよう努めている。厨房の人員不足も課題としてあるため、できるだけ調理工程は簡単にしつつ、利用者様に喜ばれるような献立作りを続けていく。

以上

サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

令和6年度 事業報告書

今年度の法人経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行」に沿ってケアマネジメントを行い、昨年に引き続き黒字をできるだけ増やす方向で進めていきました。ケアマネジャー2名が入社6年目を迎えささゆり会の福利厚生費にしたがって退職金共済掛金が増えました。令和6年4月の介護保険改正に伴った対応ができるように努力しました。

I. 感染症や災害への対応力強化

B C P（事業継続計画）を備えたマニュアルを確認し本館特養の全体訓練等に参加しました、

感染症や災害の発生した場合であっても、日頃から地域にある介護サービス事業所や福祉用具事業所と密に情報交換をすることにより、利用者様に必要なサービスを継続的に効率よく提供できるように努力しました。本年もケアマネロッカーに災害時、持ち出し可能な名簿を作成保管し、速やかに災害時の安否確認が出来るようにしました。

II. 適正なケアマネジメントを行います

- 1 生活援助の訪問回数の多い利用者様等のケアプランはありませんでした。
- 2 退院・退所時カンファレンスにおける福祉用具専門相談員等を必要に応じ、参画していただきました。
- 3 終末期で退院される方へのサービス利用前の相談、モニタリングの評価を行い、本人の意思を尊重した支援に結び付けました。（退院・退所加算）
- 4 介護保険改正に則して、入院時情報連携加算、利用担当者の逡減制の緩和などに順次取り組んでいきました。

III. 研修・その他

- 1 主任介護支援専門員研修 R6.8.1～R6.10.2 岩佐
介護支援専門員更新研修 R6.10.16～R7.1.18 岩佐 齋藤
神戸市ケアプラン点検研修会 R6.6.26 岩佐
神戸市生活困窮者支援制度 R6.9.11 齋藤
- 2 「ケアプランデータ連携システム」を活用できませんでした。
- 3 高齢者虐待、ハラスメント、困難事例等、人権尊重に基づいたケアマネジメントについて地域包括支援センターと連携をはかり、早めに対応していきました。

・収支結果（居宅介護支援費・介護予防支援業務委託料・認定調査委託料）（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 5 年度収入実績	1, 497	1, 442	1, 496	1, 389	1, 422	1, 309	8, 555
令和 6 年度収入実績	1, 495	1, 424	1, 470	1, 419	1, 462	1, 453	8, 723
令和 5 年度支出実績	1, 240	1, 056	2, 720	1, 049	1, 087	1, 319	8, 471
令和 6 年度支出実績	1, 358	1, 110	2, 756	1, 132	1, 163	1, 226	8, 750
令和 5 年度収支差額	557	386	-1, 224	340	335	-10	384
令和 6 年度収支差額	137	314	-1, 290	286	299	227	-26
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 5 年度収入実績	1, 433	1, 357	1, 452	1, 400	1, 400	1, 400	16, 997
令和 6 年度収入実績	1, 559	1, 476	1, 557	1, 479	1, 534	1, 500	17, 831
令和 5 年度支出実績	1, 416	1, 150	2, 600	1, 200	1, 200	1, 200	17, 237
令和 6 年度支出実績	1, 417	1, 220	2, 617	1, 197	1, 181	1, 180	17, 567
令和 5 年度収支差額	17	207	-1, 148	200	200	200	-540
令和 6 年度収支差額	142	258	-1, 060	282	282	320	198

管理者意見

R6 年度収支結果は何とか赤字を脱却できましたが、まだまだ不安定です。

R6 年、8 月と 2 月には入院、施設入所、死亡などで利用者数が減少しました。

近くの閉鎖される事業所より利用者を 10 名以上移動して頂き、何とか乗り切ることができました。

(地域包括支援センター) 魚崎北部あんしんすこやかセンター 令和 6 年度 事業報告書

**経営スローガン「全てを自分の問題として捉え、一人ひとりが改善実行！」
サブ「全職員の専門力を生かし連携して、楽しく生活できるよう支援する！」**

今年度も、魚崎地域、甲南地域、北青木地域に分けて分析し地域にアプローチをしている。感染症に配慮してイベント開催し、感染発症等問題なく実施できた。

魚崎地域の校北公園で毎週水曜日の 9 時半よりラジオ体操を継続実施し介護予防啓発に努めた。ラジオ体操のラジカセ運搬、のぼりの準備、公園掃除なども住民主体でできている。また川井公園での「うはら祭り」にブースで参加し、地域包括や認知症の広報を 100 組のご家族様にできた。

甲南地域では、一昨年の地域ケア会議でできたプロジェクト甲南と言うネットワークのメンバーと連携し、「甲南にぎわいフェスタ」や「ゆるーくつながるお楽しみ会」にて「ふらっと立ち寄れる居場所、情報を得る事ができる場所」を年間 7 回開催する事ができた。地域ボランティア、民生委員、コープ甲南店、甲南商店街のお店の方々だけでなく、通所介護事業所や福祉用具事業所とも連携し、場所の提供等協力いただき、一緒に開催出来た。

北青木地域は、センターより離れている為、西青木総合会館で毎月（8 月以外）第 3 水曜日の午前に、出張相談及び神戸市の元気いきいき体操と一緒に頂き介護予防をしていただく会を継続開催している。2 名から 8 名の参加者で推移しており、定期的にイベント開催も計画し、6 月には、「健康チェック」を開催し 30 名参加された。9 月には、「防災についての取り組み」のイベント開催し、北青木の地域役員、防災コミュニティ役員、通所介護事業所管理者、障害事業所管理者、地域住民とセンターで、防災の事前の取り組みや災害時の役割など共有できた。
一昨年できた広報ルートを利用し広報できた。

年間、虐待 16 件、困難事例 18 件と多かったが、随時情報共有し対応を検討し、迅速かつ素早くチームワークを発揮して連携し実践できた。年々対応力アップ出来ている。

1. 高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

・消費者被害注意喚起の広報については、校北公園のラジオ体操の場で 2 度、6/11 の元気いきいき講座、6/19 のシニア元気相談会のイベント、他新規相談時やモニタリング訪問の際、個別にチラシを配布して、注意喚起を行った。

圏域内で実際の被害に遭われた方もおられ、すぐに民生委員、地域の防犯担当の役員の方と情報共有させていただいた。広報活動としては魚崎プラザ、地域拠点型一般介護事業ひととき会、東灘リハビリデイサービスでの運営推進会議、センター主催の地域ケア会議等で広報させて頂いた。他個別に随時広報をさせていただいた。

・虐待予防パンフレットについては家族からの新規相談時や、家族支援の際、虐待疑いのケースに訪問する際、安心登録の介入時等、個別に配布させて頂き、初回相談のルーティンになっている。パンフレットの中にあるチェックリストが家族と面談

する際、使い易いということと虐待という言葉が殆ど使われていないので、とても使い易いと感じている。また、圏域内に新規に開設された「わくわくさん」デイサービスの運営推進会議で配布し、養護者支援や早期通報、虐待対応時の協力依頼についてお話しさせていただいた。

- ・成年後見制度についてはうはら多機能ホーム、東灘リハビリデイサービス、すぎちゃんデイサービスの運営推進会議にて広報物を配布、後見だけでなく、意思決定支援に関わる資料（「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」「神戸市エンディングサポート事業のご案内」「高齢者等終身サポート事業者ガイドライン」）を配布し、説明させていただいた。

- ・2/12 にコープくらしの助け合いの会の依頼を受け、司法書士と協働で成年後見の講演をさせていただいた。2/25 の事業者連絡会ではライフサポートセンターひょうごをお招きして、「身元保証制度・任意後見制度」をテーマに講演、グループワークも実施した。

2. 認知症サポートネット「お魚の会」の更なる推進

甲南商店街にて 7 回イベント開催し、子供達に認知症クイズを出し、認知症や高齢者への対応を知って頂いた。またそのご家族様に、認知症対応方法や高齢者の相談窓口であるセンターの事を記載したチラシや若年性認知症の講演会のチラシ等配布し広報できた。

- ・健康寿命延伸の推進に関する業務（神戸市年間 85 万円委託料あり）

- ・6/11:フレイル予防支援事業「元気いきいき講座」を横屋会館にてシンコースポーツによるフレイルチェックと健康体操を実施。24 名参加。

- ・魚崎北町の校北公園にて毎週水曜日の 9:30 からラジオ体操を実施。5～15 名参加。偶然通りかかったご夫婦が参加されたこともあり、活動そのものが広報の種まきにもなっている。

- ・北青木地域の西青木総合会館で「シニア元気相談会」を毎月第 3 水曜日午前開催し、相談だけでなく、神戸市の元気いきいき体操も一緒に実施。通常時は 2～8 名参加。イベントも実施した。

6 月「健康チェック」東神戸病院互助組合との共催：30 名の参加

10 月「防災について」防災福祉コミュニティ、デイサービス管理者、障害者福祉事業所管理者、地域住民、計 5 名の参加。

3. 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議等を開催していく。

（神戸市から年間最高 50,000 円開催経費あり。）

- ・10/2：第 1 回「地域ケア会議」「～プロジェクト甲南～甲南地域の活性化を図っていきう♥」をテーマに開催。23 名参加。「甲南商店街フェスタ」や「ゆるーくつながるお楽しみ会」で気軽に楽しめる場所、つながる場所、情報提供の場、等々の目的で複数回活動してきた。10/2 の地域ケア会議は、11/23（土）に「コープ甲南と商店街の通り沿いとアズリック東灘甲南デイサービスで何をしよう！」「一緒に活動する仲間をどうやって増やしたらいい？」のテーマでグループワークを行った。3 ケ所で、スタンプラリーをする。アズリック東灘で体力測定や太極拳をする事に決まり、地域、お店、介護事業所など介護

関係者もプロジェクト甲南の一員となり開催できた。

・3/26：第2回「地域ケア会議」「今までの生活ができなくなった時、家族全体を支えるには」～相談されたらどうする？」をテーマに個別事例検討会を行った。29名の参加。「①この事例についてどう思いますか。素朴に感想を共有しましょう。②この事例の課題は何だと思いますか。③娘様の立場でどんな支援があったら、助かりますか。」をテーマにグループワークを実施し、ワークの内容を全体で共有した。医療、介護の連携の大切さ、また事業所内でのチームワーク。認知症の理解を関係者に広める事の大切さ。ヤングケアラーに目を向け対応する事の大切さ等を共有する事ができた。

・包括的継続的ケアマネジメント（ケアマネ等支援）

- ・東灘区あんしんすこやかセンター合同主催にてケアマネ支援の立場から研修会実施。
 - ・8/2：「難病支援の理解を深める」難病について学び専門職が支援できること～ 62名参加
 - ・9/11：「生活困窮者の支援を学ぶ」くらしを支援する制度を理解しよう 55名参加。
 - ・11/21：「災害時の口腔ケアについて～能登地震での経験から実践的なお話～」32名参加
 - ・2/19：「障害福祉サービスから介護保険移行について学ぶ」58名参加
 - ・2/25：事業者連絡会開催。
- 「身元保証・任意後見について」の講義の後、グループワークを行った。参加者 15名

4. 地域での見守りと居場所づくりや地域活動を後方支援する。

- ・地域活動の「かしまし処」「Let's ゴー体操」「うおざきご近助さん」「東灘こどもカフェ」の後方支援を実施継続している。「Let's ゴー体操」はボランティアメンバーの体調不良あり今年度で終了となった。一方で、魚崎地域でつどい場として「すまいるサロン YOGA FOR ALL」の立ち上げ支援、後方支援を行っている。
- ・「サロンさかなちゃん」は、フレイル予防や情報提供など魚崎南部あんしんすこやかセンターと連携し後方支援を行った。
- ・法人事業としてラジオ体操を地域貢献にて継続している。
- ・プロジェクト甲南ネットワークでは、「にぎわいフェスタ」や「ゆるーくつながるお楽しみ会」にてコープ甲南、商店、福祉事業と連携してイベントを開催し、情報提供、多世代交流、つながりのきっかけづくりを行っている。（「魚崎つどいばめぐり」への支援は、プロジェクト甲南の活動と合流している。）
- ・シニアクラブの総会やイベントにてフレイル予防やあんしんすこやかセンターについて広報行い、相談窓口として認識して頂けるよう活動を行っている。

5. 介護リフレッシュ教室の開催（神戸市より基本 1 開催 2 万と講師料・会場費 1 回 1 万円上限、年額 6 万円を上限。委託料あり。）

介護者を対象にした介護リフレッシュ教室企画開催

- ・4/19：「チェアヨガ」＋茶話会 8名参加。
- ・7/29：「サマーミニコンサート」＋茶話会 21名参加。
- ・10/15：「フラワーアレンジメント」＋茶話会 8名参加。
- ・1/16：「香港呉式太極拳でリフレッシュ」＋茶話会 7名参加

毎回企画イベント後に講師も交えて交流する時間を設け、介護者同士お話しすることや思いについて共有する時間を作って、リフレッシュして頂いた。

6. 介護予防マネジメント 総合相談支援

令和 7 年 3 月末現在、サービス利用者 235 件（受託 186 件、委託 49 件）（前年比 103%）委託割合 26%。委託事業者（当法人含む）契約件数 14 件。介護予防支援 165 件。総合事業 70 件。新規件数 92 件。要介護に移行した件数 31 件。中止件数 58 件。

表. 1 R6 年度 収支報告 (単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	前年度比
1 前年度収入	754	9,268	779	793	8,686	765	21,045	
2 今年度収入	912	25,026	878	839	856	884	29,398	139%
3 前年度支出	2,080	1,959	4,038	1,948	2,000	2,102	14,127	
4 今年度支出	2,119	1,984	4,025	2,083	2,046	2,076	14,335	101%
5 前年度収支差額	-1,326	7,309	-3,259	-1,155	6,686	-1,337	6,918	
⑥今年度収支差額	-1,207	23,042	-3,147	-1,244	-1,189	-1,191	15,062	217%

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計	前年度比
6 前年度収入	850	806	8755	855	871	870	34,052	
7 今年度収入	900	876	926	933	883	905	34,821	102%
8 前年度支出	2,216	2,019	3,978	1,984	2,101	2,435	28,860	
9 今年度支出	2,268	2,124	3,979	2,089	2,062	2,974	29,811	102.6%
10 前年度収支差額	-1,366	-1,213	4,777	-1,129	-1,230	-1,565	5192	
⑥今年度収支差額	-1,368	-1,248	-3,052	-1,156	-1,179	-2,069	5,010	96.5%

昨年度までは、神戸市からの委託費が、年間 3 回に分けて 5 月、8 月、12 月に支払われたが、今年度は、5 月に一括で支払われた為、上半期は収入が多い。介護予防マネジメントは、サービス利用者が、3 月末 235 件で、去年より 11 件増えている事で、昨年より 769000 円収入増となっている。